Osaka Medical and Pharmaceutical University Faculty of Nursing

大阪医科薬科大学看護学部

Osaka Medical and Pharmaceutical University Graduate School of Nursing

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科

年 報
2022年度

Annual Report 2022

大阪医科薬科大学看護学部・大阪医科薬科大学大学院看護学研究科　2022 年度年報　目次

はじめに

Ⅰ．沿革……2

Ⅱ．看護学部
１．教員組織
1）教員構成および教員数……4
2）教員の補充について……4
２．年間事業
1）活動内容……5
2）2022 年度看護学部予算執行額……6
3）学生在籍数……6
4）学事一覧……7
３．運営と教育活動
1）運営組織……9
2）センター
（１）看護学実践研究センター……10
（２）看護学教育センター……14
（３）看護学学生生活支援センター……22
3）委員会
（１）カリキュラム委員会……29
（２）カリキュラム評価委員会……33
（３）実習委員会……35
（４）ウェブサイト委員会……38
（５）看護研究雑誌編集委員会……39
（６）予算委員会……40
（７）物品管理委員会……41
（８）就職支援委員会……44
（９）国家試験対策委員会……46
(10) 看護学部年報編集委員会……51
(11) 看護学部広報委員会……52
(12) 国際交流委員会……53
(13) 障がい学生支援委員会……57
(14) 看護学分野別評価ワーキンググループ……58
(15) 本学部看護学生を対象とする研究審査会……59
4）教育活動
（１）授業科目一覧……60
（２）各分野の教育活動……64

Ⅲ．看護学研究科
１．教員組織
1）教員構成および教員数 …… 80
２．年間事業
1）活動内容 …… 80
2）2022 年度看護学研究科予算執行額 …… 81
3）学生在籍数 …… 82
4）学事一覧 …… 83
３．運営と教育活動
1）運営組織 …… 85
2）委員会
（１）看護学研究科大学院委員会…… 86
（２）看護学研究科カリキュラム委員会…… 94
（３）看護学研究科カリキュラム評価委員会 …… 96

3）教育活動
（１）博士前期課程
①授業科目一覧…… 97
②修了者学位論文タイトル一覧……101
（２）博士後期課程
①授業科目一覧……102
②修了者学位論文タイトル一覧……103

Ⅳ．研究活動
１．研究実績
1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 ……106
2）各自の業績（外部資金獲得除く） ……110

Ⅴ．社会活動……134

Ⅵ．地域・社会貢献……144

Ⅶ．その他……148

はじめに

2022 年度，看護学部は 82 名の卒業生を輩出し総数 854 名となり，大学院では博士前期課程 8 名，博士後期課程 4 名の修了生を輩出し，総数で前者 57 名，後者 36 名となりました．2020 年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，様々な活動の自粛は，教育研究体制の大幅な変更を余儀なくされ，新たな教育方法や研究手法を開発することにも繋がりました．それらは，例えば，2023 年 3 月現在，教育においては ICT の活用によるアクティブラーニングの推進, 自学自習の習慣化などであり, 研究においてはデータ収集方法の多様性が挙げられます．また，この約 3 年間は，ICT を如何に取り入れていくか，各教職員が試行錯誤をした年月でもあったと思います．そうした中でも，学生は環境の変化に素早く適応していき，ICT ならではの学習方法をプラスにし，学びを深めることに役立てるようになっていきました．

また, 2022 年度は本学部開校後初めて看護学教育評価受審という大きな質的評価を受けることになりました．受審に向けて約 3 年前から点検・準備を行い，教職員が一丸となって取り組んで参りました．その結果，2023 年 2 月に特段問題となる指摘はなく，「適合」という受審評価を受けることができました．これも看護学部全体での取り組みの成果といえます．

最後に，2022 年度から新カリキュラムが開始となって，1 年生の早い時期に，地域・在宅実習が始まり，4 年間で学ぶことが地域社会の対象者にどのように活用できるのかを体験することになりました．それは看護職が地域社会で様々な職種として活動し，多職種と協働しているのかを実感するよい機会となるため，これからの 4 年間で学ぶ意義をつかみ取ってくれることは，今後の学習意欲にもつながると考えます．どんな時も自分の頭で考え，行動できる看護職であることを学ぶことができるよう，教職員一同支援していく所存です．

看護学部長
看護学研究科長
赤澤　千春

Ⅰ．沿革

沿革

1927	（昭和　2）	年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927	（昭和　2）	年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929	（昭和 40）	年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946	（昭和 21）	年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946	（昭和 21）	年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948	（昭和 23）	年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951	（昭和 26）	年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952	（昭和 27）	年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952	（昭和 27）	年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959	（昭和 34）	年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965	（昭和 40）	年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978	（昭和 53）	年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982	（昭和 57）	年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009	（平成 21）	年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010	（平成 22）	年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012	（平成 24）	年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013	（平成 25）	年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014	（平成 26）	年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設
2016	（平成 28）	年	4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併，新法人「学校法人大阪医科薬科大学」設立
2021	（令和　3）	年	4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の統合により大阪医科薬科大学に名称変更

Ⅱ．　看護学部

1. 教員組織

1)　教員構成および教員数

教員定員は 41 名である.

令和 5 年 3 月 31 日現在

領域	分野	教員構成（カッコ内は定員数）				
		教授	准教授	講師	助教	合計
実践支援看護学	基礎看護学	1　(1)	3　(2)	0　(0)	1　(2)	5　(5)
	看護教育学	1　(1)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	1　(1)
	人文社会学	1　(1)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	1　(1)
療養生活支援看護学	急性期成人看護学	1　(1)	1　(1)	0　(0)	1　(1)	3　(3)
	慢性期成人看護学	1　(1)	1　(1)	0　(0)	1　(1)	3　(3)
	精神看護学	1　(1)	1　(1)	0　(0)	1　(1)	3　(3)
	老年看護学	1　(1)	1　(1)	0　(0)	1　(1)	3　(3)
	がん看護学	1　(1)	0　(1)	0　(0)	1　(1)	2　(3)
	臨床医学	2　(2)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	2　(2)
地域家族支援看護学	小児看護学	1　(1)	1　(1)	0　(0)	1　(1)	3　(3)
	母性看護学・助産学	1　(1)	0　(3)	2　(0)	2　(1)	5　(5)
	在宅看護学	1　(1)	1　(1)	1　(0)	0　(1)	3　(3)
	公衆衛生看護学	1　(1)	0　(3)	1　(0)	1　(1)	3　(5)
	社会医学	1　(1)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	1　(1)
計		15 (15)	9　(15)	4　(0)	10 (11)	38 (41)

令和 4 年度の教員の異動は下記の通りである.

【採用】

令和 4 年 4 月 1 日付で，教授 1 名（慢性期成人看護学）を採用した.

令和 4 年 4 月 1 日付で，准教授 1 名（小児看護学）を採用した.

令和 4 年 4 月 1 日付で，助教 3 名（母性看護学・助産学，公衆衛生看護学）を採用した.

【退職】

令和 3 年 3 月 31 日付で，教授 2 名（慢性期成人看護学，公衆衛生看護学）が退職した.

令和 3 年 3 月 31 日付で，准教授 3 名（がん看護学，小児看護学，公衆衛生看護学）が退職した.

【非常勤教員の採用】

令和 4 年 4 月 1 日付で，2 名（急性期成人看護学，公衆衛生看護学）を採用した.

令和 4 年 11 月 1 日付で，1 名（基礎看護学）を採用した.

【実習補助員の採用】

基礎看護学（1 名），老年看護学（1 名），小児看護学（1 名），母性看護学・助産学（1 名）の各実習期間内で不定期雇用した.

2)　教員の補充について

教員の欠員に対しては，教授，准教授，助教を採用した．教員の定員数が充足している領域においても，必要に応じて各領域で実習補助員を雇用した.

2. 年間事業

1)　活動内容

看護学部では表に示すように各センターや委員会が年間計画を立案し，教育および研究の向上を目指し事業を実施している．2022 年度に実施した主な事業を報告する．

(1) 教育活動について

教育活動に関しては，3 年目に入る新型コロナウイルス感染症の流行により，感染状況に応じた講義形式の変更が求められたが，早め早めに対応し，オンデマンド形式，リモート形式，教室を分けての対面形式，登校と自宅とのハイブリット形式など，新型コロナウイルス感染症の流行に応じてフレキシブルに講義形式の選択に対応できた．臨地実習は本年度も，ほとんど臨地での実習が可能であった．これは学生内で感染者が出ないように，看護学学生生活支援センターが日常生活の過ごし方から大学内での座席位置，朝食の摂り方まで細心の注意を払った成果でもある．

新型コロナウイルス感染症の影響で FD 活動や教育講演の企画などの多くがハイブリット開催となった．また，学生の海外研修の受け入れは昨年に引き続いて中止となったが，派遣に関しては2023年3月に2名の学生がミネソタ大学マンケート校に約2週間の研修に行くことができた．

学生への対応では，2018 年度より実習委員会と看護学学生生活支援センターが主となり，障がいのある学生に対する合理的配慮に基づいた対応を行っており，2022 年度も特に問題なく終了するに至った．また，実習のみならず他の講義演習でもこのような支援要望が増加してきているため，本来の定義に沿った内容か否かを慎重に検討した．

入試制度に関して，2020 年度から従来の特別奨学金貸与推薦入試制度（専願制）を廃止し，同年度から新たに「建学の精神入試」（専願制）を導入している．これは様々な潜在的能力を有し，入学後の学修に対する強い意欲を持つ学生（社会人を経て学び直しを志す者，地域医療に貢献したい者，科学や芸術などで優れた能力を持つ者などの多様な人材など）を育成するための総合型選抜入試である．2023 年度入試では 8 名の応募に対し，論文試験と面接を経て 3 名の合格となった．また，すべての入試制度において受生が全体的に減少してきていることと，2 科目入試や 3 科目入試などを重複して合格している受験生がおり，入学手続きで意思確認をするのが 3 月ぎりぎりとなってきていることも問題となっている．そのため，次年度からは指定校推薦と推薦（専願）の入学者数を増やすこととなった．

(2) 研究活動について

文部科学省科学研究費に関しては，多くの教員が申請し，2022 年度の保持率は 85%となった．また，民間助成にも 2 名が採択されている．

平成 29 年度文部科学省『私立大学研究ブランディング事業』の「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業は終了した．

(3) 社会貢献について

看護学部の事業としては，看護学実践研究センターが主となり，例年市民看護講座，人材育成講座「カムカムサロン」を健康啓発活動として開催している．市民看護講座では「エンドオブライフ：いのちの最終段階を共に考える」と「生が終わる時まで自分らしく生きるために　～その日は突然に～」というテーマでハイブリット開催し，参加者 160 名で盛況な開催となった．また，

大学病院看護部，三島南病院看護部，訪問看護ステーションと看護学部で文部科学省令和 3 年度「DX 等成長分野を中心とした就職・就職支援のためのリカレント教育推進事業」の採択を受け「潜在看護師の就職・復職を応援するリカレント教育プログラム」を開催した．本事業を実施するにあたり，看護キャリアサポートセンターを設置いただいた．

（4）管理・運営全般

①教員の質担保について

教員各自の意自己点検と年報による業績報告によって自己評価を行っている．

②カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会について

詳細は委員会報告で述べている．看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするためのカリキュラム評価委員会は外部委員を入れて初めての評価を行った．詳細は委員会報告で述べている．このようにカリキュラムについての PDCA サイクルが実行される体制が整っている．

③教育環境整備

新型コロナウイルス感染症によりオンデマンド，リモートの活用が必要となり，それらが行える授業支援システムが新しくなった．

④看護学分野別評価

2022 年度の看護学教育評価受審を行った．12 月に「適格」の評価を受けた．

（5）教育環境整備

新型コロナウイルス感染症感染拡大に対しハイブリット講義ができる体制を整えた．

2） 2022 年度看護学部予算執行額

予算執行額　　83,175,302 円

【内訳】

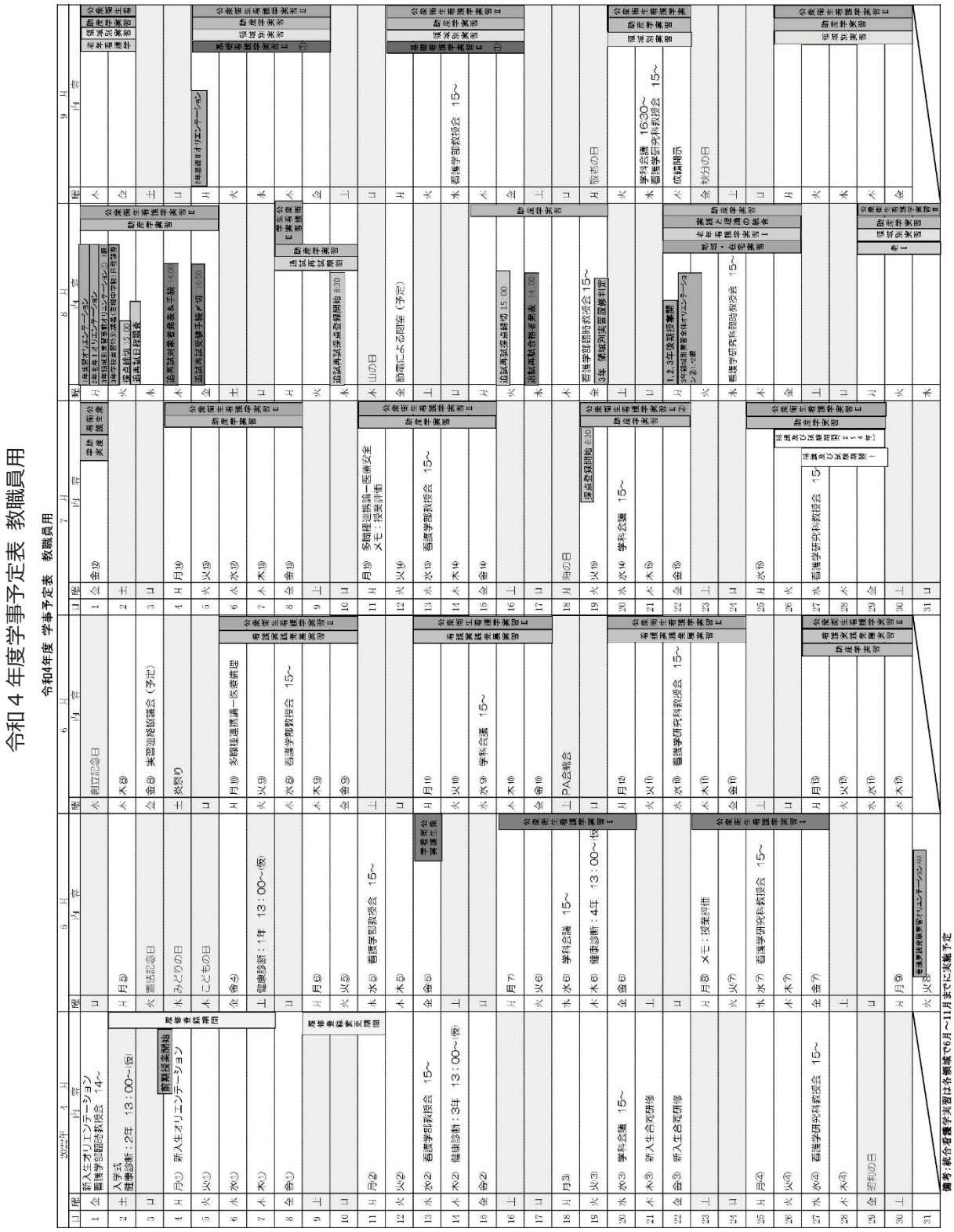
看護学部教育経費	71,175,302 円
看護学部奨学金経費	12,000,000 円
看護学部研究活動経費	0 円

3） 学生在籍数

2023 年 3 月 1 日現在

学年 （入学定員）	1 年 （85）	2 年 （85）	3 年 （85）	4 年 （85）	合計 （340）
男	0	2	1	3	6
女	88	91	87	80	346
計	88	93	88	83	352

4）　学事一覧


令和４年度学事予定表　教職員用
令和4年度　学事予定表　教職員用
2022年　4月
5月
6月
7月
8月
9月
備考：統合看護学実習は各領域で6月～11月までに実施予定

令和４年度学事予定表　教職員用

令和4年度 学事予定表　教職員用

10　月

日	曜	内容
1	土	
2	日	
3	月	月① 4年後期授業開始
4	火	火①
5	水	水①
6	木	木①
7	金	金①
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	火②
12	水	水② 看護学部教授会 15～
13	木	木②
14	金	金②
15	土	解剖慰霊祭
16	日	
17	月	月②
18	火	火③
19	水	水③ 学科会議 16:30～
20	木	木③
21	金	金③
22	土	大学祭
23	日	
24	月	月③
25	火	火④
26	水	水④ 看護学研究科教授会15
27	木	木④
28	金	金④
29	土	
30	日	
31	月	月④

11　月

日	曜	内容
1	火	火⑤
2	水	水⑤
3	木	文化の日
4	金	金⑤
5	土	
6	日	
7	月	月⑤
8	火	火⑥
9	水	水⑥ 看護学部教授会 15～
10	木	木⑤
11	金	金⑥
12	土	
13	日	
14	月	月⑥
15	火	火⑦
16	水	水⑦ 学科会議 16:30～
17	木	木⑥
18	金	金⑦
19	土	
20	日	
21	月	月⑦
22	火	火⑧ メモ：授業評価
23	水	勤労感謝の日
24	木	木⑦
25	金	金⑧
26	土	
27	日	
28	月	月⑧
29	火	火⑨
30	水	水⑧ 看護学研究科教授会15
31		

12　月

日	曜	内容
1	木	木⑧
2	金	金⑨
3	土	
4	日	
5	月	月⑨
6	火	火⑩
7	水	水⑨
8	木	木⑨
9	金	金⑩
10	土	
11	日	
12	月	月⑩
13	火	火⑪
14	水	水⑩ 看護学部教授会 15～
15	木	木⑩
16	金	金⑪
17	土	
18	日	
19	月	月⑪
20	火	火⑫
21	水	水⑪ 看護学研究科教授会15～ 学科会議 16:30～
22	木	木⑪
23	金	金⑫
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

2023年　1　月

日	曜	内容
1	日	元日
2	月	振替休日
3	火	
4	木	水⑫ 4年採点締切 メモ：シラバス入力開始
5	木	木⑫
6	金	金⑬
7	土	
8	日	
9	月	成人の日
10	火	火⑬
11	水	水⑬ 看護学部教授会 15～
12	木	木⑬ 卒業発表 14:00～ ４年成績開示
13	金	金⑭
14	土	
15	日	
16	月	月⑫
17	火	火⑭
18	水	水⑭ 学科会議 16:30～
19	木	木⑭
20	金	金⑮ メモ：授業評価
21	土	
22	日	
23	月	月⑬
24	火	火⑮
25	水	水⑮ 看護学研究科教授会 15～ 看護学部教授会
26	木	木⑮
27	金	月⑭
28	土	
29	日	
30	月	月⑮
31	火	メモ：シラバス入力締切

2　月

日	曜	内容
1	水	
2	木	
3	金	次年度履修登録ガイダンス（新2年）14:40～仮
4	土	
5	日	
6	月	採点締切 15:00 追再試対象者開
7	火	追再試日程開
8	木	追再試対象者発表&追試再試受験手続 14:00 看護学部教授会 15～
9	木	追試再試受験手続〆切 16:50
10	金	
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	追試再試採点登録開始 8:30 学科会議 16:30～
16	木	助産師国家試験（予定）
17	金	保健師国家試験（予定）
18	土	
19	日	看護師国家試験（予定）
20	月	卒業論文提出（新4年）17～
21	火	
22	木	看護学研究科教授会 15
23	木	天皇誕生日
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	次年度履修登録ガイダンス（新3年）10.00～ 仮 追試再試採点締切 15:00 追試再試合格者発表 14.00
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

3　月

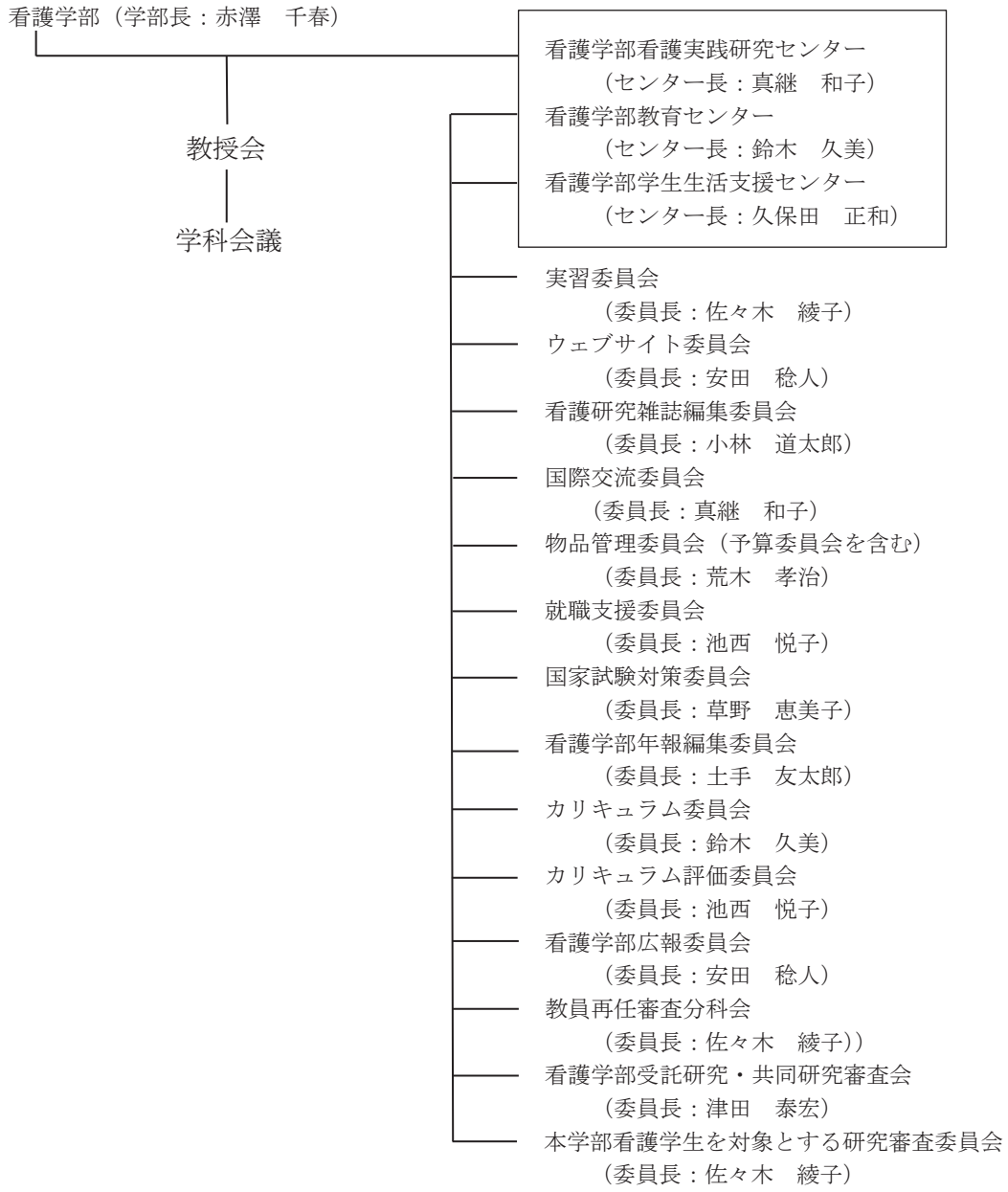
日	曜	内容
1	水	次年度履修登録ガイダンス（新4年）9～ 仮
2	木	卒業式（仮）
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	木	進級判定（2年→3年の 看護学部教授会 15～
9	木	進級発表
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	学科会議 15～
16	木	成績開示
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	春分の日
22	水	看護学研究科教授会 15～
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

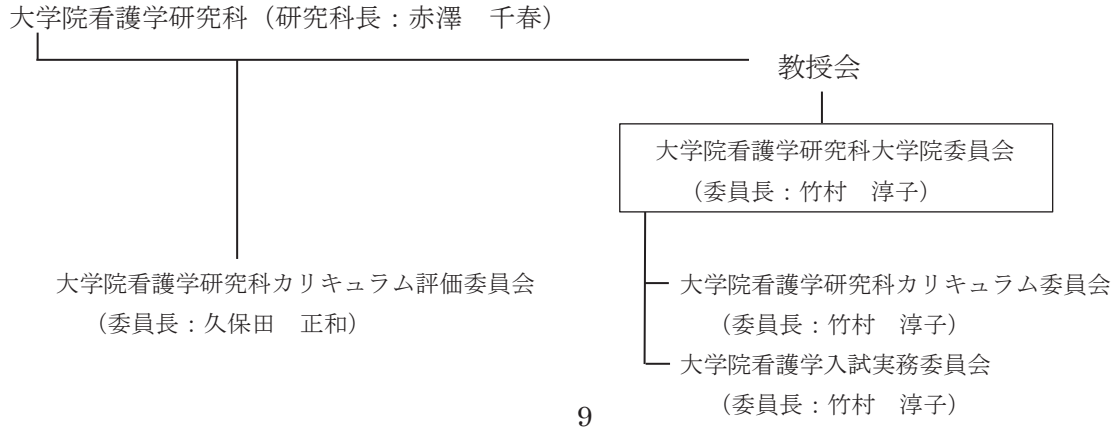
備考：基礎看護学実習Ⅰについては10月6日～12月16日の期間、毎週木曜日に行う

3. 運営と教育活動

1） 運営組織

（1）運営組織（センターおよび委員会組織図）





2)　センター

センター名	（1）看護学実践研究センター	SDGs との関連	
目的	本学部内，大学内をはじめ，外部機関および地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに，その成果を発信することを目的とする．		
構成員	真継和子（センター長），土手友太郎（副センター長），大橋尚弘，川北敬美，寺口佐與子，近澤　幸，赤崎芙美（10 月迄），土井智生，藤井智子（事務）		
活動計画	1. 3 学部に共通する研究推進・研究支援に対する役割の遂行 2. 研究支援 1）研究支援に関するアンケート調査の実施 2）大学病院看護研修セミナーへの協力 3）看護研究会の開催 3. 生涯学習支援 1）人材育成教育セミナー 2）看護キャリアサポートセンターへの協力 4. 地域貢献 1）COVID-19 ワクチン接種ボランティア活動 2）高槻フェスタへの協力 3）カムカムサロン 4）市民看護講座		
活動概要	看護学実践研究センター会議は全 11 回，開催した． **1. 3 学部に共通する研究推進・研究支援に対する役割の遂行** 本学研究機構の要請により，科研費獲得および研究設備・機器共有システムに関する調査を学部教員に依頼し実施した．学部の意見として，大型プロジェクトへの取り組みのための FD 開催，研究計画書作成への支援や新たな仕組みづくり等の必要性があげられていることを提示した． **2. 研究支援** 1）研究支援に関するアンケート調査の実施 研究支援活動の方向性を検討することを目的に，本学教員および大学院生を対象とした研究支援のニーズについて Google Forms を用いたオンラインアンケート調査を行った．教員 25 名（65.8%），大学院生 15 名（48.4%）の計 40 名からの回答が得られた．アンケートの結果，研究に関する困りごととして英語論文の執筆や研究計画の立案，研究のための時間の捻出などがあった．結果については，教授会や学科会議で周知した． 2）大学病院看護研修セミナーへの協力 3 年ぶりに大学病院看護研修セミナーへの協力事業として，下記のテーマで看護部のトピックス研修を 2 回実施した．		

活動概要	テーマ：印象に残る看護現象を事例研究としてまとめてみよう 日　時：1 回目　2023 年 2 月 16 日（木）17:30－18:30 　　2 回目　2023 年 2 月 28 日（火）17:30－18:30 場　所：歴史資料館，ハイブリッド 参加者：1 回目 25 名（対面 18 名，オンライン 7 名），2 回目 12 名（対面 9 名，オンライン 3 名） 今年度は，研究を身近に感じてもらうことと事例研究の推進に向けた第一歩の位置づけであることから，次年度以降も継続して実践研究センターを活用可能であることを伝えた． 3）看護研究会の開催 様々な研究成果や研究活動を共有し看護職の研究能力向上を図ること，看護実践等の課題に関する研究の推進と研究成果を発信すること，実践や教育，研究について意見交換や交流ができる場とすることを目的として，本学部教員，大学院生，本学看護部職員，近隣の看護職員を対象に，ハイブリッド形式で 2023 年 3 月 4 日（土）13:30～16:00 に開催した．対面参加者 30 名と ZOOM 参加 18 名が参加し，東京医科歯科大学の福井小紀子先生による講演「ビッグデータを活用した産学連携研究の進め方」と，研究交流会として本学看護部より 2 題，教員より 2 題の計 4 題の口演発表を行った．実施後のアンケートでは講演も研究交流会も，非常に満足度の高い会であったという回答が得られた． **3．生涯学習支援** 1）人材育成教育セミナー 地域の看護職者，大学院生および学生を対象に，自らのキャリアを俯瞰する機会となるよう「看護職が生き生きと働き続けるためのワーク・ライフ・バランス」をテーマとした講演会を 10 月 29 日（土）14:00～16:00 に開催した．講師には，東京女子医科大学病院看護部 山崎千草先生（急性・重症患者専門看護師）をお招きし，「私のキャリアヒストリー」と題し，ご自身の体験をもとにキャリアをどう積んできたかについてご講演いただいた．講演に先駆け，学部長の赤澤千春先生に「本学が目指すキャリア教育」，基礎看護学分野准教授の川北敬美先生に「看護職のキャリア開発」と題し，キャリアおよびワーク・ライフ・バランスの概念についてご講演いただいた．参加者は学内外で 42 名（会場 7 名，ZOOM35 名）であった．講演内容への満足度は高かったが，参加者拡大に向けての方策が必要である． 2）看護キャリアサポートセンターへの人材協力 看護職への学びの場を提供するため 2022 年 7 月に，法人直下による看護キャリアサポートセンターが発足した．2022 年度は潜在看護師の復職支援教育プログラムが実施され，本センターから 2 名の教員（大橋准教授，赤崎助教）をセンター員として協力派遣した．

活動概要	**4. 地域貢献** 1）COVID-19 ワクチン接種ボランティア活動 COVID-19 ワクチンの職域接種についてボランティアの派遣協力を行った．5 月に 2 名，8 月に 3 名，9 月に 2 名の教員の協力を得た． 2）高槻フェスタへの協力 看護学実践研究センター員 8 名の協力のもと，9 月 11 日（日）に開催された第 18 回たかつき NPO 協働フェスタに参加した．3 年ぶりの開催であったが，市民の健康チェック・健康相談（27 名参加），フレイルチェック（16 名参加），手指消毒・手洗い指導（34 名参加），静脈走行チェック（38 名参加）を実施し，市民との交流を図ることができた. 今後の課題としてさらに実演や展示物などを採用することや, ボランティアとして本学学生の参加を募ることなどが挙げられた． 3）カムカムサロン 10 月 26 日（火）11:00～12:00 にオンライン（ZOOM）形式にて 1 回，3 月 9 日（木）11:00～12:30 に対面形式にて 1 回，計 2 回開催した．第 1 回目のテーマは「食事と運動で生活習慣病予防」とし，在宅看護学分野准教授の大橋尚弘先生によるミニ講話を行った．参加者は 4 名であった．オンラインであったものの，質疑応答が活発に行われ，好評を得た．一般の高齢者はオンライン形式に不慣れな面もあり，事前に電話で ZOOM の使用方法を伝えるなど多大な時間を要した．第 2 回目は COVID-19 の感染状況が穏やかとなったため，本学部講義室にて対面形式で開催し，17 名の参加があった．ミニ講話では，基礎看護学分野准教授の川北敬美先生による「膝痛・腰痛予防について」を行った．感染予防対策として原則事前予約制とし，健康状態の把握を徹底した．参加者からは，次回開催を望む声が多く聞かれた． 3 月にはカムカムサロン継続に向けての意見聴取のため，学部教員を対象にアンケート調査を実施した．継続に前向きな意見がある一方で，教員の負担増や時間確保の困難さを懸念する意見がみられた．また，少数だがサロン運営の経緯や継続に対する疑問も聞かれた． 4）市民看護講座 メインテーマを「“自分らしいいのちの終わりかた”をいつ，どうやって選択するか　～もしもの時のために, あなたが望む医療やケアを一緒に考えてみませんか～」とし，10 月 29 日（土）10:00～12:30 に開催した．本学病院副院長の星賀正明先生より「エンドオブライフ：いのちの最終段階を共に考える」，同看護部看護職キャリア形成支援室の八尾みどり先生（急性・重症患者専門看護師）より「生が終わる時まで自分らしく生きるために　～その日は突然に～」をテーマにご講演いただいた．一般市民をはじめ医療関係者，本学教員など 160 名（会場 107 名，オンライン 53 名）の参加があった．アンケート（約 6 割が回答）では，ほぼ全員が「大変良かった」「良かった」と回答し，アドバンス・ケア・プランニングについて考える機会にすることができた．

評価	**1. 効果が上がっている事項** 1）COVID-19 感染への懸念もある中，講演会やセミナーなどハイブリッド形式とし，感染予防対策を講じながら対面で開催できたことは，参加者のアンケート結果からも好評を得ている．また，こうした機会を持つことの必要性や参加者のニーズを把握できたとともに，市民との交流を深める機会となった． 2）市民看護講座では，参加者 160 名と過去最高の参加があり，アンケート結果からも高評価であった．3 年ぶりの対面開催の効果もあるが，COVID-19 感染蔓延を経験した今だからこその話題性のあるテーマであった． **2. 改善すべき事項** 1）研究会やセミナーなど，卒業生や修了生の参加が少ない．多数が参加できる工夫が必要である． 2）生涯学習・研修支援・研究支援については，依頼先の意向との調整が必要となるが，開催目的・ニーズと感染拡大に伴う別の案の提示がさらに必要となる． 3）看護研究会の講演では，教員のみならず看護職員の研究能力向上も目指し，事例研究の進め方など実践的な観点からのテーマ選定も必要である．また，研究交流会での演題募集には依然として難渋している．当該年度内に口演発表をした教員には積極的に登録してもらえるよう，本研究会の位置づけについて検討していく必要がある． 4）カムカムサロンの継続については学部内でのコンセンサスが十分に得られているとは言えない．開催の経緯，開催目的の明確化，持続可能性を見据えた計画案を提示し，学部内での合意形成を図ることが必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1. 研究機構に属するセンターとして，学部間連携共同研究の強化・推進に取り組んでいく． 2. 学部の特性を活かした取り組みについて，他学部に発信していく． 3. 本センターでは，地域の医療機関・施設における看護の質向上をめざした活動を継続していくことが重要である．課題である研究支援については，今年度に実施した調査結果をふまえ，長中期的視点に立ち継続的に推し進めていく． 4. 学部同窓会活動の活性化を鑑み，看護研究会の組織化に向けた検討を進める．

センター名	（2）看護学教育センター	SDGs との関連	
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画，教育環境整備，多職種連携教育，授業評価，FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする．		
構成員	鈴木久美（センター長），小林道太郎（副センター長），安田稔人， カルデナス暁東，樋上容子，二宮早苗，竹　明美，山埜ふみ惠， 中野恵梨子（12 月まで），北川祐美，勝股　淳（1 月から）（看護学事務課）		
活動計画	1. 教育課程全般の運営 2. 教育センター担当科目の運営 3. FD 企画と実施 4. 多職種連携教育の運営と充実 5. 授業評価と改善 6. 実習ポートフォリオの実施 7. ティーチング・ポートフォリオの導入 8. 実習に関する事項 9. 教育環境整備の充実 10. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の整備と準備 11. その他		
活動概要	教育センター会議は全 12 回開催した． **1. 教育課程全般の運営** 1）　学事日程および時間割の調整 2022 年度は新型コロナウイルス感染症の増減に伴う 7 波・8 波により，文科省の通達および本学の基本方針に基づき，学生の安全と学修の質保証の確保の観点から，前期と後期の授業内容･方法等について看護学部の授業方針を策定した．また，コロナ感染症の状況に合せて授業方法や教室の収容人数，時間割調整を毎月行い，学生および常勤教員，非常勤・兼担教員に適宜周知した． 2）　ベストティーチャー賞の選出 ベストティーチャーの規定に沿い，各学年 1 名の計 4 名の教員選抜を行った． 3）　定期試験および不正行為への対応 定期試験において，学生生活支援センターとともに試験前に学生に不正行為に関する注意喚起を行い，試験時は各教室 2 名の試験監督を配置した．また，各学年の履修ガイダンスの時に懲戒規定および不正行為に対する事項を周知した． 4）　GPA の分析と平準化 2021 年度成績について科目の成績の平準化をめざし，カリキュラム委員会および IR 室と連携をして各学年の GPA や各科目の箱ひげ図を作成し，教授会で共有した．再試験の多い科目は科目責任者に振り返りを依頼し，授業改善につなげた．		

活動概要	5）　成績，進級，卒業判定と成績不良者への学生指導 　学生の成績，進級，卒業判定は各要件に基づき教授会で審議し適正に行った．また，GPA が 2.0（望ましい水準）未満の学生に対し，チューター教員等による学修指導を依頼・実施し，取り組みによって学生の改善がみられたか評価した． 6）　履修のてびきの見直しと作成 　看護学教育評価を受審し，指摘を受けた事項について履修のてびきを見直し，「教育課程の内容」「カリキュラムマップ」等の変更・追加を行い，各学年の履修ガイダンスの時に学生に周知した． 7）　シラバス作成要項の修正とシラバス点検の実施 　シラバス要領を見直しと項目の追加を検討し，それに基づいて次年度のシラバス作成を教員に依頼し，作成されたシラバスについて記載内容が適正であるかといった観点からセンター教員によるシラバス点検を実施した． 8）　各学年のオリエンテーション・履修ガイダンスの実施 　各学年で次年度履修ガイダンスを企画し，教育目標や 3 ポリシー，学事日程，各学年の履修科目や単位取得に関すること，学年別目標，変更点などを説明した．また，成績の意義申立てや懲戒規程について周知した．カリキュラム委員会で作成した学生向け e ポートフォリオ説明書およびアセスメントマップも説明した． 9）　英語教育の充実 　2022 年度入学生より，英語 I～IV のクラス分けを名簿順ではなく TOEIC 成績順で行うことが決定されていた．4 月 1 日新入生オリエンテーション時に，COVID-19 対策のため講義室 3 と情報処理室に分かれて TOEIC L&R オンライン受験を行った．その結果に従って英語 I・II のクラス分けを行った．英語 III・IV クラス分けのための 2 回目の TOEIC 受験は，新 2 年生履修ガイダンス後の 2 月 3 日から 20 日の間に自宅受験で行った．これらにより，学部生の英語能力の水準がはじめて他と比較可能な仕方で把握された． 10）　規程類の見直しと作成 　成績確定後に成績修正に関する申し出が散見されたため，「成績評価訂正に関する申し合わせ」と「成績評価訂正届」を作成し，6 月の教授会で審議・決定した．そして，成績評価依頼時にこれらを添付して教員に周知するようにした． 11）　教育年報の作成 　2021 年度の成績の解析結果と学勢調査の結果等を基にアセスメントポリシーに沿って 3 ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた．解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCA につなげた． **2．教育センター担当科目の運営と実施** 1）　卒業演習に関すること （1）　卒業演習の発表会の運営・実施

活動概要	2022 年度は 2～3 分野合同で報告会を運営し，他分野の研究に触れる機会にもなった．COVID-19 感染の影響下ではあったが，対面にて計 82 名の学生の研究発表は滞りなく実施できた．3 年生等は対面や ZOOM のいずれかの参加があった． （2） 卒業演習要項の作成と分野決定 卒業演習要項の基本的な様式に変更はなく，作成した．分野配置人数は例年通りの算出を行い教授会で微調整後決定した．卒業演習等オリエンテーションは対面で実施し，respon による分野配置希望の事前調査も行った．履修ガイダンス時に，予定通り respon を用いて混乱なく分野決定を行うことができた．学生の希望する研究内容等の集約をユニパ入力で行ったが，一部誤入力があり，学生に確認後修正を行い教員へ配信した． 2） 兼担教員科目の見学実習への対応 解剖学実習は予定通り実施できた．運営については解剖室との事前打ち合わせを強化する必要がある．地域救命救急の消防署見学は，3 日間に分割して滞りなく実施できた． 3） 保健師科目・助産師科目への対応 保健師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表をふまえたスケジュールを立て，スケジュールに沿って実施し，38 名を選抜した．また，助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表をふまえたスケジュールを立て実施し，スケジュールに沿って実施し，6 名を選抜した． **3．FD 企画と実施** 1） 全教員対象の FD 企画と実施 2022 年度は，COVID-19 を背景に学生の学内演習強化のためのシミュレーターを用いたシミュレーション教育の強化を目的に，2 回の全教員向け FD を開催した．第 1 回は 8 月 2 日（火）に「シミュレーターを使いこなして，看護実践力を育成する」と題して，研修会を開催した．参加者は学部 29 名，看護部から 2 名の参加であった．実施後アンケートでは，約 95%が本学のシミュレーション教育の展望や新規導入シミュレーターの活用イメージについて理解できたと回答し，約 30%が今年度または次年度の活用，約 35%が今後の活用に向け検討であった． 第 2 回は 3 月 2 日（木）に「シミュレーション教育の実際 ～模擬授業を通して学生目線から考える～」と題して，シミュレーターを用いた授業の具体的な展開方法について講演会を開催した．参加者は学部 29 名，看護部 2 名であった．実施後アンケートでは，シミュレーターを用いた授業設計運営等の実際について全員が理解できたと回答していたが，導入のための準備が今後の課題となることが予想された． 2） 新任教員対象の FD 企画と実施 2019 年度より開始した新任教員 FD は，新任を迎える年度に開催するため，今年度 2 回目の開催となった．また，今年度は，実施要領についても整備を進めた．

活動概要	2022 年度は新任教員 3 名を迎え，プランに則り開催した．3 月 2 日（木）に，「教育の質向上にむけた教育活動の振り返り」をメンター（教育センター委員）とともに実施した．ねらいは，新任教員の教育力に関する再自己評価と同職位間交流ならびにメンターとの振り返りを行い，新任教員の教員力（実習指導）に関する PDCA の実践と教員力の向上を目指すことである．また，この新任 FD プログラムの評価も行い，参加者の意見から適切性を確認したが，メンター員との交流の回数を増やしたほうがいいとの意見もあった．次年度はフォローFD と着任予定の新任教員の FD を実施する予定である． **4. 多職種連携教育の運営と充実** 1） 多職種連携教育科目への対応 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け，対面講義を中止し，オンライン授業あるいはハイブリッド式講義へ変更した．医・薬学部担当教員，看護学部事務担当者と綿密に情報を共有しながら，「医療人マインド」「医療倫理」のグループワーク（GW）（ZOOM による）のファシリテーター・レポート評価，「医療と専門職」の運営企画・コーディネート・GW（ZOOM による）のファシリテーター・レポート評価を担当した．「医療と専門職」GW の ZOOM による展開について，学生を対象にアンケート調査行い，対面式 GW を希望する学生が多かった．学生に各自の PC またはタブレット端末を準備してもらったため，前年度より PC 等の機器トラブルにより GW の進行への支障が少なかった．3 学部間の GW を通して多職種連携の重要性を理解した学生がほとんどであった．「多職種連携―臨床カンファレンス」は，母性・精神・急性・慢性の 4 分野での実施となった．慢性分野では新たな診療科を含めたカンファレンスの希望があり，医学部・薬学部との調整を図ったが診療科の体制やカリキュラムのため実現には至らず，薬看でのカンファレンスを推進することとなった．2 月末にまとめと評価を行い，アンケート評価では，「専門的知識の違いが分かった」「視点の違いに気付いた」等の質問項目 6 項目全てにおいて，「そう思う」「とてもそう思う」が 8 割程度を占めていた．「地域医療実習」は，今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け中止となった． 2） 多職種連携カリキュラム委員会への参加 3 回開催された多職種連携カリキュラム委員会に参加した．新型コロナウイルス感染拡大により講義の形式が昨年度と同様にオンラインあるいはハイブリッド式で展開した．本年度の学生の授業参加状況や新型コロナ感染状況の動向をふまえ，委員会では学生の授業評価方法，次年度の運営方法，GW の方法などについて提案し，検討した． **5. 授業評価・改善** 1） 学生の授業評価 各科目の終了時に，学生にユニパを用いた授業評価の実施を依頼した．昨年度より，事前に定めた各科目の評価時期に合わせて，看護学事務課から全教員に授

活動概要	業評価依頼のメール配信を行うシステムに変更されたため，今年度も同様の方法とした．評価時期は年度開始時に確認し，各科目の開講期間や試験実施期間に合わせて広く設けるようにした．学生の平均回答率は，前期・後期の授業評価が 58.7～61.0%，実習評価は 48.4～97.2%であった． 2）　教員の授業改善 　年度開始時に，学生の授業評価時期に合わせて授業（実習）改善報告書の記入・公開時期を確認し，2022 年素看護学日（授業（実習）改善報告書」実施要領を作成した．実施評価の公開期間に合わせて全教員に授業（実習）改善報告書の作成依頼を行い，その後学生に公開した．ただし，後期科目は実習科目の終了時期に合わせて学生の授業評価が行われるため，授業改善報告書の記載期間が短くなることを考慮し，終了時期の早い実習では授業評価後すぐに改善報告書を作成できるようにしたが，2 月末まで実習がある科目では改善報告書作成の期間が短期間となった．また，今年度より新カリキュラムとなったため，授業改善報告書のフォーマットを新科目に合わせて作成した． 3）　授業見学の推進 　今年度の授業見学として計 7 件の報告が上がった．報告者は教授，准教授，講師，助教と全職位であり，対面もしくはオンラインでの授業を見学し，自身の担当科目に参考になった旨の報告がなされた． **6. 実習ポートフォリオの実施** 　記入率・活用方法の向上を目的として，様式を見直し学年毎に 1 つのフォルダを作成しチューターがコメント入力する方式に変更した．全学年で実習前オリエンテーション時に，実習ポートフォリオの目的・記入時期についてのオリエンテーションを実施した．学生と教員を対象に全ての実習終了後にアンケートを行った結果，概ね実習ポートフォリオを活用して実習に臨むことができていた．特に，実習の学びが次の実習に継続できるといった意見が多かった．記入率は事前の目的・目標・課題までの入力率は上昇したが，事後評価や振り返りの入力率は低く課題である．看護基本技術経験チェックリストは，3 年次以外は実習終了時に 1 回，3 年次は領域実習の 4 クールと 7 クール終了の 2 回入力を促し集計を行った． **7. ティーチング・ポートフォリオの導入** 　今年度よりティーチング・ポートフォリオを導入した．「教育の責任」，「教育の理念」，「教育の方法」，「教育の成果」，「自己省察・今後の目標」の 5 項目とし，「教育の責任」「教育の理念」は 8 月末までに UNIPA 上で入力し，その他 3 項目は 1 月末の入力とした．一部のみの入力を含め活用率は 97.3%であった．「自己省察・今後の目標」といった振り返りまでの全体の活用率は 89.2%あった．今後の教育活動へ活かすために，各教員が入力した「教育の方法」は匿名化し 3 月の学科会議で報告した． **8. 実習に関する事項** 　新型コロナウイルスによる実習への影響は各分野での対応が可能な状況であった．各学生の実習状況，履修状況など実習委員会と情報の共有や連携を図った．

活動概要	**9. 教育環境整備の充実** 「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の採択に伴い，看護学部にハイブリッドシミュレーター（SCENARIO）およびデブリーフィングできる DX 装置（ふりかえ朗）を設置するために，6～7 月にセルフトレーニングコーナーおよび実験室の整備を行った．7 月に上記シミュレーターを設置後，セルフトレーニングコーナーを改め，実験室を「シミュレーションルーム」に名称変更し，関連書類やセルフトレーニングコーナー使用マニュアル等の見直しを行った．また，学生の看護技術向上を目的とし，統合実習前の 6 月，領域別実習前の 8 月，基礎実習終了後の 2 月にセルフトーニング企画として看護技術トレーニングを行う機会を設けた．6 月は 4 年生 13 名，8 月は 3 年生 56 名，2 月は 2 年生 11 名が参加し，フィジカルアセスメントや日常生活援助技術等のトレーニングを行った．参加した学生へのアンケート結果では，全員が「実習に役立つ機会となった」と回答し，定期的な開催を望む声が多かった．セルフトレーニング企画の様子は企画・広報課にて写真撮影および看護学部教育センターHP（ https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/center/education_center/of2vmg000000d53w.html）に掲載，随時更新した． **10. 新型コロナ感染症に伴うオンライン授業の導入と整備** 1） 4 月：2022 年 1 月以降の第 6 波のため，3 月中に 2022 年度 4 月の授業方針を策定し，学生・教員に周知した．密を避けるため，学年と曜日により，①講堂または 2 講義室（講義室間は ZOOM で接続）の対面授業，②対面と遠隔 ZOOM のハイブリッド授業，③全面遠隔 ZOOM のいずれかとして時間割表に明記した上で実施した． 2） 5 月以降：毎月の授業方針を UNIPA で学生に周知した．5 月からは 1 学年 1 教室による全面対面授業とした．ただし COVID-19 感染や濃厚接触，ワクチン副作用により登校できない場合は ZOOM による受講を認めることとし，当日朝 8:30 までに科目責任者に連絡するよう周知した．7 月以降は ZOOM 受講希望の連絡先を看護学事務課に一本化した． 3） 1 月：2022 年 11 月から第 8 波に入り，年末年始休み明けの状況が見通し難かったため，1 月 4 日の授業は ZOOM（または後日対面）に変更することを 12 月に決定し周知した．状況をみて，翌 5 日以降は予定通り対面授業を行った． **11. その他** 1） 私立大学等改革総合支援事業への対応（タイプ 1） タイプ1の獲得をめざし，看護学部で必要な要件が整っているか確認し，対応した．その結果，本学が選定された． 2） 2022 年度看護学教育評価受審に向けた対応 日本看護学教育評価機構による看護学教育評価の受審のため書類の作成を行った．実地調査は 10 月にオンラインで実施され，適合という結果が得られた．

評価	**1. 効果が上がっている事項** 1）教育課程全般に関すること 新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて，文科省の通達と本学の基本方針を基に「学生の安全確保と学修の質保証」の観点から前期および後期の授業に関する方針を策定し，学生，教員，非常勤教員に周知した．大きな混乱もなく，また平常時と学生の成績はほとんど変わることなく学修の質担保につながった． 看護学教育評価を受審したことにより，指摘された一部の課題に対応し，教育改善につながった． 2）授業評価と実習ポートフォリオに関すること 実習ポートフォリオの実施については，学年毎に変更したことで実習の学びが積み重ねることにつながっており，学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている，と評価している． 3）FD について ティーチング・ポートフォリオを導入し，本学部教員では高い活用率での運用となった．また各教員が入力した具体的な教育方法を全教員で共有することで，それぞれの教育理念を実現するための様々な工夫や取り組み，学生に対する姿勢などを理解し，今後の教育活動へ活かすことが期待される． 新任対象 FD のプログラム評価の聞き取りでは，職位が同じ仲間での意見交換は他領域の状況を理解したり，自領域の位置づけを考える機会ともなるのでよい，プログラムの妥当性や適切性を確認することができた． 今年度の FD 研修会は，教育方法の改善に向けたシミュレーション教育のテーマで開催し，シミュレーターを活用した授業設計の運営について教員の理解を促進することができた． 4）教育環境整備の充実 「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の採択に伴い，看護学部にハイブリッドシミュレーター（SCENARIO）およびデブリーフィングできる DX 装置（ふりかえ朗）を設置し，教育環境の整備ができた． **2. 改善すべき事項** 1） 教育課程全般に関すること 今年度より新カリキュラムを導入し，1 年生の学年平均 GPA は例年通りであったが，GAP2.0 未満の学生が多いことから，学生の学修指導の強化が必要である． 2） FD に関すること 新任教員の FD を実施し肯定的意見は得られたが，一方で実習期間中に学生との関わり等についてもやもや体験があり，メンター教員との交流の回数を増やしたほうがいいとの意見もあった．そのため，実施回数・時期に関しては検討する必要がある．

評価	3）　教育環境整備の促進 　ハイブリッドシミュレーター（SCENARIO）およびデブリーフィングできるDX 装置（ふりかえ朗）が設置されたが，実際の運用については準備にかかる時間等の課題も明らかとなった.
将来に向けた発展方策・課題	1．3 つのポリシーに基づくアセスメントの概要，各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿った各委員会と連携 2．GPA2 未満の学生への学修指導の強化および GPA の分析と平準化の促進 3．多職種連携教育の推進と他学部との連携強化 4．ハイブリッドシミュレーター等の活用の促進と充実

センター名	（3）看護学学生生活支援センター	SDGs との関連	
目的	看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし，学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学，大学生活への悩み，経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し，学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担うことを目的とする.		
構成員	久保田正和（センター長），池西悦子，津田泰宏，土肥美子，瓜﨑貴雄， 佐野かおり，倉橋理香，勝山あづさ		
活動計画	2022 年度の年間計画 1. 総代・副総代との連絡会 2. （チューター制度）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り 3. （学生調査）医学部看護学部合同の調査内容の見直し，実施 4. 奨学金支援 5. （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化 6. （学生からの要望に対する対応）意見箱の運用，懇談会の実施 7. （学生自治）学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決していくことの支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援 8. （新入生合同研修）3 学部合同参加への取り組み 9. ホームページの内容の充実 10. 学習環境の整備 11. 正課外活動ポートフォリオの充実 12. 3 学部連絡会議 13. 感染予防対策 14. その他（学外研修会，障がい学生関連，懲戒規程関連，学籍移動，学生生活ガイド修正，大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価）		
活動概要	**1. 総代・副総代との連絡会** 1) 新年度各学年総代･副総代の決定の支援および総代連絡会を実施した. **2.（チューター制度）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り** 1) チューターグループの編成：教員 2～3 名のグループにより，1～3 学年の学生 16～18 名を担当した. 各チューターグループの判断で UNIPA やメールでの連絡，ZOOM 等を用いた Web 面談なども活用し，学生との連絡を取り合った．4 年生は例年の通り，卒業演習担当教員とした. 2) 1～3 年生のチューター教員の組み合わせは下記の通りとした（表 1).		

活動概要

表 1．2022 年度チューターグループ（1～3 年生担当）

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	久保田，川北，柴田（11 月まで）	6	安田，杣木	11	佐々木，山埜
2	飛田，竹，倉橋	7	竹村，堀池	12	鈴木久美，二宮
3	宮島，樋上，大橋	8	津田，近澤	13	土肥，鈴木美佐
4	荒木，佐野，笹野	9	小林，赤崎（10 月まで），柴田（11 月から）	14	真継，土井
5	土手，寺口	10	草野，山内	15	池西，瓜﨑
				16	カルデナス，勝山，間中

3) チューター面談シート：4 月に，基本情報の項目として「健康面」を追加し，教員に対して，チューター面談シートの活用を呼び掛けた．

4) チューター活動評価：1 年間のチューター活動に関する評価のため，1 月に教員を対象としたアンケートを実施した．本年度はアンケート項目の見直しを行い，学年毎・学期毎に面談回数と相談内容を問うようにし，チューター編成に関する意見を求める項目を加えた．

5) チューター編成：3 月に，教員を対象にして，教育的配慮から引き続き担当した方がよい学生や担当を変更した方がよい学生に関する調査を行った．その結果と，1 月に実施したチューター活動に関するアンケート結果，次年度の教員組織の状況を考慮して，チューターグループの再編を行い，次年度は 2 グループを増やして，全 18 グループでチューター活動を展開することとした．

3.（学生調査）医学部看護学部合同の調査内容の見直しと実施

1）今年度から名称が学勢調査→学生調査となった．

2）学生調査および大学ランキング調査をWebで実施した．

3） 学生調査の1-4年の回収率は70.8～90.5%であった．回収率が上がるまで複数回に渡ってアナウンスを繰り返した．

4. 奨学金支援

1） 2022年度各種奨学金

2） 日本学生支援機構　学生等緊急給付金

3） 文部科学省　学びの継続のための緊急給付金

4） 看護学部給付奨学金について選考方法の変更（来年度）

5. （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続）

1） 保健管理室，実習委員会と連携して 4 種感染症，B 型肝炎ウイルス，インフルエンザワクチンの期限内接種を促した．

2） 学生の COVID-19 ワクチン接種と接種状況の確認を保健管理室と連携して行った．

3） COVID-19 感染症に対する対策として，健康観察票・行動記録票を配布し，

活動概要	発熱等の有症状の学生の把握と対応を行った. 4) COVID-19 陽性や濃厚接触者となった学生に対する対応（PCR，抗原検査，濃厚接触者の洗い出し，療養中の指導など）を保健管理室と連携して行った. 5) 2022 年度 1 年生のムンプスワクチン未接種の件で，課題があった．再発防止のために 2023 年度からのワクチン接種状況情報の流れについて確認した. 6) 実習前の抗原検査に関して，医系教員で連携して学生の自己測定の結果を確認した. **6.（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用，懇談会の実施** 1) 意見箱：月 1 回の開箱とした．今年度の投書は 1 件であった. 2) 学生懇談会：本年度は感染予防の観点から集合での懇談会は控え，各学年の総代・副総代を通じて意見を集約した. **7.（学生自治）学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決していくことの支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援** 1) 学友会役員は各学年の立候補者から選抜した. 2) 今般の感染状況と学生の状況にて謝恩会は開催せず，寄贈品の贈呈を実施した．次年度開催に向け，学生間で引継を実施した. **8. 新入生合同研修** 1) オンラインで 3 学部新入生合同研修を実施し評価した. 2) 次年度に向けて開催方法が検討され，対面で行うことを決定し，会場やプログラムの内容，チューターについて検討を行った. **9. ホームページの内容の充実** 1) ホームページを改変した. **10. 学習環境の整備** **11. 健康管理について** 1) PA 会助成により非接触アルコール消毒液を設置した. 2) 非接触型体温計を設置した. 3) 保健管理室，実習委員会と連携してインフルエンザ，新型コロナウイルスワクチン接種，抗原検査を行った. **12. 正課外活動ポートフォリオの充実** 正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期・後期に UNPA 配信を行った. **13. 学部との連絡会議** 1) 三学部との連絡会議に出席した. 2) 学生生活支援機構が発足され連絡会議は機構に吸収される形になった. **14. 感染予防対策** 1) 健康観察票・行動記録票：日々の健康状態や行動の記録がつけられるよう，健康観察票・行動記録票の作成と配布を行った．チューターとの連絡を通じて，学生の健康管理を支援した.

活動概要	2)　学内の環境整備：感染予防行動を促すポスターや案内表示の掲示を減らし，インパクトのあるポスターに変更した．玄関に自動体温測定器の設置，また教室出入口等各所に手指消毒剤の設置を行った． 3)　感染予防対策についてどのように取り組んでいくか，総代会を通じて学生からの意見を求めて集約を行った．総代副総代を中心に LINE や口頭で昼食時の黙食について注意喚起を行った． 4)　毎月新型肺炎対策に関する周知文を配信した． 5)　昼食時，黙食の徹底，実習時はフロアや演習室を昼食場所として全ての座席を指定席とし，アクリル板を設置した． **15. その他（学外研修会，障がい学生関連，懲戒規程関連，学籍移動，学生生活ガイド」修正，大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価）** 1)　学外研修会：新型コロナ感染症感染拡大の影響によりセミナーに参加できなかった． 2)　障がい学生関連：現支援システムを活用した． 3)　SNS，学割などの適切な使用に関して情報提供と具体的な取り扱いに関して随時周知した． 4)　懲戒規程関連：懲戒規程の内容を周知した． 5)　学籍移動について：学籍移動対応した． 6)　「学生生活ガイド」を修正した． 7)　大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価：2021，2022 年度学生生活支援センター各種行事等の PDCA シートを作成した．
評価	**1.　効果が上がっている事項** 1）総代・副総代との連絡会 （1）早期の段階で総代・副総代を決定し，総代連絡会にて学生からの意見集約・新型コロナウイルス感染対策を学生内で検討し，学生間での呼びかけにつながった． 2）（チューター制度）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り （1）チューター活動に関するアンケートの結果から，教員はいずれの学年の学生とも 1 年間を通じて定期的もしくは必要に応じて連絡をとり，面談を行うなどしてコミュニケーションを取っていたことが示されていた．また，チューター制度の困難として，「学生への対応の複雑さ」「時間がとられること」等が挙げられていたことから，次年度はチューターグループを増やして，1 グループあたりの担当学生数を減らすようなグループ編成とした． 3）（学生調査） （1）学生調査および大学ランキング調査を Web で実施した． （2）回収率が上がるまで複数回に渡ってアナウンスを繰り返し行い，1～4 年の回収率は（70.8－90.5%）であった． 4）（奨学金） （1）　希望学生はほぼ全員受給できた．対象学生の面談を行い全員適格であった． 5）（健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続） 6）（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用，懇談会の実施

評価	（1）48 件の要望（重複あり）が提出された．内 21 件は授業実施方法や評価・課題等に関する内容であり，教育センターからの回答も集約して，7 月に懇談会を ZOOM と対面のハイブリッドで開催した．懇談会の内容もふまえ最終回答を 10 月に UNIPA にて学生へ提示した． （2）1 件のコロナ対策に関する要望があり，学生全体へコロナ対策に対する周知を強化した． 7）（学生自治）学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決していくことの支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援 (1)学友会役員は各学年の立候補者から選抜することで各種行事への主体的な参加につながった． (2)寄贈品の贈呈と次年度以降謝恩会開催に向け，学生間での引継実施を支援した． 8）（新入生学外合宿） 3 学部合同でプログラムを実施した．COVID - 19 の影響により，オンラインにて全面遠隔で実施した．大きな通信障害なくプログラムを終了することができた． 9）ホームページの内容の充実 COVID-19 感染症の状況に応じて「コロナ基本方針・行動指針」を随時 HP に掲示した．また，コロナ禍でイベントが中止される中，7 月には七夕飾りを設置し，学生たちの様子を HP に掲載した． 10）学習環境の整備 （1）非接触型体温計の導入により学生のみならず，すべての入棟者に活用できた． 11）正課外活動ポートフォリオの充実 （1）正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期・後期に実施し，2/28 の集計結果では合計 275 名の入力があった．内訳は，1 年生 55 名（63%），2 年生 82 名（88%），3 年生 59 名（67%），4 年生 79 名（95%）であった． 12）3 学部連絡会議 （1）定例会議によって，三学部の学生生活支援に関する情報共有と合同の行事や学友会の運営を円滑に行うことができ連携できた． （2）年度途中から学生生活支援機構が発足されたため，連絡会は機構会議で行った． 13）感染予防対策 （1）日々の健康状態や行動の記録がつけられるよう，健康観察票・行動記録票の作成と配布を行った．チューターとの連絡を通じて，学生の健康管理を支援した． （2）学内の環境整備：感染予防行動を促すポスターや案内表示の掲示，手指消毒剤の設置，昼食時の教室の管理等を行った．昼食時の管理は総代，副総代を中心に，学生が自ら対策を考えるよう促した． （3）実習中の学生の昼食場所について，全て指定席とし，仮に感染が確認された時に後追いできるようにした．フリースペースや演習室にはアクリル板を設置し指定席の番号を付けた． 14）その他（学外研修会，障がい学生関連，懲戒規程関連，学籍移動，学生生活ガイド」修正，大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価）

評価	（1）学外研修会：オンラインセミナーに参加した（日本学生支援機構　令和３年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー）．学科会議で周知した． （2）障がい学生関連：対象学生は，1 年生 1 名，2 年生 1 名，3 年生 2 名であり，前期･後期において開催された 7 回の障がい学生支援委員会へ出席した． （3）各学年のガイダンス時周知した． （4）懲戒規程関連：各学年のガイダンス時周知した．・懲戒規程対象学生はなかった． （5）学籍移動について：休学 4 名であった（3 月末）．チューターが窓口になり，関係諸機関とも連携を取り対応した． （6）学生生活ガイド修正：障がい学生支援内容など追加した． （7）大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価：点検評価を行った． **2. 改善すべき事項** 1）総代・副総代との連絡会 （1）総代・副総代を決定と合わせて，次年度も総代副総代会を開催し，学生の意見集約，卒業関連役割分担・引継状況について確認を行う． 2）（チューター制度）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り （1）次年度，チューターグループ数を増やし，1 グループあたりの担当学生を減らしたことにより，チューター活動への影響を評価する． 3）（学生調査） （1）3 年生は，実習期間中の協力依頼であったため他学年と比較し入力率が低かった．有効な回収率を得るためには，時間割等を加味し，入力時間を確保した上での協力依頼および複数回の案内を継続する． 4）（奨学金）特別奨学金貸与規定変更に伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正 （1）　募集の周知と希望学生が受給できるよう，募集説明会，選考，手続きを行う． （2）　適格審査を次年度も継続する． 5）（健康管理）保健管理室との連携を一層緊密化する． （1）2022 年の看護学生の保健管理室の利用は 9 件，ベッド使用は 4 件であったので，引き続き活用してもらう． （2）実習前に必要な予防接種施行の確認と各種予防接種の期限内の接種を促す． （3）コロナ禍で精神健康度の低い学生が増加していたが，2022 年度は同学生の割合は減ってきているが，引き続き注視していく必要あり． 6）（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用，懇談会の実施 （1）懇談会の開催方法，結果の周知方法については次年度以降も検討し，学生が意見を出しやすいように方法を整備していく． 7）（学生自治） (1)学生の希望に沿って，学友会役員は各学年の立候補者から選抜し，謝恩会の開催･準備に当たって支援する． 8）（新入生合同研修） （1）次年度は全面対面での開催となるため，感染予防対策を行ったうえで，活発な学部間学生の交流の場となるようチューター教員とともに支援する．

評価	9）ホームページの内容の充実 （1）引き続き HP を通して COVID-19 感染症の状況に応じた感染対策の情報を発信する． （2）学生のメンタルヘルス向上に向けて明るいニュースを HP に随時掲載していく． 10）学習環境の整備 （1）引き続き活用してもらう． （2）滞りなく予防接種，検査を促す． 11）正課外活動ポートフォリオの充実 （1）正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期（7 月末頃）・後期（1 月末頃）に実施する． 12）3 学部連絡会議 （1）情報共有し，連携する． 13）感染予防対策 （1）次年度以降の感染状況をふまえ，引き続き学生の健康管理の促進と環境整備を行っていく． 14）その他（学外研修会，障がい学生関連，懲戒規程関連，学籍移動，学生生活ガイド」修正，大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価） （1）学外研修会：次年度も内容確認し，積極的に参加，共有する． （2）障がい学生関連：随時開催される障がい学生委員会に出席し対象学生の支援策を検討する． （3）懲戒規程関連：学生・教員に予防の必要性について繰り返し周知する． （4）学籍移動について：規程に沿って速やかに対応する． （5）「学生生活ガイド」修正：洗練する． （6）大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価： 明らかとなった各課題に対応する．2022 年度版も速やかに作成する．
将来に向けた発展方策・課題	1. チューターが安心して活動できるような環境，学生が相談しやすいような環境を整備する． 2. 外部各種団体の奨学金情報をタイムリーに学生に周知し，推薦者の選考に関して，獲得を目指して吟味する． 3. 保健管理室と情報共有を図り，コロナ禍対策を含めた学生の感染症等予防対策を強化する． 4. 障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり，講義・演習等における障がいのある学生に対する申し合わせ事項に沿って対応する． 5. 学生の自治活動推進のため，学友会活動への参加，新入生合同研修の充実，学年縦割りの交流の機会を設けるなどの運営ができるように支援する． 6. 学生が主体的に勉強し，安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う． 7. 学生が懲戒規程の対象とならないよう対策を教育センターと協力し予防する． 8. 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価による内部質保証を継続する．

3)　委員会

委員会名	（1）カリキュラム委員会	SDGs との関連	
目的	本学部の教育目標の下，カリキュラムの改善のために科目の設定や統合，教育内容，教育評価などの事項について PDCA を実施する．		
構成員	鈴木久美（委員長），小林道太郎，草野恵美子，飛田伊都子，安田稔人， 二宮早苗，竹　明美，中野恵梨子（12 月まで），長田紗季（看護学事務課）		
活動計画	1．アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握 1）　ジェネリックスキルテストの実施 2）　ディプロマポリシー基づく看護実践能力到達度調査の実施 3）　ディプロマサプリメントの運用と学生への説明 4）　アセスメントポリシーに基づいた分析 2．現行カリキュラムの運営評価の実施 1）　常勤教員を対象とした調査 2）　学生を対象とした調査 3）　卒業生を対象とした調査 4）　e ポートフォリオの導入の検討 5）　学生用アセスメントマップの検討 3．非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施 4．数理・データサイエンス・AI モデルカリキュラムの導入 5．IR 運営委員会との連携		
活動概要	・会議は合計 11 回開催した． **1．アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握** 1）ジェネリックスキルテストの実施 対象者（時期）は 2022 年度生（1 年次前期）および 2020 年度生（3 年次末）学生には批判的・協働的・創造的思考力と姿勢・態度，経験の個人結果レポートを活用し在学中の自己分析に役立てた．また自分の強みやアピールポイントを言語化することにより就活に活用を促し，チューターにも面談カルテ（アンケート追加）を配布し，指導の参考とした．学生は 1 年，3 年ともに結果説明の機会を作り，特に 3 年生に対しては就活でのテスト結果の活用方法について 2 月に説明会を行った．また，教員に対しても 9 月の学科会議で 1 年次生の結果の説明会をもち全教員でそれを共有し，教育改善につなげる場とした．IR 室と連携して，ジェネリックスキルテストの結果と GPA や実習の成績との関連性を検討する予定である． 2）　DP に基づいた看護実践能力到達度調査の実施 回答者数（回収率）は，1 年生 90 名（98.9%），2 年生 86 名（94.5%），3 年生 84 名（98.8%），4 年生 80 名（97.6%）であった．昨年同様，全学年ともに DP2 課題探求力の達成度が低い傾向にあり，項目 8「グローバリゼーション・国際化の動向		

活動概要	における看護のあり方について説明できる」は，4 年次においても 68.8%の達成度と他項目に比較し低かった．また，2 年生の到達度していない割合が 8 割未満である項目が全体の 52.4%（昨年度 11.3%）と顕著であった．3 年生については，DP2・3 において昨年度同学年と比して低くなっている項目が多く見られた．4 年生については昨年度と同様の結果であった．今後も継続して新カリキュラムによる影響を確認するとともに，各学年の特徴をふまえた対策が必要と考えられる． 3）ディプロマサプリメントの導入 2021 度より各学年の DP に基づいた看護実践能力到達度調査の結果を各科目の DP キーワードと成績を結び付け，自己評価・当年度 GPA・通算 GPA の学年平均と個人の結果をレーダーチャートで表示したディプロマサプリメントを本格導入した. 今年度は, 結果をマイステップに添付して, 学生が自身で自分の DP 達成度と課題を確認できるようにし, 各学生に活用方法について周知した. また, 新カリ科目および変更のあった旧カリ科目の DP キーワードを見直し, 次年度以降も継続した客観的評価ができるように改善した．今後は，教員が学生個々の達成度と課題を確認し，学修指導に活用していけるように周知していく． 4）アセスメントポリシーに基づいた分析 2021 年度の成績について IR 室に分析を依頼し，解析結果をアセスメントポリシーに沿って 3 ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた. 解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCA につなげた． **2．現行カリキュラムの運営評価の実施** 1）常勤教員を対象とした調査 常勤教員に，新カリキュラムに関して良かった点や改善を要する点についての意見を求めた（2023 年 2 月）．地域・在宅看護論や地域・在宅ケア実習は 1 年生から地域の生活者を支援する視点を学ぶ機会となっている，アカデミックスキルでのレポートの書き方が実習レポート作成に活かされている，病気の成り立ちはからだの仕組みと働き 2 と連動することができた，インタラクティブ・イングリッシュは他学部の学生と話す機会になっているなどが良い点としてあげられた．一方，国際交流演習は派遣についての情報共有が少し遅延したため，グローバルセンターや国際交流委員会の連携によりオリエンテーションを共催することや月曜に休日が多い都合上，水曜日の病気の成り立ちがからだの仕組みと働き 2 よりも先行する傾向にあるため検討を要するといった意見があった．さらに，今年度からの新カリキュラム全般については，国際交流演習を 1～4 年生に広く選択できるようにした点は良かったとする一方で，まだ変化を実感できないという意見が複数みられた． 2）学生を対象とした調査 1 年生全員を対象に新カリキュラムに関する評価アンケートを実施した（回収数：86，回答率 97.7%）．新設された教養系のアカデミックスキル，情報リテラ

活動概要	シー・データサイエンスは約 8 割の学生が設定科目として良かったと評価していた．専門系の地域在宅看護論ならびに地域・在宅ケア実習は，1~2 名の学生を除き良かったと評価していた．選択科目のくらしと社会，異文化論，インタラクティブ・イングリッシュ，医工薬連環科学遠隔講座は，受講した学生の 8~9 割が良かったと評価していた．2 年生から 1 年生に配置変更した 2 科目の変更の評価は概ね問題なかった．授業科目数は，前後期共に半数強が多いと回答し，若干の負担感はあるが，新カリキュラムは良好な評価であった．オンデマンド授業は 6 割強が増加を希望，通学都合から時間割配置改善についての意見もあり，1 日受講コマ数の平均化に向けた課題はあるが，選択科目配置の関係から本要望の調整には中長期的な検討が必要である． 3）e ポートフォリオの導入の検討 学生が自分の学修等の成果を確認できるようにするための e ポートフォリオ導入について検討した．Universal Passport の大規模システム更新が 2024 年度に予定されているため，別のシステムを導入することや UNIPA の大きな修正を行うことは難しいと考えられた．そのため現行の UNIPA で学生が各自確認できる情報やその利用方法を整理して「学生向け e ポートフォリオ説明書」を作成した．作成した説明書は 2023 年度履修ガイダンス時に学生に配布した． 4）卒業生を対象とした調査 就職支援委員会と共同し，2019～2021 年度卒業生および卒業生の就職先に対して，卒業生には在学中の教育内容やキャリアサポートへの満足度，就職先には重要とする看護実践能力や卒業生が入職時に修得できていた能力，本学の教育内容に関する意見等についてのアンケート調査を行った．卒業生 132 名（回答率 52.2%）から回答が得られ，自己評価が高かった項目は「看護実践や自己の成長のために，他者の支援を求めること」「チームの一員として自分の役割を認識した行動をとること」などであり，自己評価が低かった項目は「緊急時の対応をすること」「後輩や学生の指導をすること」であった．また，卒業生の就職先 26 施設（回答率 43.3%）から回答が得られ，本学の学位授与方針に関する 16 項目のうち，就職先での業務遂行に重要と思われる能力として，「生命の尊厳および人権の尊重」「コミュニケーション力」「ストレスコントロール力」「多様な価値観の尊重」「向上力と自己研鑽」「組織で働くための規律性」について多くの施設で重要と捉えていたことが示された． 5）学生用アセスメントマップの検討 2022 年度入学生から TOEIC 試験が開始されるなど，学生の調査等が多くなってきたため，これらの全体像がわかるように，いつどのような調査等が行われるかを示す資料として，学生用アセスメントマップを作成した．作成したアセスメントマップは，前年度作成した学年目標とともに，3）の「学生向け e ポートフォリオ説明書」に入れた．

活動概要	**3. 非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施** 非常勤，兼担教員を対象に「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度，日頃の学習行動」に関する意見調査を行った（2023 年 2 月）．21 名中 12 名（57.1%）から回答が得られた．学習態度は概ね良好であるが，一部の学生に積極性や授業態度が悪い等の課題がみられた．各科目では双方向授業など工夫されているが，オンデマンド等も含めた効果的な授業方法も検討していく必要がある． **4. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの導入** 大阪医科薬科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムは，昨年度実績をふまえて文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育認定制度（リテラシーレベル）」に応募し，2022 年 8 月に認定を受けた．看護学部では，2022 年度からこのプログラムの内容を一部変更した．すなわち，全員受講とするために必修科目の情報リテラシー・データサイエンスに実際のデータを扱う内容を含め，選択科目であるデータ処理演習をプログラムから外した．この変更について，大学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会より文科省に申請を行った． **5. IR 運営委員会との連携** カリキュラム委員会から担当教員 1 名が 2 か月に 1 回開催される IR 室運営会議に看護学部の IR 室看護学部担当兼任教員として出席している．委員会では IR 室への分析依頼の方法などについて検討を行った．2022 年 9 月には獨協医科大学との合同で本学において教学 IR セミナーが開催された．本セミナーで IR の活用や課題について医学部，看護学部，薬学部の教員との意見交換を行った．ジェネリックテストの多くのテストデータがあるため，これらと入学後の学力成績や実習成績，学生生活状況との関連を検討する予定である． **6. その他** 日本看護学教育評価機構による看護学教育評価の受審のため書類の作成を行った．実地調査は 10 月にオンラインで実施され，適合という結果が得られた．
評価	**1. 効果が上がっている事項** DP に基づいた看護実践能力到達度調査を全学年の学生に行ったこと，また GPA を活用したディプロマサプリメントを導入したことにより，学生が主観的・客観的に学修成果を把握でき，学修の動機付けとなっている．また，ディプロマサプリメントは，医学部や薬学部に先駆けて導入しているため教育機構会議や学部間教授会で高評価を受けている． 学生が自分の学修成果を確認できるようにするために「アセスメントマップ」と「学生向け e ポートフォリオ説明書」を作成し，学生に周知した． **2. 改善すべき事項** ディプロマサプリメントの導入は行ったものの，その活用が十分にされていないことが課題である．
将来に向けた発展方策・課題	1. アセスメントポリシーに基づいた 3 ポリシーの検証と教育改善への活用 2. ディプロマサプリメント活用の充実 3. 2024 年度に向けた e ポートフォリオの導入計画

センター名	（2）カリキュラム評価委員会	SDGs との関連	
目的	本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり，委員に複数の学外有識者および学生を含め多角的に評価を行うことで，自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準のさらなる向上を目指す．		
構成員	池西悦子（委員長），佐々木綾子，瓜﨑貴雄，北川祐美（看護学事務課）， 外部委員：瀧谷公隆（医学教育センター），永井純也（薬学部薬剤学研究室），細田泰子（大阪公立大学大学院看護研究科），近藤康子（高槻市保健所健康医療政策課），学生委員：河村まひろ，原田麻衣		
活動計画	1. 昨年度の振り返り 2. カリキュラムの評価方法の検討と決定 3. カリキュラムに関する評価項目と評価するための資料の検討および決定 4. 外部委員，学生委員，内部委員が共通に使える評価表の検討 5. 2021 年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 6. 報告書の作成と公開		
活動概要	1. 内部委員ワーキング会議は計 7 回開催した．昨年度報告書は HP で公開した． 2. 外部委員学生委員を含めた第 1 回カリキュラム評価委員会は，2022 年 9 月 21 日にオンラインで開催し，評価表の検討・決定を行った．前年度の課題を振り返り，単年度ではなく複数年度で継続した評価を行うことが重要と考えたため，評価項目，評価基準は昨年度を踏襲した．その上で今年度は，ディプロマポリシーにあるグローバルな視点，多職種連携教育の成果を評価するため，大項目 3.「過程」に「国際交流関係」「多職種連携教育」の項目を追加した．また，履修指導として学年全体に対するガイダンス，留年者への対応や保健師・助産師希望者に対するガイダンスを評価するため， 大項目 3.「過程」の資料として追加した． 3. 2022 年 12 月から 2023 年 1 月にかけて，外部委員，学生委員，内部委員が評価項目に対する評価を行い，2023 年 2 月 3 日開催の第 2 回カリキュラム評価委員会において，結果共有と意見交換を行った．委員会は，オンライン開催とした． 4. 今年度実施したカリキュラム評価結果とその総括および今後の課題を報告書にまとめた．本学看護学部教授会にて報告を行い，本学部教職員と評価結果の共有がなされた．		
評価	**1. 効果が上がっている事項** 1）評価結果 概ね PDCA がなされているという評価であった． 2）ガイダンスやチューター制度による学習支援 GPA が低迷している学生や留年生の学習支援をチューターが中心となり行っている．学年別 GPA の落ち込みは改善が見られているが，学習支援そのものの効果を点検・評価することが必要である． 3）今年度より薬学部教員が外部委員として参画され，外部委員，学生委員，内		

評価	部委員で評価項目について意見交換がされ，より多面的に本学部の強み・課題・対策を検討することが可能となった． **2．改善すべき事項** 1）COVID-19 が与える影響について 　食事場所の制限等が継続しているため，学部間で情報共有しながら，環境の改善を行うことが課題である． 2）ディプロマサプリの活用について 　活用開始間もないため，学生・教員間でサプリの存在や活用方法等が十分周知できていない．今後，活用方法等を周知して，評価していくことが課題である． 3）社会人としての資質・国際的視点について 　社会人としての資質・国際的視点を高めることが，課題として認識はされており，社会人としての資質についてはガイダンスに加え必要時に指導を行うこと，国際的視点については，現地への派遣に留まらずオンラインを活用した交流や講演会など関心を高める活動を継続していくことが必要である．さらに，卒後の国際的視点や活動等を評価することも検討する．
将来に向けた発展方策・課題	1．2022 年度から新カリキュラムの運用が開始となっていることから，評価項目に追加していく． 2．アドミッションポリシ―に掲げる学生像の育成にむけて，各教員が工夫していることを教職員間で共有し，効果を点検・評価することが課題である． 3．COVID-19 の影響を鑑み，教学への影響，社会人基礎力育成への影響，正課外活動への影響など継続的に評価していく必要がある．

委員会名	（3）実習委員会	SDGs との関連	
目的	看護額実習にかかわる事項（年間計画の立案，実習用鋼の作成，実習連絡協議会の企画・運営，予算案作成，員シデント等に関する検討など）の調整をする．		
構成員	佐々木綾子（委員長），飛田伊都子，川北敬美，鈴木美佐，樋上容子， 佐野かおり，山埜ふみ恵，勝山あづさ，笹野奈菜，柴田佳純，土井智生， 山内彩香，北川祐美（看護学事務課）		
活動計画	1．実習連絡協議会の企画，運営 2．実習オリエンテーションの企画，運営 3．看護学実習要綱（共通事項），各実習要項の修正と取り纏め 4．臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援 5．領域別実習のグループ編成，看護学実習に関する調整，年間計画の立案 6．実習状況に関する学生の情報共有 7．委員会 FD の実施（委員会内，臨地実習指導者・教員対象） 8．実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討 9．実習前の倫理学習に関する学生および教員へのアンケート調査の実施，まとめ 10．感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整 11．実習調整・対応		
活動概要	委員会の開催：12 回の委員会を開催した． **1．実習連絡協議会の企画，運営** 今年度は COVID-19 感染拡大を鑑みて，第Ⅰ部の全体会議・第Ⅱ部の分科会ともにハイブリッド形式で開催した．全体会議は実習指導者等 50 名と教員 25 名，分科会（6 分野：3 分野が対面開催・2 分野がハイブリッド・1 分野が ZOOM）は実習指導者等 29 名と教員 19 名がそれぞれ参した．全体会議では実習報告および実習委員会 FD 報告も行い，実習指導者の質疑に応答した． **2．実習オリエンテーションの企画，運営** 1～3 年生の実習オリエンテーションを同一日に開催した．いずれの学年においても，実習における倫理，個人情報保護，健康管理・COVID-19 感染対策，実習におけるハラスメントの相談窓口について説明した．実習における倫理については，感染対策を講じたうえでグループワークを実施し，グループ発表によって共有を図った． **3．実習要綱等の作成** 各分野での要綱・要項配布・在庫状況を確認し，2023 年度看護学実習要綱（共通事項），各領域別実習要項，統合看護学実習要項を作成した． **4．臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援** 2021 年度申請のあった学生 2 名に対し，看護学部障がい学生支援委員会の基本方針に則り，各領域特性をふまえた支援計画を作成し対応した．当該学生は問題なく実習を終了した．		

活動概要	**5. 実習グループの編成等** 1）老年Ⅰ・基礎Ⅱ実習，領域実習グループ編成 全実習共通で新型コロナウイルスワクチン接種状況をふまえて未接種者の偏りがないよう学生を配置した．老年Ⅰ・基礎Ⅱ実習については，実習間隔や学習効果を考慮して同一グループとなるように両領域で調整を図り，作成した．領域実習については，4 年生 4 名は国家試験対策に影響の少ない時期に配置し，合理的配慮申請者 1 名に対し身体的負担の少ないサイクルで各実習を回れるグループに配置した． 2）実習に伴う教室利用の計画・調整 教育センター・学生生活支援センターと協働し，実習や実践と理論の統合に関わる教室使用や昼食場所の調整を行った．4 年生では，統合実習における学生の動向調査に基づく教室や休憩室の配置を行った．3 年生では，演習室 3-7 にパーテーションの設置が行われたため，演習室とフリースペースを使い実習グループ毎に座席固定での休憩場所の配置を行い，講義室の有効活用ができるように調整した． 3）2023 年度実習計画 2022 年度と同様に 8 グループ編成で実習を進めることとなった．また，在宅実習を 2G 単位とし，実習期間を 1 週早めることで実習期間の短縮および 2 月中旬終了となる実習計画案を作成し，大阪医科薬科大学病院および三島南病院看護部の了承を得た． **6. 実習状況に関する学生の情報共有** 実習における気になる学生の情報を共有し継続的な支援につなげることを狙いとして今年度より導入した．全教員がファイルにアクセスできるようにしたことで，指導方法や対応方法について教員間での引継ぎや連携が取りやすくなった． **7. 委員会 FD 実施** 今年度の FD は「昨今の学生の特徴と支援」をテーマとし，6 月 3 日実習連絡協議会後に臨床指導者と看護学部教員を対象にハイブリット形式で開催した．参加者は 85 名だった．回収した事後アンケート 44 件（回収率 51.8%）すべてが講演に満足したとの評価であった．今後希望する FD に関し，配慮が必要な学生の理解・対応などの希望がみられた．今年度はグループワークを実施しなかったが，今後，グループワークを希望すると回答した参加者は 31.8%であった． **8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策** 中間（12 月）・最終（3 月）で分析し，共有した．学生のインシデントは計 12 件（昨年度 12 件），教員のインシデントは 0 件であった．学生のインシデントは，個人情報の不適切な取り扱いが 8 件（実習記録の置き忘れ：6 件，個人情報が記された資料の持ち帰り：1 件，メモ帳を落とす：1 件）で最も多かった． **9. 倫理グループワークアンケート調査** 1）学生対象調査（3 年生）：実施直後の調査結果では 98.8%以上が「とても参考になった」「参考になった」と答えていた．良かった点は「自分の気づくことが

活動概要	できなかった視点での意見が得られた」「実習でどのように行動すればいいか分かった」などであった．領域実習後の 2 月末に実施した調査の結果では，理論と実践の統合の時間にアンケート調査を実施したことで回収率が 91.9%と高かった．84.8%の学生が倫理に関するグループワークでの学びが役だったと回答した．事例を用いたグループワークを実施したことで，学びが深まり実習で活かすことができていた． 2）教員対象調査は，領域実習終了後の 2 月末に実施した．倫理的な課題があると感じた場面は「学生の態度（言葉遣い，個人情報保護の違反など）」等が挙げられた．今後取り上げたい事例として，「学生の実習態度，取り組み姿勢」等が挙げられたため，来年度の 2 年生対象のグループワーク事例に追加を検討する． **10．感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整** 「看護学実習における感染症への対応について」を改訂し周知した．2022 年 8 月から実習施設の要望により，新型コロナウイルスワクチン 3 回目未接種者に対する抗原検査（写真提出判定）を，看護学部医系教員の協力のもと実施した．また，1 年生の 4 種感染症ワクチン未接種者に対する対応を強化した． **11．実習依頼・調整** 2023 年度実習計画策定・実習依頼は，主たる実習施設である大学病院の病棟移転に伴い実習病棟の変更・調整の上確定した．感染症対策は，「実習における新型コロナウイルス感染症への対応 2022 年度改訂版」を作成し対応した．実習期間中は．各クールで実習前検査の実施．学生の体調に関する校医・保健管理室への相談，感染症による実習受入れ中止時の施設・病棟変更等の調整，補習実習・追実習を行い．学生への不利益が生じることなく臨地実習が実施できた．
評価	**1.　効果が上がっている事項** 実習連絡協議会について，昨年度は本学の感染対策方針に基づき全面オンライン開催であったが，今年度は対面とオンラインのハイブリッド開催とした．そのことで多数の実習指導者および遠方の実習地の指導者の参加があり，実習に関する一層の理解を得て，円滑な臨地実習に繋げることができた． 大学病院看護部と連携をとり，感染症への対応方針の作成と，それに基づいた実習調整により．学生への不利益が生じることなく臨地実習を実施できた． **2.　改善すべき事項** 記録の取り扱いに関するインシデントが多いため，引き続き指導継続する． COVID-19 に対する感染症法上の分類は 2023 年 5 月 8 日より 2 類から 5 類に変更になるが，本学学生は医療従事者に準ずるため，重大性についての指導を継続する．
将来に向けた発展方策・課題	1.　実習指導者対象の FD を定期的に実施し，実習指導能力の向上に努め，成果を評価する． 2.　2022 年度改正カリキュラムの成果を継続的に評価し，2025 年度以降の実習計画変更に活かす． 3.　情報共有で可能なものは，全教員が活用しやすいようデジタル化にする．

委員会名	（4）ウェブサイト委員会	SDGs との関連	
目的	看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する．		
構成員	安田稔人（委員長），久保田正和，竹　明美，杣木佐知子， 看護学事務課　川上将弘，田中佑美，藤原敏洋 オブザーバー　企画・広報　松田久美，田中庸介		
活動計画	1．看護学部教員・各領域，分野に関する情報更新 2．学部長あいさつ，トップページ写真等の更新 3．各センター・委員会関連ページの更新・充実 4．看護学部年報，看護研究雑誌の最新号掲載 5．その他必要な更新および情報公開（随時） 6．Web サイトの評価		
活動概要	1．委員会（7 回）を開催し，サイト更新に関する検討・準備と確認を行った． 2．サイト更新 1）　教員一覧，教員情報，教員からのメッセージ，領域ページの更新 2）　学部長あいさつの更新 3）　3 センターのサイトの更新，国家試験情報，就職・進路状況の更新 4）　2021 年度看護学部年報，看護研究雑誌第 12 巻掲載 5）　各種告知事項，実施報告等の更新 6）　タイトル画像の見直し 7）　Web 写真等の変更および追加 8）「4 年間の学び」のページの修正，更新 9）看護学部同窓会のページ修正 3. 本委員会の代表メールアドレスを作成した（Web.site-n@ompu.ac.jp）． 4. 新 1 年生を対象に HP 内容についてのアンケート調査を行った． 5. 領域・分野再編に係る各分野のページの内容精査と更新 6. 各分野の実習の写真の更新		
評価	**1．効果が上がっている事項** 企画・広報課職員の参加により，看護学部教員と事務課との連携が強化され，企画・広報課の協力により教員の意見を HP に反映できた．看護学部広報委員会と本委員会委員長の兼任による広報活動の統括化，Web サイトの評価ができた．実際の病棟実習風景の撮影と学生の感想と指導教員のコメントを取材し，質の高いコンテンツが作成できた．新入生による HP のアンケート調査結果を入試・広報課と共有し，受験生サイトの HP の改善に役立てた． **2．改善すべき事項** 来年度からは本委員会の役割は広報を含むため，入試・広報課とも密に連携をとり，受験生にとってより見やすい HP を目指す．		
将来に向けた発展方策・課題	Web サイト作成に関する技術的ノウハウの継承をする．新年度に向け，更新すべきコンテンツの確認を行う．受験生や学生にアンケート調査を行い，学生が求めるコンテンツの検討を行う．各分野の動画紹介の動画ソフトの導入など．		

委員会名	（5）看護研究雑誌編集委員会	SDGs との関連	
目的	大阪医科薬科大学看護学部における教員等の教育研究成果を広く看護界に発信し，看護学の向上と発展に寄与する．		
構成員	小林道太郎（委員長），宮島多映子，瓜﨑貴雄，鈴木美佐，土肥美子		
活動計画	1．看護研究雑誌第 13 巻の編集・発行 2．投稿・査読関連の手順および書式等の整理 3．第 12 巻の看護学部サイト掲載		
活動概要	**1．委員会の開催** 年間 6 回の会議を開催し，以下の事項の審議と確認を行った． **2．看護研究雑誌第 12 巻の学部サイト掲載** ウェブサイト委員会に依頼して看護研究雑誌第 12 巻を Web 公開した． **3．投稿・査読関連の手順および書式等の整理** 第 13 巻のための手順と書式を確認した．昨年度査読過程で一部疑義が生じたため，①原稿受付時，査読依頼の前に編集委員が形式の確認を行うこととした．また②査読結果による採否の決定方法を改めて確認し，③場合によっては編集委員会から査読者に不適切なコメントの修正を求めることがあることを確認した．これらは査読要領内に「査読方針」として明示し，10 月度学科会議で報告した． **4．看護研究雑誌第 13 巻の編集・発行** 投稿規定に基づき，8 月末題目登録締切，10 月末原稿提出締切，3 月発行というスケジュールで，投稿の募集から査読，編集の諸業務を行った．題目登録は 16 篇，掲載論文は 12 篇となった．昨年度校正等に関して行き違い等があったため，今年度は早くから印刷会社と依頼内容・日程を打ち合わせた上で作業を行った． **5．データベース収載依頼への対応** 医学中央雑誌より本雑誌の抄録を掲載したい旨の依頼があり，承認した．		
評価	**1．効果が上がっている事項** 論文原稿提出の電子化と誓約書・著作権移譲承諾書の運用は 2 年目であり，全般にスムーズに進行した． 提出原稿について編集委員が確認を行い，査読は円滑に進行した．また校正についても編集委員会で確認し，特に問題は生じなかった． **2．改善すべき事項** 査読後の原稿修正時に修正対照表をつけるよう論文著者に連絡したが，実際は不要であった．次年度，手順と使用書類について改めて確認した上で進める．		
将来に向けた発展方策・課題	1．大学リポジトリへの登録について図書館委員会での検討を依頼する． 2．投稿規定，執筆要領を状況に合わせて見直す．		

委員会名	（6）予算委員会	SDGs との関連	
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする.		
構成員	赤澤千春（学部長），鈴木久美（教育センター長），佐々木綾子（実習委員会委員長），荒木孝治（物品管理委員会委員長），津田泰宏，武田千賀，森川健太（看護学事務課）		
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された 2022 年度看護学部予算案の審議を行い，教授会で承認を得た. 1. 学生の教育，学生の実習に係る備品等 2. 各センターおよび各委員会に係る活動費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他，学部長が必要と認めたもの		
活動概要	予算案を作成するために,看護学部に係る全体的な予算をできるだけ削減するように努め，2022 年度には看護学部として以下の新規購入を要望した. 1. 大学院看護学研究科 高度実践看護師教育課程 更新申請費（看護学研究科） 2. 装着型静脈注射トレーナー　I.V.Pad（基礎看護学） 3. IV スタンド KC-519B（基礎看護学） 4. 分娩介助ファントームの買い替え（高研社製，分娩介助モデル「ひろこ」）（母性看護学・助産学） 5. デジタル教科書導入に伴う iPad 購入（看護学部） 6. 看護学部棟実習室入退館システムの更改について（看護学部） 7. 看護学部北キャンパス演習室への電子ボード（ミーティングボード）および充電ロッカー導入（教育環境整備）（看護学部） 8. （北キャンパス）教授会のペーパーレス化の導入について（看護学部） 9. 看護学部における臨地実習に伴う PCR 検査実施について（看護学部） 10. 講堂後方のタッチパネル導入について（看護学部）		
評価	1. **効果が上がっている事項** 経年劣化が進んでいるモデル類等の物品について,修理や買い替え等の適切な処置を適宜実施している. 2. **改善すべき事項** 今後,中長期的に設備や備品についての修繕やモデル類等の物品の更新を見据えた，計画的な予算の検討が必要である.		
将来に向けた発展方策・課題	2022 年度予算の執行状況を確認しながら，今後，適正な設備備品の更新等をふまえた予算要望を検討することが重要である.		

委員会名	（7）物品管理委員会	SDGs との関連	
目的	講義・演習を円滑に進めるため，授業に関する物品の維持および管理，物品に関する情報収集と学部内教員への発信，その他物品管理に関する事項を行う．		
構成員	荒木孝治（委員長），川北敬美，杣木佐知子，間中麻衣子，武田千賀（事務），森川健太（事務）		
活動計画	1．教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検 2．教務関係備品の貸し出し管理 3．実習室，器材庫，実験室等の整備 4．経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討 5．各種申し合わせ事項の見直しと改正 6．covid-19 感染拡大に伴う定数（備蓄）の見直し 7．2023 年度教務関係物品購入予算案の作成		
活動概要	**1．委員会開催** 2022 年 4 月～2023 年 3 月に計 7 回の委員会を開催した． **2．教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検および購入** 1）定期点検と購入物品について （1）定期点検 モデル・シミュレーター（京都科学，坂本モデル，高研）の点検について，各分野物品管理係に確認し実施した． ストレッチャーの定期点検を実施した． （2）　教務関係備品の点検・消耗品の在庫管理および教員への周知 昨年度は，廃棄物品の確認を含めて，各分野での物品の点検希望があるかどうかを聴取したが，今年度は，委員会で検討の上，分野の物品の点検は実施しなかった． 新しい教員が増えたことから，各分野の物品管理について，分野再編に伴う変更事項（清掃担当・物品管理担当）と物品点検・修理の流れ（再確認事項を学科会議で周知した． 今年度より領域編成が変わったことにより，ベッド・車いすおよび大型モデル，シーツやタオル等のリネン類に加え，血圧計・体温計などのフィジカル計測物品を学部共通で使用するものとして，物品管理委員会の管理物品とした． （共通物品）ストップウォッチ・メジャーの経年劣化している物品について，ストップウォッチ 8 個・メジャー1 個の購入を行った．また，実習室用ハンディビデオカメラの修理を行った． 年度末，各分野の備品・消耗品点検について各分野の物品管理係に依頼した． 共通物品の備品・消耗品の点検と整理を 3 月 1 日に実施した．		

活動概要	（3）　実習室等整備・備蓄見直し 器材庫の整理と地震対策（ゴム交換）実施について，各分野が使用している棚の経年劣化した地震対策用のゴムを交換し，器材庫内に配置している物品の整理を行った． （4）　経年劣化による物品の確認および修理・購入の検討 保助看法上必要と規定されているモデルであるが，破損していた 7 分解消化器系模型，脳神経系モデルの買い替えを行った． 開学以降 10 年以上が経過しており，実習室ベッド等の高価かつ台数の多いものは，計画的に予算を組んでいく必要があるため検討を行った．現状は，部品の追加等で対応可能なものばかりで，使用可能であったため，新たに予算計画を計上するものはなかった． **3.　実習室，器材庫，シミュレーションルーム（旧実験室）の整備** 実習室 1 内の配線用差込接続器周辺カバー（道路側，10～11B 間）に破損が見受けられ，5B 付近天井コンセントがつながらない件を含め大学の施設課に報告し修理を行った． 定期的な清掃およびリネン類のクリーニングの実施を行った．今年度よりリネン類は実習室 2 後方にリネン専用棚を設け一元管理することとなった． 演習中に，補助椅子を重ねてスタッキング台に収納する際に椅子が崩れ落ちる事象があり（けが人なし），スタッキングチェア専用台車の台数を追加するとともに最下段の椅子を固定することで，正しく積み重ねられるように事故予防対策を行った． 次年度は，実習室 1 の給湯容量に制限があり，演習に影響が及んでいるため，配管工事を行うことを検討中である． **4.　各種申し合わせ事項の見直しと改正** ・セルフトレーニングコーナーがシミュレーションルームに名称変更されたため，「看護学部実習室およびシミュレーションルーム利用要領」，「看護学部の実習室・シミュレーションルーム・物品の使用要領」について改正を行った． **5.　2023 年度教務関係物品購入予算** 保助看法上で必要と規定されているが劣化等が見られる物品について 2022 年度に買替等の対応を行った・2023 年度については委員会としてモデル類等の新規予算計上はないが，各機器の劣化等に伴う各種買替や修繕，点検に対応できるよう，2023 年度についても物品関係について例年同様の予算額を計上した．
評価	**1.　効果が上がっている事項** 1）　教務関係の備品，機材の維持 備品，機材および消耗品の管理はシステム化され，各分野の担当者を介して円滑に点検・修理ができている．また，それによって教材が適切に使用できる状態を維持できている．

評価	**2. 改善すべき事項** 1)　共通消耗品の購入ルールの徹底 消毒等，共通で使用する消耗品の購入に関して，使用した分が適切に補充されるシステムが作られているが，定数の札が紛失するなどが散見される．演習時に必要な数が提供できるようルールの徹底を呼び掛ける必要がある． 2)　共通物品の定数カウントおよび管理について タオルやシーツ等のリネン類は，古くなったものは徐々に破棄しているため，定数が漸減している．各分野における必要数を調査し，各リネンの必須枚数の検討を行う．摩耗し始めている綿毛布やマットレスパッドの一括買い替えについても検討を行う．保助看法上置いておく必要のあるもの以外の物品カウント作業の効率化を図るための検討を行う． 領域物品のカウントを行う各領域の物品管理係より，カウント方法やリストについての問い合わせが委員に入ることから，「物品管理のカウントについての周知事項」を分かるように明記しておく．
将来に向けた発展方策・課題	**1.　シミュレーター，モデルの必要性の検討** 今年度，廃棄した物品に加え，今後も物品の経年劣化が予想される．保管場所や維持費，教育上の必要性を検討し，学生が安全に使用できるよう計画的な修理・買い替えの検討が必要である． **2.　予算計画の検討** 物品の経年劣化に関連し，今後，高額物品の買い替えが必要になる可能性がある．そのため，年度初め，および 9～10 月頃に予算の確認および執行状況の点検を行ない，計画的，かつ適切に備品，消耗品の購入や必要な修理ができるようにしていく必要がある．

委員会名	（8）就職支援委員会	SDGs との関連	
目的	大阪医科薬科大学看護学部の学生の就職・進路の支援		
構成員	池西悦子（委員長），飛田伊都子，寺口佐與子，間中麻衣子，堀池　諒，藤原敏洋，田中佑美		
活動計画	1.　学生に対する就職情報提供 2.　学生の就職活動力強化のためのサポート 3.　教員の就職活動支援力向上のサポート 4.　就職活動および内定状況の把握 5.　卒業生と在校生の交流の機会を設け，情報提供の充実をはかる 6.　来校人事担当者との対応による情報収集 7.　卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8.　HP の更新		
活動概要	1．学生に対する就職情報提供の一環として，就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報，パンフレット，ポスターなどをキャリアサポートルーム内外に設置した．キャリアサポートルーム内で資料の閲覧，情報収集が可能となるように環境整備を行った．また，タイムリーな就職活動ができるよう必要時ユニパで情報発信を行った． 2. 学生の就職活動の支援として，就職ガイダンスを 3 回実施した．第 1 回目（入門編）は，2022 年 6 月 27 日（月）に大学病院担当者，就職支援業者による講演を対面開催した．3 年生 82 名，2 年生 7 名が参加した．第 2 回目は（実践編），2022 年 1 月 21 日（土）に大学病院担当者，卒業生の看護師，保健師，助産師による講演，就職支援業者による履歴書・面接対策の講演を実施した．3 年生 66 名（うち ZOOM 参加 3 名）が参加した．低学年ガイダンスは 12 月 7 日（水）に就職支援業者による就職活動準備講座を対面開催した．2 年生 87 名，1 年生 1 名が参加した． 3．履歴書添削セミナーは，2023 年 2 月 22 日・3 月 3・7 日に開催した．コロナの感染症対策により ZOOM による個別指導とし参加者は 32 名であった．教員の就職活動支援力向上にむけて，本セミナーへの参加を予定していたが，個別指導となったため，参加ができなかった． 4．就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い，2022 年 1 月に卒業年次生全員の進路が決定したことを確認し，学部教授会で報告した． 5．卒業生と在校生の交流，来校人事担当者との対応はコロナ禍のため感染防止の観点から実施しなかったが，第 2 回就職ガイダンスで各職種の卒業生とフリートークができる時間を設けた． 6．来校人事担当者へは委員で対応し，次年度採用試験の日程や人材育成の方針等の情報収集を行い，来校者応接録に残した．		

活動概要	7．卒業生・施設アンケートは，対象者を卒後 3 年目までに拡大し，回答方式を書面とオンラインの選択型として実施した．卒業生の回収率は 52.2%，施設の回収率は，43.3%であった． 8．HP には，就職ガイダンスの開催，今年度の就職先情報を更新した．
評価	**1．効果が上がっている事項** 就職ガイダンス，低学年のガイダンスの開催やタイムリーな就職情報を発信し，学生の意識向上を図った．情報収集元について掲示板，ユニパ，サポートルームの資料と回答した者が 40-50%と学生の半数が利用しているため必要性が高い． 就職ガイダンスは，今年度は対面開催とし，体調不良者のみ ZOOM 参加可とした．学生の参加率は 3 年生第 1 回 94%，第 2 回 75%，低学年は 98%で満足度約 90%と共に高く，一定の効果があり学生のニーズに沿っていると考える．また，卒業生からの講演は実際の声が聴けるため学生のキャリア形成・選択には重要だと考えられ，面接のロールプレイも約 85%が参考になったと回答した． 履歴書添削セミナーの履歴添削は意見交換が活発であった．終了後のアンケートでは 100%の学生が「とても役立った」もしくは「役立った」と回答した．今後も継続の方向で検討したい． 就職活動および就業調査票は，全員の提出があった．就職活動調査票の結果が更新されたことを学生に UNIPA で周知し，閲覧機会の促進につなげた． 卒業生に関するアンケート調査結果より，今年度は卒後 3 年目までを対象に調査を実施した．学生対象の結果では，看護実践や自己の成長のために他者の支援を求めることやチームの一員として自分の役割を認識した行動をとることが高評価であった． **2．改善すべき事項** 緊急時の対応や後輩への指導は低評価であったが，卒後 3 年間の経年的変化をみると，卒後 1 年目では低評価であるものの，卒後 3 年目では高評価に変化していた．施設側の結果では，生命の尊厳，人権の尊重が高評価で，新しい知識や技術の創造が低評価であった．
将来に向けた発展方策・課題	1．ガイダンスは，内容を精選し時間短縮を図ること，時期もタイムリーにすることが課題である．卒業生からの講演や面接の模擬練習は継続していく． 2．就職活動および就業調査票は，回収率は上がった．今後もユニパでの提出を継続し，集計作業の簡便化，後輩への情報提供の迅速化をはかる． 3．卒業生および就職先の施設に関するアンケート結果から，緊急時の対応や後輩への指導は経年的に変化することが明らかになったため，卒業生の動向を把握するには卒後 3 年目までを対象とすることが必要と考える．また，他者の支援を求めることやチームの一員として自分の役割を認識した行動をとることに関しても継続的に調査する必要がある．今後は新しい知識や技術の創造という点の教育を検討する必要があるかもしれない．今後 3 年間は卒後 3 年目までを対象とした調査を実施し，評価する．

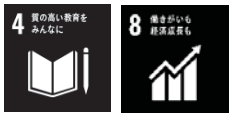
委員会名	（9）国家試験対策委員会	SDGs との関連	
目的	大阪医科薬科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す.		
構成員	草野恵美子（委員長），安田稔人，大橋尚弘，二宮早苗，近澤　幸，柴田佳純，堀池　諒，森川健太		
活動計画	1.　全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2.　2022 年度国家試験対策の模試および対策講座の実施 3.　2023 年度国家試験対策の企画および予算案の作成 4.　国家試験対策活動の保護者への周知 5.　模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討，チューターとの情報共有およびさらなる協働方法の検討 6.　国家試験対策（模試および対策講座）の評価		
活動概要	**1. 役割分担** 委員の役割分担は以下の通りとし，感染予防の観点から実施方法の変更が生じた際などはそのつど調整を行った. 1）議事次第作成・委員会進行・全体総括（草野） 2）議事録作成（准教授以下で輪番） 3）東京アカデミー窓口　（二宮） 4）全学年へのオリエンテーションの実施（全員） 5）看護師国家試験対策 担当（大橋・二宮・柴田） 6）保健師国家試験対策 担当（堀池） 7）助産師国家試験対策 担当（近澤） 8）国試対策医学系講義　担当（4 回生向け）（安田） 9）郵便物・広告物・掲示物・図書担当（柴田・森川） 10）模試・対策講座 当日担当（全員） 11）勉強会担当（主担当：看護師・二宮，保健師・堀池，準備・当日担当：全員） 12）自己採点会担当（近澤・柴田・堀池） 13）来年度予算・必要物品購入（草野・二宮・森川） **2. 国試対策オリエンテーションの実施** 全学年に各 1 回，国試対策についてオリエンテーションを行った．オリエンテーションでは，4 年間全体のロードマップを作成して説明するとともに，今年度のスケジュールや注意事項，活用できるツール等について説明した. **3. 模試と対策講座** 2022 年度は全学生が国家試験対策についてなんらかの役割を担うよう調整し，対面実施の際は学生が主体的に模擬試験を運営した. 4 年生では，例年同様に全国規模の模擬試験，対策講座を実施した．回数は，看護師国試対策講座 13 回（傾向分析会含む），看護師国試模試 6 回，保健師国試対		

活動概要	策講座 5 回（傾向分析会含む），保健師国試模試 3 回，助産師国試対策講座 2 回，助産師国試模試 3 回であった．3 年生については全国規模の模試 2 回，1,2 生については全国規模の模試を 1 回ずつ実施した．尚，各対策講座の開講方法（オンラインまたは対面）は新型コロナウイルス感染拡大状況に合わせて決定し，学内で開講する場合には 2 教室に分けて行うなどの配慮を行った． **4．国試対策関連の情報提供** 医学書院 WEB.導入と教科書のデジタル化の方針を受け，新規図書の購入は行わなかった．業者からの過去問集など献本は昨年度と本年度の 2 年間分を委員会キャビネットに保管することに決定しその他は図書館へ寄贈した． 国家試験対策の情報については，4 年生を中心に登校機会の多い時期はキャリアサポートルームへの掲示，登校機会の少ない時期は moodle での掲示とし，学生が通年タイムリーに情報収集できるようにした． **5．チューターとの情報共有** 対策講座・模試の出欠状況や成績をチューターと共有するため，適宜学科会議で周知した．また，11～12 月，1 月の勉強会の対象学生の選定にあたり，選定基準のための資料を教授会および学科会議等にて教員に提示した．本年度は国試対策委員会から勉強会への参加を促しても出席に結びつかない学生も多く，そのようなケースは個別対応を要するとして，適宜チューターを通じて学習状況や健康面について情報を把握，またチューターに勉強会への出席状況をフィードバックするなどした． **6．既卒生への対応** 今年度は該当者なしであった． **7．看護師国試対策勉強会** 看護師国試対策については，4 回生の模擬試験の結果の推移に基づいて 11 月～12 月および 1 月に勉強会を実施した． 1）11～12 月の勉強会： 5～9 月に実施した計 4 回の看護師国家試験模擬試験において，成績が伸び悩んでいる学生に対して学習習慣を強化し，必修問題および正答率の高い問題を確実に回答できるようにすることを目的に，11/24（木）～12/6（火）（計 9 日間）の 9:00～12:00 に「集中勉強会」として勉強会を設けた．昨年度まで，新型コロナウイルス感染症拡大防止のために ZOOM を使用したオンライン勉強会を行っていたが，昨年度に対面での実施希望も多かったため，感染状況を考慮し，十分な感染対策を講じながら対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①直近の模擬試験（東京アカデミー第 2 回模試）において必修得点率が 80%未満かつ過去 4 回の模擬試験において必修得点率 80%未満が 3 回以上の学生，②直近の模擬試験において必修得点率が 70%未満で①には該当しない学生，③直近の模擬試験において総合評価が C または D 判定のうち過去 4 回の模擬試験において必修得点率 80%未満が 3 回以上の学生，とした．対象は 22 名

活動概要	であった．直前勉強会の目的が，成績低迷者に対する学習の強化であるため，選抜された学生以外からの参加は認めないこととした． 直前勉強会では，毎回，医学書院 Web 上で作成した小テストを当日担当教員が提示し，学生は回答後に各自で解説を確認した後，各自で自習を中心とした学習を行った．毎日委員 1 名が交代で担当し，学生からの質問があれば対応するようにした．当日の担当教員の可能な範囲で，正答率の低い問題や解説のわかりにくい部分について解説を加えるようにした． 学生の出席率は平均 82.3%であり，20 名の学生は半数以上出席していた．欠席理由は，新型コロナウイルス感染症の流行期間でもあったため体調不良等での欠席が多く，遅刻や早退も散見された．一部の学生からは「通学時間がかかりその分勉強できないので ZOOM でも対応してほしい」といった意見も聞かれた． 2）1 月の勉強会： 11～12 月に実施した 2 回の看護師国家試験模擬試験において，合格基準に達していない学生を中心に全受験者を対象に，自信をもって受験に臨めるように本番を想定しながらラストスパートをかけることを目的に，1/17（火）～1/23（月）（計 5 日間）の 9:00～12:00 に「直前勉強会」として勉強会を設けた．本番を想定しながら勉強に取り組めるように，感染状況を考慮しながら，対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①最終の模擬試験（東京アカデミー第 3 回模試）において必修得点率が 80%未満または総合判定が D 判定（一般＋状況設定問題額偏差値 40 未満）の学生とし，11 月に実施した学研模試の結果も参考とした．また，②最終の模擬試験の未受検者も対象とし，選抜された対象は 31 名であった．大学で勉強したいという学生の希望も考慮し，今回は選抜者以外に，希望する学生の参加も認めることとした． 直前勉強会では，本番を想定し，紙媒体で過去の看護師国家試験問題の半日分を配布し，制限時間内に回答できるようにした．解答後，学生は紙媒体で解答・解説を配布し，自己採点した得点を Google Forms に入力後，解説を用いて復習するなど，各自自習を中心とした学習を行った．委員は勉強会の時間中，教室に常駐し，学生がいつでも教員に質問できるようにした．また，1 月 20 日（金）には，解剖や病態生理等を中心とした学生からの質問に対し，医学系の委員が 90 分程度の解説講義を行った．学生は解説講義後も質問するなど，疑問を解決できるように積極的に学習に取り組むことができていた． 選抜条件②で選抜された学生 1 名および遠方のため自宅学習を希望した学生 1 名を除く，29 名の出席率は 93.7%であった．希望者も 5 日間で延べ 49 名が参加した．看護師国試対策については，4 回生の模擬試験の結果の推移に基づいて 11 月～12 月および 1 月に勉強会を実施した．

活動概要	**8. 保健師国試対策** 保健師の国試対策については対策講座をオンライン，模擬試験を対面で行った．保健師選択者対象の直前勉強会を 1 月の看護師国試対策勉強会と同時開催にて実施した．勉強会の必修対象は 12 月模擬試験結果 65%未満とし，勉強会参加者へは紙媒体で過去の保健師国家試験問題や予想問題の実施や質疑対応以外は自習を中心とした学習とした．その他公衆衛生看護学分野の協力を得て，個別に成績の伸びない学生に対する個別指導を行う等の対策を行った．3 年生の国試対策は，公衆衛生看護学分野にて 12 月模擬試験結果 60%未満をレポート課題，55%未満の者へは個別の学習指導を行った． **9. 助産師国試対策** 模擬試験 4 回および対策セミナー2 回を行った．模擬試験は対面で実施した．対策講座はオンラインでの開催であった．適宜学習状況の面談を行い，成績の伸びない学生に対しては，個別指導を行った． **10. 自己採点について** 感染予防の観点から大学に集合しての自己採点会を行わず，2/13（月）～15（水）に各自が結果を Google Forms へ入力した．全員から自己採点結果の報告を受けた．自己採点結果は，学科会議およびメールで教員に周知した． **11. 自己学習環境支援【柴田】** 2020 年度より「医学書院　看護師/保健師国家試験問題 Web. サービス」を導入し，2022 年 4 月～2023 年 2 月 12 日（看護師国家試験翌日）は延べ 4404 件のアクセスで昨年度比 2.75 倍の利用となり，学生のニーズは高くなっていると考える．利用率は 4 年生 95%，3 年生 22%，2 年生 88%，1 年生 3%であり，4 年生は国家試験が，2 年生は教員が授業で使用したことが利用率の大きな要因となった． 今年度も感染症対策のため自己学習用の演習室開放は行わなかったが，学生からの強い要望はみられなかった． **12. 学生へのアンケート** 4 回生を対象としてアンケートを行った．回収率は 41.5%であった．対策講座については，「非常に役に立った」「まあまあ役に立った」との回答が 70%弱であった．1 回の時間について 80%以上が「長い」と回答しており，時間の検討が必要である．模試については，ほぼ全員が大学での一括申し込みを希望しており，回数についても約 80%が「ちょうどよい」と回答した．直前勉強会については，参加者の 80%以上が「非常に役に立った」「まあまあ役に立った」と回答した．
評価	**1. 効果が上がっている事項** 1）看護師・保健師・助産師の各国家試験の合格率は全て 100%であった．具体的には，第 112 回看護師国家試験は受験生（在学生）82 名が全員合格した（全国平均：新卒 95.5%）．第 109 回保健師国家試験は受験生 37 名が全員合格した（全国平均：新卒 96.8%）．第 106 回助産師国家試験は受験生 7 名が全員合格した（全国平均：新卒 95.9%）．（今年度は既卒生の受験なし）

評価	2）Web を活用した情報提供，学習支援は有効であった． **2. 改善すべき事項** 1）対策講座等への出席率が低下傾向であり，今後，学生の意見も聞きながら，開催方法などを再検討していく． 2）人数の多い学生の健康診断などに関しては，健康管理室，就職関連の予定については附属病院などとも連絡を取り合い，可能な範囲で学生に負担の少ないよう調整する． 3）委員の負担が大きいため，対策が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1．成績の伸び悩む学生を対象にした勉強会については，今年度は全て対面とし，期間を短縮して集中的に行った．教員負担とのバランスをみつつ，より効果的な媒体を活用しながら今後も実施していく必要がある． 2．模試・講座を全て学内で実施しているが，緊張感を持たせるために学外受講等を検討していく． 3. 模試と対策講座については一定の業者を中心としたスケジュールを組んでいるが，学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるように，Web 上でのオンライン講座等の利用なども多角的に検討していくことが求められる． そのため，今後も情報収集に努め，提供される学習内容や価格の適正さ等からよりよい学習環境を整えていきたい．

委員会名	（10）看護学部年報編集委員会	SDGs との関連	
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する.		
構成員	土手友太郎（委員長），荒木孝治，赤崎芙美（10 月まで），土井智生		
活動計画	1. 2021 年度年報の取り纏め・発行 2. 2021 年度年報の HP 上での公開 3. 2022 年度年報作成のための原稿依頼		
活動概要	1. 委員会の開催 2022 年度 4 回の委員会を開催した. 2. 2021 年度年報の発行 1）2021 年度の原稿の校正と編集 2）2022 年 7 月 31 日に年報を発行した. 3）冊子 35 部作成し関連部署に配布した. 4）看護学部教員へはホームページ上で PDF を公開した. 3. 2022 年度年報作成について 1）看護学部と看護学研究科の委員会等の名称を変更，削除および追加した. 原稿の目次や執筆要領の見直しと見本を提示した. オンライン学術集会の増加に伴い，記載方法を検討して執筆要領に追加した. 2）2022 年度年報作成のための原稿を依頼した. 3）各センター・委員会・分野・看護学事務課および各教員から原稿を収集した.		
評価	**1. 効果が上がっている事項** 年報の PDF を HP に掲載したことにより，本学看護学部および看護研究科の教育研究活動について例年通り公開することができた. また，看護学教育評価の受審に向けて，根拠資料としても活用されている. **2. 改善すべき事項** 特になし.		
将来に向けた発展方策・課題	1. 2022 年度年報内容の検討 各種評価を受ける際の根拠資料として十分であるかを検討する. 2. 2022 年度年報の印刷部数および予算の見直し		

委員会名	（11）看護学部広報委員会	SDGs との関連	
目的	大阪医科薬科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら，大阪医科薬科大学入試・広報課，本学部各種委員会と連携を図り，本学部の受験者を募集する．		
構成員	安田稔人（委員長），荒木孝治，土肥美子，佐野かおり，倉橋理香， 堀江雅彦（入試・広報課）		
活動計画	1. オープンキャンパス（OC）企画・運営 2. 看護学部案内の企画 3. 各分野別の受験生向けの紹介動画作成 4. 進学ガイダンス出向の調整・実施		
活動概要	1. 委員会の開催：すべて対面で定例会を 11 回開催した． 2. OC 企画・運営：本年度は新型コロナウイルス感染対策を十分に行い，7 月 31 日（日）に 3 年ぶりに来校型 OC を開催した．従来行っていた体験実習は中止し，学部長挨拶，入試委員長からの入試説明，教員による模擬講義，学生プレゼンテーション，キャンパスツアー，教員と学生による個別相談会を午前と午後に分けて実施した． 3. ミニキャンパス見学会を例年通り実施した． 4. 各分野長に受験生向けの紹介動画の作成を依頼し，10 分野から動画が入試・広報課に提出され，現在，HP の受験生サイトへの掲載準備中である． 5. 大学案内の製作にあたり，在校生の紹介等の取材協力を行った． 6. 入試・広報課職員による進学ガイダンスの出向		
評価	**1. 効果が上がっている事項** 対面式 OC については，午前，午後と入れ替え制で 90 名（45 組）ずつの予約制としたが，予約者のほとんどが来校し，アンケート調査においても来校者の満足度は高かった．OC 参加の理由は隣接の大学病院のあることや，交通の利便性が挙げられていた．ウェブサイト委員会と本委員会委員長の兼任によって，広報活動の統括化ができた． **2. 改善すべき事項** 広報媒体としてのパンフレットは必要であるが，さらに HP の充実が望まれる．広報活動においては，今後は看護学部の入試委員会やウェブサイト委員会，入試・広報課や企画・広報課とも，もっと蜜に連携を取る必要がある．		
将来に向けた発展方策・課題	1. ウェブサイトおよびオンラインを一層活用した広報活動への転換が求められる．本年度は HP に高校生を対象とした全分野の紹介動画の配信を行う． 2. ウィズコロナの時代を迎え，今年度は OC の複数開催や更なる内容の充実（病院見学の再開など）が求められる．今年度から本委員会はウェブサイト委員会に包括されるため，ウェブサイト委員会や看護学部入試委員会，入試・広報課や企画・広報課と連携して，OC を企画・運営する必要がある．		

委員会名	（12）国際交流委員会	SDGs との関連	
目的	看護学教育・研究に寄与する国際交流活動を推進することを使命とする．		
構成員	真継和子（委員長），樋上容子（副委員長），カルデナス暁東，近澤　幸，山内彩香，近藤　恵（国際交流機構・国際交流センター），藤井智子（事務），中治美紀（事務）		
活動計画	1.　国際交流に関する基盤整備 2.　看護学部海外短期留学生奨学金給付に関する事項 3.　看護学部英会話教室の実施（PA 会予算） 4.　教員の国際共同研究支援 5.　ミネソタ州立大学マンケート校との学生派遣・受け入れに関する検討 6.　台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣に関する検討 7.　ミネソタ州立大学マンケート校主管のオンライン国際交流学習プログラム実施に関する検討 8.　国際交流教育講演会の開催 9.　ミネソタ州立大学マンケート校主催の英語論文 writing group 活動支援 10.　SDGs 活動 11.　国際交流に関するニーズ調査の実施		
活動概要	**1.　国際交流に関する基盤整備** 1）国際交流機構，国際交流センターとの連携 本委員会は大学国際交流機構（2022 年 4 月～12 月），ならびに国際交流センター（2023 年 1 月～）に属する委員会として，学部間の連携，国際交流の活性化に取り組んでいくことが必要である．発足間もないセンターであることから，今年度は情報共有に努めるとともに，センター内での審議事項について委員会内で周知を図った．また，学部内での委員会活動について積極的に情報提供した． 2）国際交流センター設立に向けた準備 国際交流機構ではセンター化に向けて，センター規程の策定およびセンターの役割機能について検討がなされた．この検討段階において本委員会では，規定案，センターの業務内容，センター名について検討し，国際交流機構に提案した． 3）2023 年度予算案の策定 2023 年度より本委員会運営に係る費用について，３学部とも国際交流センター予算として計上されることとなった．これに伴い，他学部の事業計画を鑑みつつ，看護学部生の海外派遣およびオンライン留学などの活性化を図るための予算案の作成を行った． 4）ミネソタ州立大学マンケート校および台北医科大学との協定書更新 国際交流機構の指示のもと，ミネソタ州立大学マンケート校（MSUM）および台北医科大学（TMU）との協定書について検討した．協定書の内容については合意を得ることができた．一方，留学生の宿泊費等については，派遣および受入れ		

活動概要	時に相手校との詳細な打ち合わせ，その都度の確認が必要である． 5）ホームページ改訂に向けた検討 昨年度の案に基づき，企画・広報課と協働のもと，看護学部国際交流ホームページの改訂を行い，8 月に新ホームページの公開に至った．本学の学生のみならず入学を検討する高校生らにも活動の様子をわかり易く伝えることができるように，これまでの活動の写真や学生の学びや声といった情報を掲載した． **2．看護学部海外短期留学生奨学金給付に関する事項** 大阪医科薬科大学看護学部海外短期留学奨学金給付申し合わせの改正を行った．申し合わせにおいて派遣地域に応じた給付額が提示されているが，経済的世界情勢により見直しが必要であることを検討し，教授会の議を経て改正された． また，2023 年 3 月の MSUM での研修参加予定であった 2 名の学生から，本申し合わせによる申請があり，研修プログラムへの参加意欲，人物等について委員会内で審査し，教授会に諮った． **3．英会話教室** 11 月 22 日（木）にクリスマス英会話イベントを企画し UNIPA や学生掲示板で案内したが，参加の申し込みがなかったため，開催は中止となった．後日の学生ニーズ調査では，クリスマス英会話イベントに申し込まなかった理由には，「開催を知らなかった」「英会話に自信がなかった」「講義や実習で余裕がなかった」が多かった．UNIPA やポスター，講義時のアナウンスで周知を行ったが，開催を知らなかった学生が半数以上おり，周知方法の検討が必要である．また，新カリキュラムでは，英語の科目は充実されつつ，次年度以降は英語に限定しない国際交流イベントの企画の検討も必要となる． **4．教員の国際共同研究支援** 協定校である MSUM のハンス教授より共同研究の打診があり，本学教員に周知し応募を募った．3 名の教員より応募があり，共同研究の推進を図った． **5．MSUM との学生派遣・受け入れに関する検討（オンライン会議含む）** 学生の海外派遣再開に関する大学方針の決定に基づき，MSUM の担当者との話し合いを 2022 年 7 月 8 日と 12 月 2 日にオンラインで実施した．研修期間は 2023 年 3 月 11 日～26 日で合意し，研修プログラム内容の調整を行った．今年度は 3 名の学生の応募があり，選考の結果 2 名の派遣となった．また，学生の派遣中の生活の細かな情報を確認し，安全に学生派遣できるように担当者との調整，情報共有を図り，派遣学生に対してもオリエンテーションを実施した．MSUM での研修は現地教員による綿密なプログラムと手厚いサポートにより，参加学生の満足度は非常に高かった．渡航における危機管理については，国際交流センター主導のもと，アイラック安心サポートデスクの活用が実現できた．これにより，随時，安全性の確認ができるようになった． また，2024 年度より MSUM から本学への派遣希望があり，本学の受け入れ研修の各大学の受け入れ人数の見直し，プログラムの目的の見直しを行った．

活動概要	**6. TMU からの研修生受入れと学生派遣に関する検討** 大学方針により海外派遣等の規制が緩和され，TMU からの研修生受入れおよび学生派遣について検討した．これまで TMU からの研修生受入れ期間は 7 月中であったが，次年度の時間割の改正や新カリキュラム施行の影響を考慮し，受け入れ時期の検討や受け入れ研修プログラム内容の検討を行った．2023 年度は学事変更にともない 2023 年 6 月 26 日～7 月 7 日と決定した．6 分野と 2 科目，大学病院看護部や高槻市の協力を得て受け入れ研修を開催予定である．また研修生の人数は，2024 年度に MSUM の研修生受入れを予定していることを鑑み，全体数 10 名のうち 4～6 名とした．2023 年度は 6 名，2024 年度は 4 名の受入れを行うということで，TMU 担当者と合意を得た． 本学から TMU へ研修派遣（2023 年 3 月 13 日～24 日）については，応募者がいなかった．世界情勢を鑑み，追加公募は行わなかった． **7. MSUM 主管のオンライン国際交流学習プログラム（CRISIIS: Connecting and Reflecting in Student International Interactive Study)）の実施** MSUM が主幹で実施するオンライン国際交流学習プログラムに今年度は 1 年生 1 名の応募であった．参加学生は MSUM の 2 名の学生と計 3 名で 1 つのグループとなり，9 月～12 月までにオンラインで「PTSD」をテーマに設定して活動を行った．「英語に自信がなく参加を迷ったが，たくさんの学びがあり良い刺激になった」等の感想があった．また，プログラム開始前・修了後には，海外の全参加校の担当教員らと，オンライン会議にて情報共有と振り返りを行った． **8. 国際交流教育講演会の開催** 学生，大学院生，病院看護師，教員を対象とし，12 月 16 日（金）に「国際交流活動の実際から，多様な看護の道を知ろう！」をテーマに講演会を開催した．講師に森つばさ先生（康生会武田病院看護師，本学大学院博士後期課程在学）をお迎えし，海外での看護経験や在住外国人への看護経験についてご講演いただいた．36 人の参加があった．参加者のアンケート結果より，講演内容に対する高い評価が得られ，講演会の目的である看護の実際の理解や興味・関心につながったといえる．一方，学生の参加が少なく参加者の募集が課題である． **9. 英語論文 writing group 活動支援** MSUM が主催する Writing Group の情報発信と参加までの支援を行った．第 1 回は 2022 年 9 月 21 日～12 月 7 日の毎週水曜日に開催され，MSUM から 3 名，カンタベリー大学から 3 名，本学から 3 名（教員 1 名，大学院生 2 名）が参加した．書籍「Writing your journal article in twelve weeks」の内容に沿って進行され，論文執筆だけでなく，投稿までのプロセスについて議論がなされた．参加者からは，論文執筆に関する助言が得られるだけでなく参加者同士で親交を深めることができたと満足度の高い感想が得られた．第 2 回は 2023 年 2 月 1 日から 12 週間の予定で開催されており，本学より教員 4 名，大学院生 1 名が参加している．

活動概要	**10. SDGs 活動** 身近な国際交流の中での医療や看護についての課題解決を図る SDGs 活動を立案し，学生に応募を募った結果，2 年生 2 名，1 年生 1 名の計 3 名の応募があり活動を開始した．オリエンテーション，SDGs の学び，意見交換，計画立案など今年度は計 8 回の活動を行った．学生によって活動名を「NEXUS（Nursing Education×Universal Sustainable cities and community）」とし，1．高槻市在住の外国籍で医療を必要とする人の生活上の困りごとやニーズを調査する．2．大学病院の外国籍患者の受診状況と支援体制，看護の実際を調査すると目標を設定し，今年度は課題を明らかにするための計画立案を行った． **11. 国際交流に関するニーズ調査の実施** 学生のニーズを把握するため，Google アンケートを行った．164 件（1 年生：80 件，2 年生：8 件，3 年生：70 件，4 年生：6 件）の回答が得られた．その結果，約半数の学生が国際交流への興味をもっていた．関心のある企画として，外国人との交流や，海外で活躍する日本人との交流があった．しかし，2022 年度に開催したプログラムには英語への自信のなさや，科目履修の多忙さなどを理由に，97.6%が参加していなかった．講義や実習に影響せず学生の登校時間に合わせられるような開催日時の設定，学生が抵抗なく参加できるような企画が求められる．
評価	**1. 効果が上がっている事項** 1）MSUM からの好意的なアプローチにより，学生交流だけでなく，英語論文活動支援や共同研究など教員同士の交流も活発になっている． 2）MSUM 研修プログラムは充実しており，参加学生の満足度が非常に高い． 3）COVID-19 感染症拡大によりオンライン会議が一般的となり，情報共有やディスカッションの方法も多岐にわたり海外との交流が容易になった． 4）海外派遣における危機管理について，国際交流センター主導のもと安心サポートデスクの活用ができるなど体制整備がなされた． **2. 改善すべき事項** 1）国際交流センターが発足し間もないことから，今後，センターと委員会の役割を整理しながら連携・協働していく必要がある． 2）国際交流委員会の活動について学部内での共有をしていきながら，持続可能性を見据えた活動展開が必要である． 3）COVID-19 感染症や紛争など世界情勢が不穏であることや経済的事情も影響してか，海外留学を希望する学生が少ない．留学への関心を高めていくと同時に，母国にいながら国際交流が展開できる仕組みづくりも必要である．
将来に向けた発展方策・課題	国際交流センターとの連携・協働のもと，互いの役割を整理し，国内外における国際交流活動を展開していく．そのなかで，学部の特性をふまえた活動を検討し，医学部，薬学部に発信していく．

委員会名	（13）障がい学生支援委員会	SDGs との関連	
目的	障がいのある学生が，講義・演習・実習において他の学生と等しく教育や受験の機会が得られるよう適切な支援（合理的配慮）を提供することを目的とする．		
構成員	久保田正和（委員長），赤澤千春（学部長），佐々木綾子（実習委員長）， 津田泰宏（校医），二宮早苗（教育センター委員），澤村律子（保健管理室）， 武田千賀，藤原敏洋（看護学事務課）		
活動計画	1．次の各号に掲げる事項について審議し，その実施にあたる． 1）講義・演習・実習の課題に関すること 2）支援体制に関すること 3）施設・設備の整備に関すること 4）その他，障がいのある学生への支援に関する必要なこと		
活動概要	**1．障がい学生支援委員会の開催** 第 1 回～第 3 回委員会：申請のあった学生の支援計画書について審議，承認．第 4 回（2022 年 11 月 22 日）：3 年生の学生の申請について審議が行われ，障がいの程度が不安定であることから保留とした．12 月以降に提出される主治医の診断書の結果を受けて当委員会で改めて出席の可否を判断することにした． 第 5 回（2022 年 12 月 22 日）：3 年生の学生から申請があったが，配慮の希望が「遅刻を認める」など実習の目的を考えると承認し難い内容であったため，各委員からまずは体調を整えることが先決ではないかと意見があり保留とした．→1 月 11 日に支援の取り下げの申請書（様式 3）が提出され受理した． 第 6 回（2023 年 1 月 4 日－18 日）：ペンディングとなっていた 3 年生の学生について，実習に出ることは厳しい状況にあるが，診断書には実習参加が可能であるとの記述もあり，家族の協力を得て大学としてできる範囲で合理的配慮を進めることになった．		
評価	**1．効果が上がっている事項** 1）申し合わせ事項に法律を根拠にしていること，障がいという言葉を明記することで，支援の対象となる障がいがある程度明確になったこと． 2）支援終了後，学生への面談において配慮に関する満足度は高かった． **2．改善すべき事項** 1）どこまで配慮を行うかについて大きな課題が残った．学習の到達度と配慮のバランスが難しい．急性期の学生に対する配慮は不適当である可能性が高い．		
将来に向けた発展方策・課題	1．障がい学生支援のあり方について法律を根拠にした合理的配慮を継続する． 2．主治医の診断書を重視するが，場合によっては校医と意見交換を行っていただくことが必要である．また急性期の場合，まずは治療を優先し体調を整えてから実習に臨むことを伝え，その後支援につなげていく．		

委員会名	（14）看護学分野別評価 ワーキンググループ	SDGs との 関連	
目的	看護学教育の質の維持・向上をめざして，今年度受審する看護学教育評価に向けて自己点検・評価報告書を作成・提出し，実地調査に対応するとともに，さらなる教育改善を図る．		
構成員	鈴木久美（委員長），赤澤千春，小林道太郎，真継和子，草野恵美子， 川端由夏，中野恵梨子，武田千賀（看護学事務課）		
活動計画	1．今年度分野別評価の受審に向けたロードマップを確定する． 2．自己点検・評価報告書と評価基準・チェックシートを提出する． 3．実地調査を受け，指摘事項に対して教育改善を図る．		
活動概要	**1．委員会の開催** 9 回の委員会を開催した． **2．今年度分野別評価の受審に向けたロードマップの確認** 第 1 回の委員会で今年度の受審に向けたロードマップを再確認し，自己点検・評価報告書の本提出と実地調査の準備，実地調査の日程，評価報告書に対する意見申立書などについてのスケジュールを確認した． **3．看護学教育評価自己点検・評価報告書の草案の修正と本提出** 4 月に報告書の草案の修正点について確認し，本提出に向けて修正をした．5 月 20 日に日本看護学教育評価機構に看護学教育評価自己点検・評価報告書，評価基準・チェックシート，根拠資料一覧などを提出した． **4．実地調査への準備と受審** 大学の施設案内と授業参観の動画作成，質問書への回答書の作成，実地調査当日の準備（学生や若手教員の選出）を行った．10 月 20 日にオンラインで実地調査を受け，そこで指摘された事項について見直し，指摘事項の改善を図った． **5．評価報告書への対応** 12 月 28 日に評価報告書が届き，それに対する意義申立てがないかを確認した．評価報告書のなかで 2 点齟齬があり，1 月 10 日に意見申立書を日本看護学教育評価機構に提出した．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 3 月 14 日に日本看護学教育評価機構より，最終の評価報告書が届き，「適合」の判定を受け，4 点の長所・特色があげられていた．なお，検討課題と改善勧告は「なし」という評価であった． **2．改善すべき事項** なし		
将来に向けた発展方策・課題	1．さらなる学部教育の質向上に向けて，定期的に自己点検・評価を行い，教育上の課題の改善を図る．		

委員会名	（15）本学部看護学生を対象とする研究審査会	SDGs との関連	
目的	看護学部生に対し学部内および学部外から研究協力の依頼があった場合に，基本的な事項，内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する．		
構成員	佐々木綾子（委員長），カルデナス暁東，鈴木美佐		
活動計画	1．研究協力依頼方法のホームページでの公開 2．研究審査書類の不足・不備の確認および研究協力依頼申請者への再提出の依頼 3．研究協力受諾の可否の審議 4．研究協力依頼申請者への審議結果の通知		
活動概要	**1．研究審査会の開催** 研究協力依頼申請は 4 件あった．申請があった際に，その都度，研究審査会議を開催した． **2．研究協力受諾に関する審議** 「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」（2019 年 5 月改訂版）に則り，研究協力の時期や分量などが学生にとって無理がないか，研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した．研究協力は，原則として研究協力に同意した学生が個別に回答することとしていることから，学生に強制したり，単位認定に影響がでないか，また，学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した． 研究協力受諾可は 2 件，1 件は不可とした． **3．研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ** 学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して不明な点や，申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった．		
評価	**1．効果が上がっている事項** 研究協力依頼申請があった際に，速やかに研究審査会議を開催し，審議した．研究者にとっては，研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり，審議結果を速やかに通知することができた． **2．改善すべき事項** 特になし．		
将来に向けた発展方策・課題	1．研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施． 2．1 の審議結果の通知実施．		

4）教育活動

（1）授業科目一覧

2017～2021年度入学生（2～4学年次）用

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								20単位
		物理学		講義	1		○							以上
		くらしの中の倫理		講義	1		○							●必修科目13単位 ○選択科目7単位以上（人間理解と異文化理解から5単位以上、社会理解から2単位以上含まれていること）
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		人間関係論		講義	1	●								
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	1	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		医療英語		演習	1					●				
		国際言語文化		講義	2	○								
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇		←
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇								
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		感染と免疫		講義	1	●								28単位
		からだと栄養		講義	2		●							以上
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
	保健と医療	医学概論		講義	1		○							
		医療人マインド（2021年度～多職種連携論１－医療人マインド）		講義	1	●								
		専門職連携医療論（2021年度～多職種連携論２－医療と専門職）		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				←
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	

専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑
		日常生活援助技術		演習	3		●							79単位以上
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	1				●					
		老年看護学実習Ⅱ		実習	3						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					
	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		←
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	14	13	8	20	4	5	
必修単位数合計					112	13	18	24	18	10	20	4	5	
履修登録できる単位数の上限					164	48		47		39		30		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2022年度入学生（1学年次）用

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	基盤科目	アカデミックスキル		講義	1	●								↑
		情報リテラシー・データサイエンス		演習	1		●							
		キャリアマネジメント		講義	1	●								20単位
		心理学		講義	1	●								以上
		人間関係論		講義	1	●								●必修科目13単位
		倫理学		講義	1	●								
		統計学		講義	2		●							
	人間と科学	生物学		講義	1	○								
		化学		講義	1	○								
		物理学		講義	1		○							
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		医工薬連環科学遠隔講座		講義	2	○		○		○		○		
	人間と社会	大阪を学ぶ		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		くらしと社会		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		哲学		講義	1		○							
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
		異文化論		講義	1		○							
	人間と言語	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								○選択科目7単位以上（人間と科学から2単位以上、人間と社会から5単位以上含まれていること）
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		医療英語		演習	1					●				
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇		←
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	
基礎科目必修単位数					13	6	4	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	人間と健康	からだの仕組みと働きⅠ(基礎)		講義	2	●								↑
		からだの仕組みと働きⅡ(発展)		講義	2		●							
		感染と免疫		講義	1	●								26単位
		からだと栄養		講義	2		●							以上
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		健康科学論		講義	1	○								●必修科目23単位
		病気の成り立ち		講義	2		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●					
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						○選択科目3単位以上
		リハビリテーション医学		講義	1					○				
	健康と環境	医学概論		講義	1		○							
		多職種連携論1-医療人マインド		講義	1	●								
		多職種連携論2-医療と専門職		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学		講義	2	●								
		疫学	◎	講義	1				○					
		ヘルスプロモーション論	◎	講義	1					○				←
		リスクマネジメント		講義	1					●				

専門基礎科目必修単位数					23	6	9	4	3	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							81単位
		フィジカルアセスメント		演習	1				●					以上
		看護展開論		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
専門科目	療養生活支援看護	成人看護学概論		講義	2		●							●必修科目75単位
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習		実習	3						●			
	地域家族支援看護	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		地域・在宅看護論		講義	1	●								
		地域・在宅ケア実習		実習	1		●							
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ		講義	1				●					
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1								○	
		医療カウンセリング		演習	1								○	
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	◎, ☆	講義	1				○					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	2								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇	
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8								◇	
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		災害看護論	◎, ☆	講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		多職種連携論3-医療倫理		講義	1					●				
		多職種連携論4-医療安全		講義	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				
		国際交流演習		演習	2		○		○		○		○	
		原著講読		演習	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1						●			←
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					75	3	9	14	12	8	21	3	5	
必修単位数合計					111	15	22	19	16	10	21	3	5	
履修登録できる単位数の上限					177	55		46		41		35		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

看護実践発展科目から看護実践発展実習を含む3単位以上含まれていること）

（2）各分野の教育活動

分野名	基礎看護学分野
担当教員	土肥美子，川北敬美，二宮早苗，赤崎芙美，宮島多映子
担当科目	看護学概論，日常生活援助技術，看護アセスメント，治療過程に伴う援助技術，看護管理，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	「看護学概論」では，看護の歴史，看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」を中心に，看護活動の場，看護倫理，看護教育等について教授した． 「看護アセスメント」では，イレウスの患者事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した． 「日常生活援助技術（1 年）」および「治療過程に伴う援助技術（2 年）」では，大学病院看護部から実習指導者を派遣いただき，演習を行った．これまで「日常生活援助技術」で教授していた『無菌操作』や『浣腸』を「治療過程に伴う援助技術」に移行し，『バイタルサイン測定』や『体位変換』などの演習の充実を図った． 「基礎看護学実習Ⅰ」および「基礎看護学実習Ⅱ」では，健康管理と感染予防策の徹底をはかり実習を行った．一部，実習病棟の変更はあったものの，COVID-19 やインフルエンザによる延期や中断なく実習を実施した．基礎実習Ⅰ開始時に 4 種感染症ワクチン未接種者が複数名おり，関連部署との調整を要した． 「看護管理」では，『看護管理の実際』の単元で，2 名の看護部長より講義をしていただいた．学生は基礎知識と実践がつながったという感想をもっていた． 「統合看護学実習」では，東住吉森本病院の緩和ケア病棟で 7 名，第二東和会病院の地域包括ケア病棟・回復期リハ病棟で各 2 名の実習を行い，8 月には実習での学びの発表会ならびに各実習施設の患者を想定した OSCE を行った． 「卒業演習」では，各教員が 2～3 名の学生を担当し卒業論文を作成した．12 月の発表会では PowerPoint を用いて各自プレゼンテーションを行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 「日常生活援助技術」の単元の一部を「治療過程に伴う援助技術」に移行したことで，『バイタルサイン測定』などの演習時間を十分に確保できた．「治療過程に伴う援助技術」についても，診療補助技術の知識を理解したうえで『浣腸』などの演習をすることで学生の理解がスムーズであったと考える． **2．改善すべき事項** 「基礎看護学実習Ⅰ」開始時点でのワクチン未接種者，実習期間中の実習記録管理不備については，学生への説明強化および，記録の返却方法を見直す． 「基礎看護学実習Ⅱ」においては電子カルテのパスワード失念者が多数発生した．パスワードの管理方法について，オリエンテーションで強化が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	新カリキュラムにより，「基礎看護学実習Ⅱ」の実習時期の変更や「フィジカルアセスメント」の追加，「看護展開論」への科目名変更となるため，学生の学修状況を経年で評価していくことが必要である．

分野名	看護教育学分野
担当教員	池西悦子
担当科目	看護教育，リスクマネジメント，キャリアマネジメント，看護学概論，基礎看護学実習Ⅰ，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「看護教育」は，これまで受けてきた教育を振り返り，教育学の理論との統合を促すために，事前課題による準備性向上とミニレポートでアウトプットを促進した．また，実習体験のリフレクションから，自己の強みと課題を明確化する授業を展開した．「リスクマネジメント」は，医療安全に関する理論の理解と，臨地実習にむけたリスク感性の向上，および自己の傾向に気づけるように，KYT や事故事例の分析，個人特性の評価を取り入れた．「キャリアマネジメント」では，看護職のキャリアマネジメントの実際を通して，自己のキャリアについて考えることを目指して，看護職を招き，キャリアマネジメントの実際の講演と質疑応答を取り入れた．「統合看護学実習」は，5 名の学生を受け入れ，兵庫県立尼崎総合医療センターでは，CNS と共に看護実践に参加したり，現任教育の実際を見学することを通して，看護の専門性の理解を深める実習を 1 週間展開した．また，大阪医科薬科大学病院の 62 病棟では，看護師個人・チーム・病棟のマネジメントを学ぶ実習を 1 週間展開した．「卒業演習」では，看護職のストレスコーピングや職業継続要因に関する文献検討を行い，看護職の継続に関する知見を明らかにした．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 授業評価の結果から，看護職の講演と質疑応答など，看護職の実際を通して学ぶ授業は，学生の学習内容への関心を高め，自分自身に引き寄せて考えることに繋がっていた．また，学生のミニレポートの内容へのフィードバックは，学生の理解と定着を促進していた． 統合看護学実習は，今年度からマネジメントの実習 1 週間を取り入れた．領域実習ではマネジメントを学ぶ機会がなかったため，就職に向けて重要であると評価されていた． **2．改善すべき事項** グループワークは感染対策を講じる必要があり，オンラインを活用した．オンラインによるワークは円滑であるが，有効性については検証が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	いずれの科目においても，事前課題を含めて視覚支援教材を積極的に活用し，より具体的な理解の促進につなげる．看護教育においては，生涯学習力の基盤となる知識，技術の習得につながるように，自己の考えをアウトプットする課題，多面的に検討するグループワークなどを取り入れる．統合実習，グループワークの支援に必要なマンパワーの獲得が課題である．

分野名	人文社会学分野
担当教員	小林道太郎
担当科目	アカデミックスキル，情報リテラシー・データサイエンス，倫理学，哲学，異文化論，医療倫理学，原著講読，卒業演習，インタラクティブ・イングリッシュ I・II
現状の説明	アカデミックスキルは 2022 年度より新設された．当分野以外の 4 名の担当者とともに，レポートの書き方とグループワーク・発表を中心とした授業と課題のチェック・コメント等を行った．情報リテラシー・データサイエンスは，大阪医科薬科大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの一部として，前年度の情報リテラシーから構成を変更して，一部内容はアカデミックスキルに移動し，実際にデータを扱って発表を行う内容を新たに加えた． 倫理学は 1 年後期から前期に移動し必修科目となった．2 年生の医療倫理学がなくなる予定であるため，医療倫理の内容を含めて講義を行った．異文化論は国際言語文化にかわる選択科目であり，文化の捉え方や異文化コミュニケーションに関する授業を行った．哲学，医療倫理学，原著講読はこれまでから継続の科目であり，引き続き内容をアップデートして授業を行った． 以上の各科目について，今年度よりオンデマンド授業を導入した（情報リテラシー・データサイエンスは 4 回，他は 1～2 回）． 卒業演習は 3 名の学生を担当し，発表会は実践支援看護学領域合同で行った． インタラクティブ・イングリッシュは三学部合同・オンラインの自由科目として今年度より科目化された．他学部の担当教員および事務課と共同して授業準備・運営を行った．ネイティブ講師による授業を一部見学し，採点登録等を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 新設・変更科目は，グループワークや発表，課題提出など含め，全般に大きな問題なく進行した．学生からはグループワークや発表は勉強になったという意見が多かった．また他の科目でも一部 respon を使用したやりとりは好評であった． **2．改善すべき事項** アカデミックスキルと情報リテラシー・データサイエンスは，今年度の経験をふまえて，より効果的な授業となるよう学生へのフィードバックやグループワーク・発表の時間の割り振りについて修正を行う．異文化論は，今年度はすべて担当教員が講義を行ったが，次年度は一部外部講師を入れて実際の海外経験に基づく話をしてもらう． オンデマンド授業は特に問題はなかったため引き続き行っていくことを予定しているが，手入力の出欠管理をよりタイムリーに行っていく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	学生が主体的に授業に参加し，自分で何かを考えたり発見したりする経験ができるよう，講義科目でも学生にワークや話し合いをしてもらう部分を増やしていきたい．倫理学，異文化論，データサイエンス等は，特に社会の変化に対応して教える内容を毎年アップデートしていくことが必要である．

分野名	急性期成人看護学分野
担当教員	赤澤千春，寺口佐與子，勝山あづさ
担当科目	成人看護学概論，急性期成人看護援助論，急性期成人看護学援助方法，急性期成人看護学実習，統合実習，卒業演習，災害看護論
現状の説明	一部授業をオンライン，ハイブリッド形式で実施した．また，オンライン授業でも双方向性を確保するため，ディスカッション・発表を積極的に取り入れた．1年生の成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を教授した．2 年生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論，身体心理社会的な看護問題と介入について教授した．3 年生前期の急性期成人看護学援助方法では，既習知識を活用し，周手術期患者の事例をもとにした看護計画の立案とロールプレイ演習を展開し，具体的な看護介入方法の探求と理解を目指した．後期の急性期看護学実習で周手術期患者の受け持ちを通し，生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案・実行・評価することで，急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度の習得につなげた．また，選択科目の災害看護論では自衛隊衛生部隊による災害時の応急処置や搬送等の実技指導を受けた．4 年生の統合実習では 1～3 年生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て，急性期看護についての学びを深めた．また，卒業演習として興味のあるテーマに関する文献検討に取り組み，論文作成と研究発表を実施した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について，1 年生から 3 年生まで講義，演習，実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで，急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象，アセスメント，看護ケアを学ぶことができている．また，双方向ツール respon での小テストを取り入れることで学生の主体的な学習行動につながっている． **2．改善すべき事項** ①「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着を図ることと，3 年生では，その応用に適した事例を用いて理解させる必要がある．その準備が不十分だと，急性期領域実習の看護過程を展開することが困難となるため，根気よく指導する必要がある． ②看護問題抽出を多角的にとらえることができるように，必要な基礎知識とその応用ができるように絶えず学生に問いかけ，指導していく必要がある． ③実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や，患者入院期間の短縮に伴い，心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ，早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	現象を学生の持っている知識に照らし合わせて「言語化」することで学びはより深くなる．そのために，演習，実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり，「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる．

分野名	慢性期成人看護学分野
担当教員	飛田伊都子，カルデナス暁東，柴田佳純
担当科目	成人看護学概論，慢性期成人看護学援助論，慢性期成人看護学援助方法， 慢性期成人看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	成人看護学概論では，成人である対象のライフステージと健康レベルに応じた身体的・社会的・精神的特徴が理解できるようにできる限り事例を紹介しながら授業を行った．援助論では，取り上げる事例数を減らし，看護過程やアセスメントに関する説明時間を増やしアセスメント力強化に努めた．対面授業を行い，感染対策に留意しながらグループワークも取り入れた．援助方法では，教員が作成した事例に基づき，講義と事例展開，技術演習を行った．学生の基本的理解を把握できるように事前課題を提示し，授業中には学生の創意工夫の視点や学生間の双方向の力を共有できるアクティブ・ラーニングを取り入れる授業設計にした． 慢性期成人看護学実習は，大学病院の 4 つの病棟で実施する予定であったが，コロナ感染拡大の影響により 4 クールのうちの 2 クールは 3 つの病棟で，例年と同様に一人以上の受け持ち患者について実際に看護過程を展開した．学生が病（やまい）とともに生きる患者の理解と継続看護の特性を考察できることを重視した．当該期間中には医師および CNS による臨床講義を取り入れ，医学部・薬学部との多職種連携カンファレンスも実施した．統合実習は学生の実習テーマに応じて実施し，大阪医科薬科大学病院，大阪医科薬科大学三島南病院，沖永良部島徳洲会病院，高槻日赤病院で実施した．卒業演習は，教員が 1-2 名の学生を受け持ち，学生が選ぶテーマに応じて文献検討を行い，論文を作成し学内発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 感染対策に留意しながら講義・演習（グループワークや技術演習）を対面で実施することができた．その影響か特に援助方法では再試験対象者はおらず，全般的に能動的な授業参加ができていた．また，コロナ感染拡大の影響（実習病棟の変更）もあったが，実習先との綿密な連携により，目標達成を意識して健康管理を行い，実習に臨む学生が多くみられた． **2．改善すべき事項** 講義および演習科目では，看護展開するための事例をイメージしやすくする工夫を検討していきたい．また実習では，学生の特性や到達度を考慮し，実習終了時には目標に到達できるように，実習先の指導者と教員の連携による指導体制を強化したいと考える．多職種連携や倫理的課題についても理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい．
将来に向けた発展方策・課題	概論・援助論・援助方法・実習と続く学習プロセスに沿った思考の整理について学生が意識できるような授業設計を行い，分かりやすい説明が必要である．知識と技術の統合を基盤とし，病（やまい）とともに生きる対象とその家族に対する看護援助について系統的に思考を深め，学習課題を焦点化して授業を計画する．事例の倫理的課題や意思決定支援に関しても理解を深める授業内容を検討する．

分野名	精神看護学分野
担当教員	荒木孝治，瓜﨑貴雄，山内彩香
担当科目	人間関係論，精神看護学概論，精神看護学援助論，精神看護学援助方法，精神看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「概論」では精神看護の基本概念と精神医療の歴史と法制度などを，「援助論」では統合失調症や気分障害といった精神疾患とその看護に関する基本的知識を教授した.「援助方法」では統合失調症やうつ病などの事例を用い，セルフケア理論に基づいて看護過程を展開して，精神障がい者への看護の方法を教授した.「卒業演習」では計 7 名を担当し，学生の関心に沿って文献研究を指導した. 「精神看護学実習」は，附属病院精神神経科病棟と精神科訪問看護ステーションで各 1 週間の実習とし，生活を中心に据えた切れ目のない看護の視点を養えるようにした．多職種連携 - 臨床カンファレンスは 7 回実施し，75 名の学生が参加した.「統合看護学実習」は，前年度に引き続き，単科精神科病院のデイケア，グループホーム，地域生活支援センター等での計 2 週間の実習とし，精神障がい者の地域生活を支える地域包括ケアシステムの視座を盛り込んだ実習展開とした.
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義演習科目では，昨年度の授業評価をふまえ，ロールプレイや視聴覚教材の活用など教授方法を工夫し，学習効果を考慮して資料配布のタイミングを検討するなどした．科目の授業評価において，9 割程度の学生から，「学習目標を達成できた」との回答を得た．実習科目では，個別に事例検討を行い，既習の学習内容と照らしつつ指導した結果，学生は患者に関心を向け続け，生活歴や強みをふまえた看護を考えることができた．授業評価では全ての学生から「実習目標を達成できた」と回答を得た．多職種連携 - 臨床カンファレンスのアンケート結果では，プログラム構成に課題を有するものの，学生は医師や薬剤師の実践活動の内容を知り，連携・協働のあり方やその重要性を学べたことが見受けられた. **2．改善すべき事項** 講義では学生が精神看護学に対する興味・関心を高め，基本的な知識を習得できるように，引き続き教授方法の工夫を図っていく必要がある．演習ではコロナ禍においても，学生同士で学びを共有できるように課題設定や運営方法を検討する必要がある．実習では，実習目標を達成できるように，また，実習ポートフォリオに記した学生のめざす看護職者像に近づけるように，看護場面を振り返り，具体的に指導していく必要がある.
将来に向けた発展方策・課題	精神障がい者の地域生活を支えることについて，学生は実習の経験を通し，その課題の重要性に気づいていたが，既習の知識を活用して具体的な援助方法を考えることができるように，引き続き授業内容や教授方法を工夫していく必要がある．多職種連携 - 臨床カンファレンスの学習効果を一層高めるために，ディスカッションテーマや時間配分などのプログラム構成を検討する必要がある.

分野名	老年看護学分野
担当教員	久保田正和，樋上容子，杣木佐知子
担当科目	老年看護学概論，老年看護学実習Ⅰ，老年看護学援助論，老年看護学援助方法，老年看護学実習Ⅱ，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	2022 年度も感染症の影響により授業形態の変更を余儀なくされた．前期は学生の半分が対面，半分がオンラインという変則的な形態があったが，差が出ないよう同じ内容の事前・事後課題を増やし，また，教員による模擬患者の動画教材の活用により，紙面だけでは想定が難しいペーパーペイシェントについてより現実味のある事例展開をイメージできるよう工夫した.「実習科目」は高齢者を対象とするという特性上，昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた.「実習Ⅰ」では，老人福祉センターの利用者が少なく，コミュニケーションを取る機会も減少したが，グループ間での情報共有を行い，ディスカッションを行うことで相互に学習内容を補った.「実習Ⅱ」では各クールで施設の受入れ状況が変わったため，学習の到達度を均し，効果を高める為の工夫が必要であった．特に半日実習のグループでは，学内実習により病棟で得た患者情報や学びについて経過を把握し，さらに学生間でディスカッションの時間を増やして看護実践を補った．ディスカッションでは，倫理的課題や意思決定支援等について深く学ぶことができた.「実践と理論の統合」では，グループディスカッションを取り入れることで，個々の学びを他学生と共有し，学びを深めることができた.「統合看護学実習」は，実習の総まとめとして，学生が立案した実習計画のもと主体的に実習を進めることができた.「卒業演習」では，学生の関心のあるテーマに沿い計画的に進め，事例研究や文献研究などを行い，卒業論文としてまとめ，学内発表を行った．
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 新型コロナ感染症の影響を受けてから 3 年目に入り，動画教材の蓄積やブレイクアウトルームの活用により学習効果を高める工夫が出来てきたと考えられる．実習では高齢者が対象ということもあり厳しい対応を迫られる中，授業評価で多くの学生が有意義であったと述べており，学内実習の工夫により実習科目としての質の担保はできたと考えられる． **2. 改善すべき事項** 授業形態が変化している中で，いかにして学習の効果を高めることができるかを柔軟に考え，動画の作成や事例検討演習をさらに増やし，学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫を継続していく必要がある．実習は様々な事態を想定し，学内実習内容の工夫など多くのチャンネルを準備しておく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	講義・演習においても，臨地実習においても学びを学生同士で共有することの重要性を再認識でき，学びを定着させるためにも，ディスカッションの機会を多く取り入れていく．また，講義演習と実習との繋がりを意識できるような内容を取り入れた授業を低学年次から進めていく．

分野名	がん看護学分野
担当教員	鈴木久美，土井智生
担当科目	がん看護学総論，チーム医療論，看護研究法，看護と生体診断法，看護実践発展総合演習，看護実践発展実習，統合看護学実習，卒業演習 アカデミックスキル，地域・在宅ケア実習
現状の説明	「がん看護学総論」では，知識の教授のみならず，がん医療で遭遇する倫理的課題のグループディスカッションを取り入れ，倫理観の醸成に努めた．さらに，授業後には学生からの感想や質問を募り，フィードバックを行うことで疑問点を解消した．「チーム医療論」ではアクティブ・ラーニングを取り入れ，より良いチーム形成に必要となる要素について学生間でディスカッションを行うことで学びを深められるようにした．「看護研究法」では理解度確認の課題提示と解説を行うことで理解を促すようにし，学生が各々の興味関心のあるテーマで卒業演習に取り組めるように工夫した．「看護と生体診断法」は，講義および事例を用いた演習で展開しつつ授業を行った．「看護実践発展総合演習」では，卒業時到達目標の観点から学生が看護実践能力の達成度を振り返るようにし，繰り返し演習を行うことでアセスメント力と技術力を身につけられるよう工夫した．「看護実践発展実習」では重症度やケア度の高い患者を受け持ち，判断力や実践力を強化する実習を行った．「統合看護学実習」では 7 名，「卒業演習」では 5 名の学生を受け入れ，学生の関心に沿ってテーマを決めて取り組み，それぞれ成果の発表会を行った． 「アカデミックスキル」では，他分野の教員と連携し，大学で学ぶための基礎的技法を教授した．「地域・在宅ケア実習」では，地域で暮らす対象者の多様性について学べるような実習指導を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 学生の理解度を確認しフィードバックを行いながら授業を進めたことにより，担当科目において肯定的な授業評価を得ることができた．また，COVID-19 の影響を受けた学生が出た際には，授業の様子を録画してオンデマンド形式で配信したり実習施設と密に連携を図ったりしたことで，学習の機会と質が損なわれないよう対応することができた．「がん看護学総論」では，90%以上の学生から興味関心が高まり，満足したとの評価を得た．「看護実践発展実習」では学生は実践力強化の重要性を理解し，積極的に学ぶことができていた．「統合看護学実習」および「卒業演習」では，学生自らが目標を立てて主体的に取り組むことができた． **2．改善すべき事項** 学習目標達成に向け，事前・事後課題を効果的に織り交ぜながら授業を展開していく．また，学習内容が多い科目であるが故に質問も多く，Moodle を活用してフィードバックの時間を調整し，疑問点を解決できるような授業にしていく．
将来に向けた発展方策・課題	細やかな学習のフィードバックを継続して知識の定着を図るとともに，実践力強化の面でも卒業時到達目標を目指し，学内でのシミュレーション教育や臨地での実践的教育を強化していく．

分野名	臨床医学分野
担当教員	安田稔人，津田泰宏
担当科目	からだの仕組みと働きⅡ，病気の成り立ち，フィジカルイグザミネーション，病気の成り立ち，病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ，急性期成人看護援助論，災害看護論
現状の説明	これからの超高齢社会における健康寿命の延伸のために，看護学においても運動器は重要な分野である．また，生活習慣病といわれる疾患の病態や背景を学生の間から学ぶことも大切である．臨床医学の授業は講義形式であるが，できるだけ双方向授業を心掛けている．また，画像（単純 X 線像や超音波画像，MRI など）や動画（歩容の観察，内科的診察手技，外科手術など）を提示し，臨床現場をイメージできるように工夫している．さらに，授業中にワークシートでの解剖用語の穴埋めなど能動的な学習も行えるようにしている．運動器の講義では，実際の日常生活の中で，人はどの神経を使って，どの筋肉が収縮させることで，どの関節が動いて，どのように体が動くのかを学生に考えさせている．超高齢社会において看護職が多職種と連携し，急性期，回復期，生活期リハビリテーションを介して患者さんと関わっていく必要性を医師の立場から説明している．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 1 年次から解剖と病気を並行して学ぶことで，今，学んでいる解剖は疾患のどのような病態や治療を理解するために重要であるかを学生に教えている．また，国家試験対策として解剖生理，病気の講義中に，過去にその範囲で出題されている国試問題を学生に提示（レスポンを使用）して，授業時間中に学生の理解度を確かめるとともに，授業終了時に授業難易度に関するアンケート調査を行い，次回授業や次年度授業に役立てている． **2．改善すべき事項** 解剖生理，病態については国試のためだけではなく，将来，看護師として患者さんと関わり，フィジカルアセスメントや援助を行っていく中でどう役立てるかが重要である．授業の中でこのことを説明し，実際の臨床の場面を学生がイメージできるような，学生にとってわかりやすい授業を行っていく．
将来に向けた発展方策・課題	これからの医療においては，研究力や知識，技術などの個人の力はもちろん重要であるが，同時に医療チームとしての力を高めることも欠かせない．その中で医師は日常診療で何を考えて患者さんと接しているかをできる限り，学生に伝えて，卒業後の多職種連携の手助けになるよう，授業や実習中に学生に教育していく．臨床医学において，「患者さんのために」という想いは医師も看護師も同じであり，正しくアセスメントして，治療，援助を行うためにも患者さんを診る力を学生の間から身につけてもらうことが大切である．これからの超高齢社会においては転倒予防が重要であり，患者さんと接する機会の多い看護師の役割は大きい．姿勢，身体の変形や歩容から転倒リスクをアセスメントすることも今後の課題である．

分野名	小児看護学分野
担当教員	竹村淳子，鈴木美佐，倉橋理香
担当科目	小児看護学概論，小児看護学援助論，小児看護学援助方法，家族看護学，小児看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（小児），卒業演習
現状の説明	今年度授業は，コロナ感染症対策による一部オンラインを併用しつつ，ほぼ通常の授業形態となった.「小児看護学概論」では，主体的な学習姿勢を養うために子どもの発達支援や法規等について PBL によるグループワークを取り入れた.「小児看護学援助論」では，小児看護がイメージしやすいよう視聴覚教材を積極的に用い講義を展開した.「小児看護学援助方法」では，小児特有の疾患事例を用い，年齢や病期に応じた看護過程の展開を行った．看護技術演習は，感染予防に努めつつ実施し，基本技術習得とともに，ディスカッションで体験に基づく学びを深めた.「家族看護学」では，家族を捉えるための基本的な理論および，家族支援専門看護師の実践活動に関する講義を行った後，事例展開を行った.「小児看護学実習」では，8 日間の小児・NICU 病棟実習および保育室・小・中学校・特別支援学校実習 2 日間を実施した. 学校実習 小学校 1 校ではインフルエンザによる学級閉鎖のため，急遽実習内容を変更し，当該校での学校長講話に加えて学内演習（養護教諭の役割および学校での健康障害を想定した演習）を実施した.「看護実践と理論の統合」の事前演習では，各病棟の特徴および対象児の特性に合わせた事例に関する実技演習を実施し学生の準備性を整えた.「統合看護学実習（小児)」は，本学と外部施設を使用し，看護マネジメントの視点と子どもと家族を取り巻く医療・福祉・教育関係者の支援について実習を展開した．難病の子どもと家族のためのキャンプについては Zoom で開催されたイベントに参加し，難病の子どもと家族の日常について学ぶことができた．実習後には実習指導者を招いて学びの発表会を実施した.「卒業演習」では，学生 7 名が個々の関心からテーマを絞り文献研究をすすめるプロセスを学び，学内発表会で成果を共有できた.
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 授業等の活動が平常化しており，円滑に授業の展開ができている．また，視覚教材の活用を行い，子どものイメージ化を促し，学生の理解を深めている．実習においては，特に NICU 実習のイメージ化を図るため実習直前の知識整理と実技に関する学習プログラムを考案し，実習に対する準備性が高まった. **2．改善すべき事項** PBL におけるグループ学習への取り組みに学生間の差があるため，課題導入時の工夫やディスカッション時の具体的支援の必要性がある．オンデマンド授業と課題の組み合わせなど，学生がより主体的に学習に取り組める方法について検討していく.
将来に向けた発展方策・課題	小児看護学実習では，受け持ち可能な患児の減少や入院期間の短縮等が考えられるため，今後も複数学生による受け持ちスタイルの学習効果を検証していく.「統合看護学実習」における難病キャンプへの参加は継続していく予定であり，健康障がいのある子どもへの支援を広い視野で考える機会としたい.

分野名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子，竹　明美，近澤　幸，笹野奈菜，間中麻衣子
担当科目	セクシュアリティと看護，リプロダクションと看護，母性看護学概論，母性看護学援助論，母性看護学援助方法，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学 I，助産診断・技術学 II，助産管理，助産学実習，看護実践と理論の統合，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	講義科目では，新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し，対面とオンライン授業を行った．講義の冊子体資料を前半と後半に分け配布した．最新の国家試験出題傾向を分析し，教育に活用した．また，15 回開講の科目のうち前期 1 科目，後期 3 科目において期末試験，小テストの他，中間試験を行った． 演習科目では，実践的演習をめざし，オリジナルのアセスメントツール，実践的模擬事例，教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした．また，助産診断・技術学Ⅱでは，シミュレーション教育を行った． 実習では，実習施設との連携，教育設備の充実，教材整備・教材開発，医学部・大学病院看護部との連携により，基本的な看護実践能力の育成を行った．また，多職連携-臨床カンファレンスでは，統合に伴い医学部・看護学部に加え，薬学部との合同カンファレンスを行った．さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み，施設と地域の切れ目ない支援の視点を持てるようにした．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 前年度の学生の授業評価をふまえ，また，コロナ禍に臨機応変に対応しながら講義・演習内容の改善を行うことができた．試験では期末試験，小テストの他，中間試験により，形成的評価を行った結果，平均点が増加した．3 学部による多職連携-臨床カンファレンスでは，お互いの実践活動を知り，連携・協働のあり方について深める機会となった．助産学実習では，9 月末までに 7 名全員が分娩介助実習を終了し，助産師国家試験合格率も 100％を維持できた． **2．改善すべき事項** 次年度も，対面とオンライン講義による小テスト・中間テストや練習問題，予習課題，反転授業，復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する．2023 年度の助産師国家試験受験資格選抜は 6 名を選抜した．2023 年度はコロナ禍の影響と出産数の減少傾向が予想されている．10 例程度の分娩介助例数確保のため，事例展開などによる教育の質の担保を行っていく．さらに，周産期医療・地域母子保健関連の課題，2022 年度のカリキュラム改正をふまえ，施設と地域の切れ目ない支援の視点の強化を次年度も継続していく．
将来に向けた発展方策・課題	視覚支援教材などの積極的活用，学生の習得状況を丁寧に確認し，看護実践力を育成する．各学生が，確実な知識・技術習得に加え，生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する． 助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ，大学教育における助産学教育のあり方について検討する．助産学実習施設確保のための努力を継続する．

分野名	在宅看護学
担当教員	真継和子，大橋尚弘，佐野かおり
担当科目	地域・在宅看護論，地域・在宅ケア実習，在宅看護学概論，在宅看護学援助論，在宅看護学援助方法，在宅看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（在宅），卒業演習，家族看護学，医療カウンセリング
現状の説明	講義では COVID-19 感染症拡大に対応し，授業は対面授業と双方向型 Web 授業の併用で実施した．今年度より新カリキュラムがスタートし，1 年次より地域・在宅看護論を開講した．人々の価値や生活の多様性を理解するために，ディスカッションを多く取り入れた．事前学習として UNIPA への課題提示，オンデマンド動画の配信，事後は学生の質問に対するフィードバックを強化した．視聴覚教材の活用のほか respon による双方向型授業を展開し，知識の確認および定着を図った． 演習では実践を重視するとともに，実習との連動を図った事例の提示，模擬訪問の実施，ロールプレイングとディスカッションにより理解を深めるようにした． 実習では，感染予防対策の強化と実習施設との情報共有を密に行いながら実施した．新カリキュラムである「地域・在宅ケア実習」では，学生らの関心テーマから実習施設を選定，高槻市 NPO 法人の協力を得，多様な場でのケアのあり方を見学，参加できるようにした．今年度の「在宅看護学実習」「統合看護学実習（在宅）」では，実習施設により訪問件数に差はあったものの，全員が訪問に同行することはできた．また，オンラインを活用したカンファレンスや指導が可能となった．3 月には実習施設と Web による実習報告会を実施した．「卒業演習」は 7 名の学生が選択し，個々の関心からテーマを絞り込み，論文作成，学内発表までできた．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 1 年次の「地域・在宅看護論」「地域・在宅ケア実習」では，学生間のディスカッションを多く取り入れたり，自主的な活動となるよう仕掛けづくりをしたりしたことで，積極的な参加に繋がり学習意欲が高まっていた．実習先からも高評価を得，学生の自信につながっていた．2 年次生以上は，Web 上での資料提示や視聴覚教材の効果的な活用，フィードバックの充実により，授業評価においても在宅看護への関心の高まり，理解の深まりにつながっていた． **2．改善すべき事項** 在宅看護への関心は高まったものの，特に講義科目での定期試験は過去の平均点を大きく下回り，知識の定着について課題が残った．実習科目では，学生間の到達度に差が大きく，アセスメントや対象の理解の充実が課題である．アクティブ・ラーニングによる主体的学習力の強化，教授内容の精選と実践活動との連動，講義内における小テストや中間テストの実施による知識の確認と定着が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	「地域・在宅看護論」「地域ケア実習」の学修成果を 2 年次以降の学修につなげていき，地域包括ケアの時代におけるケアの多様性と在宅看護の視点を定着させる．また，主体的な学習と医療を取り巻く社会現象への関心を高める方法を検討する．在宅看護学実習施設の確保し施設とともに地域の看護の質向上に努めていく．

分野名	公衆衛生看護学
担当教員	草野恵美子，山埜ふみ恵，堀池　諒，濱浦弘美
担当科目	必修：公衆衛生看護学概論，公衆衛生看護学活動論，統合看護学実習（公衆衛生看護学分野），卒業演習/選択科目：公衆衛生看護学活動方法，公衆衛生看護学管理論，ヘルスプロモーション論，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習Ⅰ，公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	昨年に引き続き，授業はオンラインと対面学習の併用で実施したが，演習・実習は概ね対面で実施できた．公衆衛生看護活動方法や公衆衛生看護管理論では，グループワークや発表会を実施し学生の成果の可視化や学びの共有に努めた．公衆衛生看護学実習Ⅰは学生 37 名が履修し，COVID-19 感染拡大の中，大阪検疫所はオンライン実習となったものの，他の実習施設は対面にて，例年通り 5 月に実施することができた．公衆衛生看護学実習Ⅱの履修者は 37 名であり，7 グループに分かれて実習を行った．実習地は，富田林保健所と河内長野市，吹田市，大阪市福島区，兵庫県宍粟市（一宮町，波賀町），兵庫県赤穂市，兵庫県神崎郡神河町であった．COVID-19 感染拡大により保健所・市町村ともに業務多忙であったが，実習施設のご協力により予定通りの期間，例年通りの日数の実習ができた．臨地実習先では，健康教育は全数実施したが，COVID-19 感染拡大により家庭訪問ができない実習施設もあった．統合看護学実習は 8 名が履修し，学生は主体的に実習課題を設定して，社会福祉協議会と地域包括支援センターで実習し，最終日には発表会にて学びを共有した．卒業演習は 7 名の学生が研究テーマを設定し，論文作成と研究発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 1）COVID-19 は依然，感染拡大状況ではあったが，緊急事態宣言がでることはなく，今年度は，保健所はじめ，ほぼ感染拡大前の実習を実施でき，学生は現場で多くを吸収することができた． 2）地域診断などに必要な情報は年々，ウェブサイト上からの収集が必要であることから，公的機関で Wi-Fi がない実習施設が多く，実習先でもインターネットを使えるように ICT の活用を行った．これを用いて，遠隔地と学内をカンファレンス時につなぐことも可能となった． 3）保健所・市町村実習における実習目標に照らした学生の自己評価ではいずれの項目も COVID-19 の影響により実習日数の制限があった 2020・2021 年度よりも「できた・よくできた」と回答した学生の割合が増加した． **2．改善すべき事項** 自己評価において年々増加しているものの最も低かったのは「公衆衛生看護管理」についてであり，今後強化していく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	わかりにくい保健師活動のイメージを高めるために，実習に行く前の早い段階（2~3 年生）で，引き続き，実践現場の保健師活動に触れる機会を増やすとともに，住民等対象者の生の声を聴く演習を追加する． 統合看護学実習時期が 4 年生の 11 月であるため実習時期の検討が必要となる．

分野名	社会医学分野
担当教員	土手友太郎
担当科目	公衆衛生学（1 年次），公衆衛生学・疫学（2 年次），保健医療福祉概論，統計学，大阪を学ぶ，卒業演習，情報リテラシー・データサイエンス，災害看護論
現状の説明	今年度から 2 年次対象であった公衆衛生学・疫学の講義科目名を公衆衛生学と変更して，1 年次に必須科目で実施となった．また次年度から疫学は，2 年次を対象として選択科目となる．公衆衛生学・疫学は従来の 2 年次を対象として今年度のみ実施した．以下の各科目（公衆衛生学・疫学，保健医療福祉概論，統計学，大阪を学ぶ，災害看護論，情報リテラシー・データサイエンス）について，今年度よりオンデマンド授業を導入した．面接授業においては，双方向授業アプリを用い，リモコン端末から，リアルタイムで設問やアンケートを回答させた．また面接授業とオンデマンド授業の両方において，respon で予習復習，授業中および終了前に小テストを実施した．採点結果は各テストの正解数のみを正解とともに公開した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 予習復習，授業中および終了前に小テストを実施したことにより，授業への準備状況が改善した．また授業中および終了前にも実施することで授業への集中力を維持しやすくなった．授業後,結果を速やかに公開することで，学生の理解度を学生全員と教員で共有できたため，次回以降の授業内容の補足や追加ができた．毎回のテストの実施により授業期間における学生の形成評価ができ，集計により総括評価ができた． **2．改善すべき事項** オンデマンド授業の回数や時期は，担当する授業科目だけでなく，同日の他の講義科目数や時限により，有用性が増減するので，臨機的な工夫が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	オンデマンド授業は実施時期を学生に任せることで自主的な学習を促すことができるため，今後大いに採用すべき教育技法である．よって，授業科目に応じた最適の回数や時期を検討していく．

Ⅲ.　看護学研究科

1. 教員組織

1） 教員構成および教員数

【看護系教員】 2023 年 3 月 31 日現在

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
実践 支援看護学	看護教育学	1			
	看護技術開発看護学	1	3		
	人文社会学	1			
療養生活 支援看護学	移植・再生医療看護学	1	1		
	がん看護学	1			
	慢性看護学	1	1		
	精神看護学	1	1		
	老年看護学	1	1		
	臨床医学	2			
地域家族 支援看護学	母性看護学	1		2	
	小児看護学	1	1		
	地域看護学	1			
	在宅看護学	1	1	1	
	社会医学	1			
	プライマリケア看護学	2	2	1	
計（実人数）		15	9	3	

2. 年間事業

1） 年間事業活動内容

看護学研究科では表に示すように大学院委員会が年間計画を立案し，教育および研究の向上を目指し事業を実施している．2022 年度に実施した主な事業を報告する．

（1）教育活動について

教育活動に関しては大学院委員会が院生の教育がスムーズに展開できるように計画実行している，詳細は大学院委員会報告で述べている．

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で，講義，実習，研究計画発表会などリモートを用いて行い，年間計画通りに実施できた．

（2）研究活動について

大学院生に個人研究費を配分しているが，これに加えて民間助成金への応募も活発に行われるようになってきている．

2）　2022 年度看護学研究科予算執行額

予算執行額　　2,034,211 円（予算額　220 万円）

「内訳」

予算額　200 万円　執行額　2,000,000 円

（看護学研究科設置経費（入試，入試・教育要項作成，学生証，実習費，申請業務費用等）

予算額　10 万円　　執行額　　0 円（大学院特別講義）

予算額　10 万円　　執行額　　34,211 円（大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ）

3)　学生在籍数

【博士前期課程】　2022 年 5 月 1 日現在

コース	専門分野	1 年	2 年	在学年限延長他	合計
教育研究	看護教育学	2	1		3
	看護技術開発看護学				0
	移植・再生医療看護学				0
	がん看護学	1	1		2
	慢性看護学	1			1
	精神看護学				0
	老年看護学				0
	母性看護学				0
	小児看護学				0
	地域看護学				0
	在宅看護学		1		1
高度実践	がん看護学	1			1
	慢性看護学		1		1
	精神看護学		1		1
	老年看護学	2	1		3
	母性看護学				0
	小児看護学		2		2
	プライマリケア看護学	2	1		3
合計		9	9		18

【博士後期課程】　2022 年 5 月 1 日現在

領域名	1 年	2 年	3 年	在学年限延長他	合計
実践支援看護学				1	1
療養生活支援看護学	3	2	6		11
地域家族看護学	1	1			2
合計	4	3	6	1	14

2022年度 看護学研究科学事予定表

4月

日	曜	内容
1	金	臨時看護学研究科教授会 新入生オリエンテーション
2	土	入学宣誓式（学部・大学院）
3	日	
4	月	（院）月①
5	火	（院）火①
6	水	（院）水①
7	木	（院）木①
8	金	（院）金①
9	土	（院）土①
10	日	
11	月	（院）月②
12	火	（院）火②
13	水	（院）水②
14	木	（院）木②
15	金	（院）金②
16	土	研究計画、中間発表会
17	日	
18	月	（院）月③
19	火	（院）火③
20	水	（院）水③
21	木	（院）木③
22	金	（院）金③
23	土	（院）土②
24	日	
25	月	（院）月④
26	火	（院）火④
27	水	（院）水④ 看護学研究科教授会15:00
28	木	（院）木④
29	金	昭和の日
30	土	（院）土③

履修登録期間

5月

日	曜	内容
1	日	
2	月	（院）月⑤
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	（院）金④
7	土	（院）土④
8	日	
9	月	（院）月⑥
10	火	（院）火⑤
11	水	（院）水⑤
12	木	（院）木⑤
13	金	（院）金⑤
14	土	（院）土⑤
15	日	
16	月	（院）月⑦
17	火	（院）火⑥
18	水	（院）水⑥
19	木	（院）木⑥
20	金	（院）金⑥
21	土	（院）土⑥
22	日	
23	月	（院）月⑧
24	火	（院）火⑦
25	水	（院）水⑦ 看護学研究科教授会15:00
26	木	（院）木⑦
27	金	（院）金⑦
28	土	（院）土⑦
29	日	
30	月	（院）月⑨
31	火	（院）火⑧

6月

日	曜	内容
1	水	創立記念日
2	木	（院）木⑧
3	金	（院）金⑧
4	土	（院）土⑧ 入試説明会・個別相談会
5	日	
6	月	（院）月⑩
7	火	（院）火⑨
8	水	（院）水⑧
9	木	（院）木⑨
10	金	（院）金⑨ 【秋季】論文タイトル締切
11	土	（院）土⑨
12	日	
13	月	（院）月⑪
14	火	（院）火⑩
15	水	（院）水⑨
16	木	（院）木⑩
17	金	（院）金⑩
18	土	（院）土⑩
19	日	
20	月	（院）月⑫
21	火	（院）火⑪
22	水	（院）水⑩ 看護学研究科教授会15:00
23	木	（院）木⑪
24	金	（院）金⑪
25	土	（院）土⑪
26	日	
27	月	（院）月⑬
28	火	（院）火⑫
29	水	（院）水⑪
30	木	（院）木⑫

7月

日	曜	内容
1	金	（院）金⑫
2	土	（院）土⑫
3	日	
4	月	（院）月⑭
5	火	（院）火⑬
6	水	（院）水⑫
7	木	（院）木⑬
8	金	（院）金⑬ 【秋季】主査・副査推薦締切
9	土	（院）土⑬
10	日	
11	月	（院）月⑮
12	火	（院）火⑭
13	水	（院）水⑬ 高度実践コース実習報告会
14	木	（院）木⑭
15	金	（院）金⑭
16	土	（院）土⑭
17	日	
18	月	海の日
19	火	（院）火⑮
20	水	（院）水⑭
21	木	（院）木⑮
22	金	（院）金⑮
23	土	（院）土⑮
24	日	
25	月	【秋季】修士・修士論文 提出（正午迄）
26	火	
27	水	（院）水⑬ 護学研究科教授会15:00 （【秋季】主査・副査の決定）
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

8月

日	曜	内容
1	月	【秋季】口頭試問【最終試験】
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	山の日 夏季閉鎖期間
12	金	夏季閉鎖期間（予定）
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	【秋季】論文発表会
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	臨時看護学研究科教授会 15:00
25	木	【秋季】（修正版） 論文提出締切 16:50迄
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

口頭試問期間

9月

日	曜	内容
1	木	
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	看護学研究科入学試験
18	日	
19	月	敬老の日
20	火	
21	水	看護学研究科教授会15:00 （【秋季】学位授与可否審議）
22	木	成績開示 入試合格者発表16:00
23	金	秋分の日
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	【秋季】修士・博士論文 製本提出締切 16:50迄

履修登録変更期間

授業日程表の見方

・〇数字は、各曜日授業の回数を示します。

※各授業、特別研究・課題研究については、指導教員と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。

※授業科目については、時間割表を参照してください。

2022年度 看護学研究科学事予定表

10月		
日	曜	内容
1	土	(院)土①
2	日	
3	月	(院)月①
4	火	(院)火①
5	水	
6	木	(院)木①
7	金	(院)金①
8	土	(院)土②
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	(院)火②
12	水	
13	木	(院)木②
14	金	(院)金②
15	土	(院)土③ 解剖慰霊祭
16	日	
17	月	(院)月②
18	火	(院)火③
19	水	研究計画発表会
20	木	(院)木③
21	金	(院)金③
22	土	(院)土④
23	日	
24	月	(院)月③
25	火	(院)火④
26	水	看護学研究科教授会15:00
27	木	(院)木④
28	金	(院)金④
29	土	(院)土⑤
30	日	
31	月	(院)月④

11月		
日	曜	内容
1	火	(院)火⑤
2	水	
3	木	文化の日
4	金	(院)金⑤
5	土	(院)土⑥
6	日	
7	月	(院)月⑤
8	火	(院)火⑥
9	水	
10	木	(院)木⑤
11	金	(院)金⑥ 論文タイトル締切
12	土	(院)土⑦
13	日	
14	月	(院)月⑥
15	火	(院)火⑦
16	水	
17	木	(院)木⑥
18	金	(院)金⑦
19	土	(院)土⑧
20	日	
21	月	(院)月⑦
22	火	(院)火⑧
23	水	勤労感謝の日
24	木	(院)木⑦
25	金	(院)金⑧
26	土	(院)土⑨
27	日	
28	月	(院)月⑧
29	火	(院)火⑨
30	水	看護学研究科教授会15:00

12月		
日	曜	内容
1	木	(院)木⑧
2	金	(院)金⑨
3	土	(院)土⑩
4	日	
5	月	(院)月⑨
6	火	(院)火⑩
7	水	
8	木	(院)木⑨
9	金	(院)金⑩ 主査・副査推薦締切
10	土	(院)土⑪
11	日	
12	月	(院)月⑩
13	火	(院)火⑪
14	水	
15	木	(院)木⑩
16	金	(院)金⑪
17	土	(院)土⑫
18	日	
19	月	(院)月⑪
20	火	(院)火⑫
21	水	看護学研究科教授会15:00 (主査・副査の決定)
22	木	(院)木⑪
23	金	(院)金⑫
24	土	(院)土⑬
25	日	
26	月	(院)月⑫
27	火	(院)火⑬
28	水	
29	木	冬季閉鎖期間
30	金	冬季閉鎖期間
31	土	冬季閉鎖期間

1月		
日	曜	内容
1	日	冬季閉鎖期間
2	月	冬季閉鎖期間
3	火	冬季閉鎖期間
4	水	
5	木	(院)木⑫
6	金	(院)金⑬
7	土	(院)土⑭
8	日	
9	月	成人の日
10	火	(院)火⑭
11	水	
12	木	(院)木⑬
13	金	(院)金⑭
14	土	
15	日	
16	月	(院)月⑬
17	火	(院)火⑮
18	水	
19	木	(院)木⑭
20	金	(院)金⑮
21	土	
22	日	
23	月	(院)月⑭
24	火	
25	水	看護学研究科教授会15:00 修士・博士論文提出(正午迄)
26	木	(院)木⑮
27	金	
28	土	(院)土⑮
29	日	
30	月	(院)月⑮
31	火	

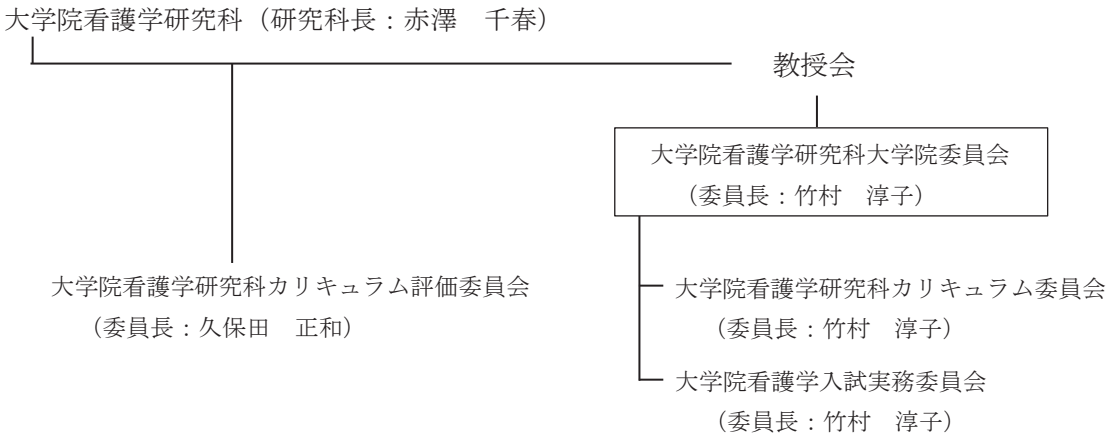
2月		
日	曜	内容
1	水	口頭試問【最終試験】
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	研究計画発表会
11	土	研究計画発表会 (建国記念の日)
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	論文発表会
17	金	論文発表会
18	土	論文発表会
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	看護学研究科教授会15:00
23	木	天皇誕生日
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	(修正版)論文提出締切 16:50迄
28	火	

口頭試問期間

3月		
日	曜	内容
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	入試説明会・個別相談会
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	臨時看護学研究科教授会 (学位授与可否審議)
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	成績開示
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	春分の日
22	水	看護学研究科教授会15:00
23	木	
24	金	学位記授与式
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	修士・博士論文 製本提出締切 16:50迄

3. 運営と教育活動

1）　運営組織



2）委員会

委員会名	（1）看護学研究科大学院委員会	SDGs との関連	
目的	看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ,大学院生の教育,研究,学位審査,学生生活に関する事柄,また,入学試験等に関する協議を行い,必要事項を審議事項,報告事項として教授会に提議する.		
構成員	竹村淳子（委員長），津田泰宏（副委員長），小林道太郎，草野恵美子， 寺口佐與子，川端由夏（看護学事務課），田中佑美（看護学事務課）		
活動計画	1. 教育課程全般の運営 2. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し アセスメントリストに沿った評価,カリキュラム変更に伴う学修成果の経年的評価 等 3. 大学院教育における国際性の涵養 JANPU の大学院評価項目に基づく自己評価 4. 学位論文申請審査に関する修正点の評価 学位論文の提出方法,評価点の変更について 5. 学位論文（博士）の投稿先に関する検討 6. 博士前期課程（修士）高度実践コースのカリキュラム検討と更新申請に向けた準備 7. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立 8. 入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価，AP の評価入学方式の相違による成績推移 9. 広報活動推進と受験者獲得に向けた対策 本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり 等 10. 学習環境,学生サービスの充実 11. 大学院生間の情報交換，交流の場の確保 等 12. FD の推進 13. 大学院運営力の強化教員と事務の連携強化 14. 新型コロナ感染症への対応		
活動概要	**1. 教育課程全般の運営** 1）委員会の開催 13 回の委員会（定例 11 回，臨時 3 回）を開催した. 2）新入生オリエンテーション 4 月に新入生を対象に，教育課程と履修方法，学生生活に関すること，TA/RA について対面にて説明した．また，科目等履修生を含めて共通科目および分野別のガイダンスを実施した．履修相談は随時受け付けた. 3）既修得単位認定に関する事項		

活動概要	新入生のうち 5 名の既修得単位認定にあたり該当科目の科目責任者との調整，認定の可否について検討した． 4）学位論文に関する事項 2021 年度修了生の学位論文要旨および審査結果の HP での公開を 5 月に行った．学位論文の公表について，これまで印刷公表としていたが，機関リポジトリの整備を行い，2022 年度修了生より機関リポジトリを用いたインターネットによる学位論文全文の公表を行うこととした． 学位論文申請から論文提出までのマニュアルを提示し，学位論文申請，論文審査，提出等が円滑に実施されるよう調整した．口頭試問の場の確保，論文発表会の企画・運営を行った．学位論文発表会は 2 月 16 日，17 日，18 日の 3 日間にわたり実施した．学位論文の最終評価のまとめと修了単位取得状況を確認し，教授会に諮った． 学位論文発表会の詳細は以下のとおりである． 2 月 16 日（木）博士前期課程 4 名 2 月 17 日（金）博士前期課程 4 名 2 月 18 日（土）博士後期課程 4 名 5）特別研究・課題研究に関する事項 4 月に新入生の主指導・副指導教員の調整を行い，教授会に諮った．セメスター毎にグループ指導の実施状況について把握し，規定回数に満たない場合には指導教員に実施を促した．4 月，2 月に博士後期課程の中間発表会，4 月，10 月，2 月に両課程の研究計画発表会を開催した．詳細は以下のとおりである． （1）中間発表会：4 月 16 日（土）2 名 2 月 11 日（土）3 名 （2）研究計画発表会：4 月 16 日（土）博士後期課程 1 名 10 月 19 日（水）博士後期課程 1 名 2 月 10 日（金）博士前期課程 5 名 2 月 11 日（土）博士後期課程 2 名 6）高度実践コース実習に関する事項 高度実践コース（CNS）実習報告会を 7 月 13 日に開催し，小児看護学 2 名，老年看護学および慢性看護学，プライマリケア看護学分野それぞれ 1 名ずつの発表があった．COVID-19 感染拡大はあったものの実習への影響はほとんどなかった． 7）TA オリエンテーションおよび研修の実施 TA6 名を対象に，TA の目的・役割・心得についてオリエンテーションを 5 月に 2 回実施した．また，TA 研修として博士前期課程前期科目「看護教育学特論 I」のうち 2 コマ，博士前期課程後期科目「看護現任教育論」のうち 2 コマ，「看護倫理」のうち 1 コマを受講してもらった． 8）入学前補習授業の実施 2023 年度入学予定者を対象に，大学院での学びや研究の進め方，文献検索とク

活動概要	リティークについて 2023 年 3 月 4 日，18 日の 2 日間にわたり補習授業を実施し，入学予定者 7 名全員の参加があった．アンケート結果でも高評価を得，入学前に同級生との繋がりができることや大学院での学習について知る機会となっていた．一方で，補修授業の内容については，入学生の特徴をふまえて検討していく必要がある． 9）科目等履修生の募集 2022 年度後期，2023 年度前期の科目等履修生の募集，選考に際しての出願書類の確認を実施し，教授会に諮った． 10）科目担当教員についての事項 科目担当教員（常勤教員，兼担教員，非常勤教員）について，新たに科目を担当する教員についての業績書類の確認と審議，兼担および非常勤教員の継続に関して審議し，教授会に諮った． 11）ベスト・ティーチャー賞の公示・投票 ベスト・ティーチャー候補者の選考に関する要領に沿って該当教員を選出し，ベスト・ティーチャー細則にもとづき博士前期課程および博士後期課程の院生に 2023 年 1 月末に公示，2 月に投票を実施した．その結果を教授会に諮った． 12）長期履修の申請について 2 月に 2 名からの申請があり，状況を確認し教授会に諮った． 13）授業評価アンケートの実施 2 月に在学生を対象に授業評価アンケートを実施し取りまとめ，教授会で報告し共有した．回収率は博士前期課程 75%，博士後期課程 57.1%であった． 14）研究業績調査の実施 3 月に在学院生，修了生に調査依頼をした． 15）就職先アンケート調査の実施 修了生の就職先である病院の教育担当者に調査依頼をしたが，回答期日の延長を図ったものの回答を得られなかった．回答者と修了生の関係の近さもあるため今後は調査方法を検討することとした． 16）講義担当者変更について 博士前期課程科目「看護理論」「看護管理学」について，科目責任者の体調不良により担当教員の追加申請が行われ，教授会に諮った． 17）教育要項の作成 各種アンケート結果ならびに学生からの要望をもとに，学位論文執筆要領において不明瞭な点を明確化した． 18）特別研究および課題研究の担当基準の見直し 現在の「特別研究（博士後期課程）」，「特別研究・課題研究（博士前期課程）」担当者について，入学生の状況によって担当基準を満たしにくい分野があることから再度見直しを行い，大学院生の指導経験数，高度実践コースにおいては医療専

活動概要	門職としての実務経験年数を考慮して副指導にあたることができるよう検討し，教授会に諮った．2023 年度より新基準で実施することとなった． 19）新分野設置について 　医学系教員および人文系教員が特別研究の主指導が可能となったことを受け，新分野として 2022 年度には療養生活支援看護学領域に「臨床医学」，地域家族支援看護学領域に「社会医学」，2023 年度には実践支援看護学領域に「人文社会学」が加わった． **2.　教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し** 1）カリキュラム評価,修了生アンケートの分析 　4 月に，2021 年度のカリキュラム評価および修了生アンケートの結果を取りまとめ，教授会で共有した．また，2022 年度の調査を 2 月に実施した．回収率は，博士前期課程（教育研究コース）57.1%，博士前期課程（高度実践コース）66.7%，博士後期課程 50%，教員 69.2%であった． 2）各種データに基づくカリキュラムの検討 　2021 年度カリキュラム評価および修了生アンケート結果，9 月に実施されたアセスメントリストに基づく自己点検・評価結果に基づき，大学院カリキュラム上の課題を確認した．特に博士前期課程の高度実践コースにおける科目の過密さが課題となった． **3.　大学院教育における国際性の涵養** 1）院生が参加できるよう「学位論文を海外雑誌に投稿する際の留意点および研究者としての姿勢」とする講演を FD として企画した． 2）国際交流機構：台北医科大学「2022 TMUN Online Exchange Program」の案内をし，博士後期課程の学生が参加した． 3）　博士後期課程の学生 1 名が，EAFONS 2023 において演題発表を行った． **4. 学位論文申請審査に関する修正点の評価** 　昨年度作成された学位論文申請から最終評価までのマニュアルに沿って実施し，また改めて主査の役割を明確化し，滞りなく審査が実施されたことを確認した． **5. 学位論文（博士）の投稿先に関する検討** 　近年，粗悪学術誌が増えていることから，海外雑誌に論文投稿する際の投稿先基準について検討を行った．過去の修了生の投稿先を確認したところ，いずれも公表条件の基準は満たされていた．粗悪学術誌の基準は曖昧かつ流動的であることから，当面海外雑誌の投稿先の基準は特に設けず，論文投稿の際は十分検討し選択するよう教員から指導することを周知した． **6. 博士前期課程（修士）高度実践コースのカリキュラム検討，更新申請に向けた準備** 　更新申請の対象となったのは，「共通科目」ならびに「慢性看護学」「精神看護学」「小児看護学」の 3 分野である．「母性看護学」については，申請時点での教員の着任が未定であるため，今回の申請は行わないこととなった．

活動概要	2023 年 7 月の申請に向けて，シラバス，教員の体制等を見直し順調に準備を進められた． **7. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立** CNS およびナースプラクティショナー（以下，NP）の資格取得については，いずれも大学院修了後に認定試験が実施される．修了生の合格率の維持・向上に向けて，フォローアップ体制が必要であることが確認され，今年度は，修了生のキャリア支援のニーズ調査を実施した．認定試験に向けて，修了生自身が強く意識せずとも，各分野の教育課程内での指導が，認定試験につながっていることなどがわかった．一方で，指導を受けていないとの回答もあり，今後の専門分野の能力の向上に寄与する具体的な方策を検討していくことが，検討課題と考えられた． **8. 入試に関する事項** 1）入学試験の準備，実施，感染対策 入学試験要項に関して，ディプロマポリシーの修正，科目名の修正，分野の追加（臨床医学，社会医学），出願資格の修正（後期課程の出願資格で筆頭論文が 1 編に変更など），入学検定料の修正（35,000 円に），本学卒業生の入学金半額免除の記載，入学手続き書類の部分の加筆修正などを行なった．COVI D-19 蔓延下であったが，例年通りの日程で入学試験を行う方針にて準備を行い，文科省のガイドラインに準じた感染予防対策を講じた上で 2022 年 9 月 17 日に実施した．今年度も無症状の場合には濃厚接触者であっても一定の条件を満たせば受験を許可する方針とした．試験後に入試関係者からの感染の発生は認めなかった． 2）2022 年度大学院入試 出願資格審査の実施 出願資格審査基準に沿って，申請者 3 名の審査を実施した． 3）入試要件の検討に関して 出願資格に関して，学士号なし修士号保持者は文部科学省高等教育局大学振興課に問い合わせた結果，大卒者と同様の取り扱いとすることとした． 4）入試成績の分析，AP の評価 前期課程の出願数は 10 名で前年より 4 名減少したが，選考の結果 7 名を合格とし，7 名が入学手続きを行った（定員数の 0.875 倍）．高度実践コースの出願が増えている．後期課程の出願者数は 6 名で前年より 1 名増加，合格者は 5 名で全員が入学手続きを行った（定員数の 1.67 倍）．前期課程の今年の総得点の平均は昨年より 30 点以上増加した．昨年が低すぎたためで，例年並みと考えられた．後期課程の総得点は昨年より増加し，今までで最も高得点であった．専門共通の平均点が昨年よりもかなり上がっているのが特徴的であった．博士前期課程の出願者数が減少傾向であり，今後対策を検討する必要があるかもしれない．後期課程は出願資格の論文数を 2 編から 1 編としたこともあり，出願者数は 1 名増加した． **9. 広報活動推進と受験者獲得に向けた対策（本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり 等）** 1）入学者用パンフレット・リーフレットの見直し，ポスター作成

活動概要	これまでパンフレットとリーフレットの作成を行っていたが，COVID-19 感染拡大により施設への訪問が減少したこともあり，今年度はリーフレットを廃止し，施設での掲示を想定した広報用ポスターを作成した．ポスター作成に伴い，大学院生・教員の広報用写真を新たに撮影し，内容構成や写真等を一新した．また 2021 年度に開講した高度実践コース NP 教育課程の紹介を引き続き掲載するとともに，医学系教員の研究分野の説明や新たな開講科目の紹介を掲載することとした． 2）入学試験要項見直し 入学試験要項を見直し，受験者によりわかりやすい要項となるよう修正した． 3）「入試説明」「英語文献の読み方講座」HP 上での動画配信 新型コロナ感染症拡大により，引き続きオンデマンド形式による入試説明と分野紹介，修了生による大学院紹介を実施した．2022 年度は入試説明会・個別相談会を対面（ハイブリッド）での開催としたが，参加者より事前にオンデマンド視聴したことにより理解が深まったとの意見があり引き続きオンデマンド形式による動画配信は行うこととした． 4）入試説明会・個別相談会の実施 新型コロナ感染症対策に配慮し，対面と Web 会議システム（ZOOM）によるオンライン（LIVE 形式）を併用したハイブリッド方式にて入試説明会・個別相談，在学生との懇談会を実施した．また，Web による個別相談は随時，受け付けた． （1）第 1 回個別相談：2022 年 6 月 4 日（土）13 名（別日相談含む） （2）第 2 回個別相談：2023 年 3 月 4 日（土）11 名（別日相談含む） 5）ホームページの更新 随時ホームページ更新を実施し，情報発信に努めた． 6）在学生への広報活動 3 年生を対象に，就職支援委員会との連携のもと，1 月 21 日（土）の 3 年生就職ガイダンスの機会を活用して大学院についての紹介および在学中の大学院生による講演を行った．学生より，肯定的な回答が得られ，進路選択の提供や大学院の進学についてより身近に感じてもらう機会となった． **10．学習環境，学生サービスの充実** 1）大学院生の交流会 4 月 16 日（土）に大学院生の交流会を開催した．時間が短かったという前年度アンケート結果をふまえ，土曜の研究計画発表会・中間発表会後に 1 時間で実施した．院生 19 名，教員 14 名の参加があり，6 グループに分かれて二つの講義室で意見交換や院生へのアドバイスを行った．参加者アンケートではほとんど肯定的な回答が得られた． 2）学生への支援方針 障害のある学生への支援方針の策定を行った． 3）教育訓練給付講座の再申請 博士前期課程において教育訓練給付制度講座（厚生労働省指定）の有効期間満

了のため，再申請を行った．

4）学生生活ガイドの作成

学生生活ガイドを更新し配布した．

5）学生調査の実施

2 月に学生調査を行い，前期課程 11 名（69 %）後期課程 7 名（50 %）の回答を得た．特に前期課程の学生に経済的不安があること，ハラスメントを受けたとする学生がいること等が示された．コロナ禍の影響は前年度より小さくなった．

11．FD の推進

（1） 4 月 16 日（土），大学院生の交流会の後「学位論文を海外雑誌に投稿する際の留意点および研究者としての姿勢」をテーマに本学 飛田伊都子教授の講演を行った．対象は，教員と大学院生（プレ FD）で，教員 31 名，学生 11 名の参加であった．テーマ，内容等に関してアンケートでは高い評価が得られた．

（2） 1 月 5 日（木），看護学実践研究センターとの共催で「デジタル時代の教育・研究における著作権」をテーマに，大阪工業大学知的財産専門職大学院 髙橋寛教授の講演を行った．講堂とオンラインのハイブリッド形式とした．対象は教員，大学院生，修了生，病院看護師・関係者で，計 61 名（対面 33 名，ZOOM28 名）の参加があった．アンケートでは，満足という意見の他，やや難しかった等の意見がみられた．

12．大学院運営力の強化

大学院委員会，委員会開催前の打ち合わせの他，適時，連絡調整を密に行い情報共有を行いながら運営に努めた結果，院生対応を円滑に進めることができた．

13．新型コロナウイルス感染症への対応

1）大学院基本方針の検討と提示

COVID-19 感染拡大状況に応じて，基本方針を検討，院生，教員に周知を図った．さらに，月 1 回開催される新型コロナウイルス感染症対策会議における大学の基本方針を受け毎月見直しを行い，メール，UNIPA にて院生への周知を図った．

14．その他

1）収容定員比率の適正化

大学評価（認証評価） 改善課題：収容定員比率の超過について，入学試験における適正管理，また計画的な修了生の輩出により，収容定員比率は適正化した．

2）修了証明書交付 の取り扱い

修了証明書の交付について，3月末以降の交付としていたが，学生からの要望に応え，3研究科で検討し学位記授与式日以降の交付に運用を改めた．

3）学位論文審査における通称名等（旧姓）の使用

旧姓での学位論文審査・学位授与の希望があり，学生の研究者としての今後の可能性を考慮し，旧姓を使用することの運用方針を定めた．

4）同窓会

看護学部同窓会の会則が改正され，大学院修了生も同窓会会員の対象となるこ

	ととなった．今後，同窓会と協力し，大学院広報ならびに大学院の教育力向上を検討する．
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）授業評価，修了生アンケート等の結果を教授会で共有し，次年度の教授活動に活用できている． 2）　FD を充実させ，院生を対象にしたプレ FD を併せて実施できた． 3）　博士後期課程の入学要件として，筆頭論文を 1 本にしたことで入学希望者数を維持できた． **2．改善すべき事項** 1）高度実践コースの課題研究と実習とのバランスや負担に対する検討が必要． 2）リポジトリの具体的運用方法の検討． 3）博士前期課程における入学前の準備性を高める必要がある． 4）　博士後期課程の論文構成の見直し 5）　大学設置基準の改正に伴う TA 業務の検討
将来に向けた発展方策・課題	1．博士前期課程（修士）高度実践コース教育課程更新の準備 2．CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立 3．博士後期課程の設置増加による受験者の獲得と，本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり

委員会名	（2）看護学研究科カリキュラム委員会	SDGs との関連	
目的	大学院看護学研究科のカリキュラムに関わる事項の調整を行うことを目的とする.		
構成員	竹村淳子（委員長），荒木孝治，川北敬美，樋上容子，田中佑美（看護学事務課），川端由夏（看護学事務課　オブザーバー）		
活動計画	1. アセスメントポリシーに基づく学修成果の評価 2. 現行カリキュラム運営の評価，見直し 3. 授業内容，授業方法の充実および改善 4. 2024 年度高度実践コース（CNS）更新申請への対応 5. 博士前期課程高度実践コース修了生のキャリア教育の検討 6. 教員としての資質能力の育成に必要な教育に関する事項		
活動概要	**1. アセスメントポリシーに基づく学修成果の評価** アセスメントリストに基づき，2021 年度の評価を行い，11 月の研究科教授会で共有した. **2. 現行カリキュラム運営の評価，見直し** 昨年度の意見聴取に基づき，看護学研究方法論に関する要望を院生に聴取した．その結果，院生同士で学び合う環境があり，教員以外の院生や修了生との繋がりによって学びを得ていたことがわかった．授業時期は現状通りとし，新規科目の設定は，取得単位数の多い高度実践コースの学生には困難と考えられた. **3. 授業内容，授業方法の充実および改善** 授業評価の結果,状況に応じてオンラインの活用がなされていた.遠方居住者,著明な外部講師の講義を受ける機会が増えるとの報告があった. **4. 2024 年度高度実践コース（CNS）更新申請への対応** 慢性看護学・精神看護学・小児看護学分野の更新申請を進めた．科目，担当教員の見直しを行い，担当教員の経歴書作成までの作業が終了している．2023 年 7 月の申請に向けて最終調整を進めていく. **5. 博士前期課程高度実践コース修了生のキャリア教育の検討** 修了後の研究業績の一つとして,本学の看護研究会の活用が確認された.また,大学院委員会が行った修了生に対するニーズ調査では，認定試験に向けて，修了生自身が強く意識せずとも，各分野の教育課程内での指導が，認定試験につながっていることなどがわかった．一方で，指導を受けていないとの回答もあり，今後の専門分野の能力の向上に寄与する具体的な方策を検討していくことが,検討課題と考えられた. **6. 教員としての資質能力の育成に必要な教育に関する事項** 大学院委員会主催で，研究・教育に関する FD，プレ FD が 4 月と 1 月に開催された.		

評価	**1．効果が上がっている事項** 　アセスメントリストに基づく評価を継続することで，院生への意見聴取という一歩踏み込んだ調査につながった．この結果をカリキュラムの評価資料として追加していく． **2．改善すべき事項** 　COVID-19 感染症拡大から始まったオンライン授業等について，適切性や発展性について検討を重ねる必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	1．今後も自己点検・評価を継続し，課題の発見と改善に努める． 2．2023 年度日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程更新申請をつつがなく行う． 　本委員会は，令和 5 年 3 月 31 日をもって大阪医科薬科大学 大学院看護学研究科カリキュラム委員会規程を廃止することとなった．今後は，本委員会が担っていた大学院看護学研究科のカリキュラムに関わる事項の調整を，大学院委員会で行うこととなった．

委員会名	（3）看護研究科カリキュラム評価委員会	SDGs との関連	
目的	カリキュラムの質保証を強化するため，内部評価だけでなく（外部委員や学生委員による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う．		
構成員	久保田正和（委員長），土肥美子，川端由夏，田中佑美（看護学事務課）（以上，学内委員）　外部委員：矢野貴人（医学部教員），泊　祐子（他大学看護系教員），芦田泰弦（企業に所属する専門家），倉橋理香，西ケ峰晴奈（以上，研究科学生）		
活動計画	1．教育目的・目標，各種ポリシーの評価 2．カリキュラムの評価 3．各種ポリシーに沿った評価を実施		
活動概要	1）カリキュラムの過密さについて評価を行った． 2）授業評価アンケート結果について評価を行った． 3）外部講師の講義による科目内での一貫性について評価を行った． 4）新型コロナウイルス感染症の影響について評価を行った．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）今年度はカリキュラムを見直し，一部開講学期を変更したことにより，若干開講学期の偏りが解消されたという声があった．大学院教育の質保証として，事前課題を減らすなどの措置は難しい．事前に教員から大学院はハードスケジュールであり，準備の重要性を伝えている．今年度，課題未提出者はいなかった． 2）コロナ禍も３年目に入り，講義やグループ指導も大きな問題なく行うことができている．適時オンライン授業も取り入れ授業の質を保つ工夫を行う． **2．改善すべき事項** 1）全ての授業が外部講師の場合，一貫性が捉えにくいという意見がある． 2）履修科目が多いために課題に追われ，研究時間の確保が出来ないことの懸念がある．研究テーマの設定や準備性も含めて，学生への指導方法の検討が必要である．		
将来に向けた発展方策・課題	・　一貫性が捉えにくいという点に対して，各講師が自身の専門性をもとに講義されるため，担当教員が講義の前後で学びの繋がりを理解できるようフォローする．そうすることで学びと思考をより深めることができる機会となる ・　社会人を受け入れるという大学院の特性上，授業の過密さは避けられない．入学時，あるいは授業開始時に，教員から学生へ大学院での学び方を丁寧に説明する．入学後早い段階で，学生に対し大学院生としての意識付け，時間の使い方を教授する．		

3)　教育活動

（1）　博士前期課程

①　授業科目一覧

博士前期課程 カリキュラム表

（1）教育研究コース

2022 年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	実践支援看護学領域				療養生活支援看護学領域					
			看護教育学		看護技術開発看護学		移植・再生医療看護学		がん看護学		慢性看護学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2		2	
	看護現任教育論	1後		2		2		2		2		2
	看護理論	1前	2		2		2		2		2	
	看護管理学	1後		2		2		2		2		2
	コンサルテーション論	1後		2		2		2		2		2
	看護政策論	1前		1		1		1		1		1
	フィジカルアセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	臨床薬理学	1後		2		2		2		2		2
	病態生理学	1前		2		2		2		2		2
	看護哲学	1後		2		2		2		2		2
	英語論文講読	1通		1		1		1		1		1
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前	2			2		2		2		2
	看護教育学特論Ⅱ	1後	2			2		2		2		2
	看護教育学演習	1後	2			2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2	2			2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2	2			2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2	2			2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2	2			2		2		2
療養生活支援看護学領域	移植･再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2	2			2		2
	移植･再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2	2			2		2
	移植･再生医療看護学演習	1後～2前		2		2	2			2		2
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2			2
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2			2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2	2			2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2	2	
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2	2	
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2		2
	精神看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2
	老年看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2
	老年期病態治療論	1前		2		2		2		2		2
	老年看護援助論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1通		2		2		2		2		2
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護論	1前		2		2		2		2		2
	母性看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	ウィメンズヘルス看護論	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2
	小児看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	小児と病気	1前		2		2		2		2		2
	発達障害看護論	前(隔･偶数年度)		2		2		2		2		2
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2		2		2
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
	地域看護学特論	1前		2		2		2		2		2
	地域ケアシステム特論	1後		2		2		2		2		2
	地域母子保健論	前(隔･奇数年度)		2		2		2		2		2
	地域看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2
特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8		8	
合計数			20	124	22	122	20	124	20	124	18	126

〈修了要件〉2 年以上在学して所定の単位（32 単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目から 3 科目 6 単位以上（必修科目を含む）を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論Ⅰ」を受講することを推奨する。

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域				地域家族支援看護学領域							
			精神看護学		老年看護学		母性看護学		小児看護学		地域看護学		在宅看護学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2		2		2	
	看護現任教育論	1後		2		2		2		2		2		2
	看護理論	1前	2		2		2		2		2		2	
	看護管理学	1後		2		2		2		2		2		2
	コンサルテーション論	1後		2		2		2		2		2		2
	看護政策論	1前		1		1		1		1		1		1
	フィジカルアセスメント論	1前		2		2		2		2		2		2
	臨床薬理学	1後		2		2		2		2		2		2
	病態生理学	1前		2		2		2		2		2		2
	看護哲学	1後		2		2		2		2		2		2
	英語論文講読	1通		1		1		1		1		1		1
実践支援看護学領域	看護教育学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	看護教育学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	看護教育学演習	1後		2		2		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2		2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2		2
療養生活支援看護学領域	移植･再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	移植･再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	移植･再生医療看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2		2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2		2		2		2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅰ	1前	2			2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	精神看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2		2		2
	精神看護アセスメント論	1前	2			2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2
	精神看護学演習Ⅰ	1後	2			2		2		2		2		2
	精神看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2		2		2		2
	老年看護学特論	1前		2	2			2		2		2		2
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2		2		2		2
	老年期病態治療論	1前		2		2		2		2		2		2
	老年看護援助論	1後		2		2		2		2		2		2
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2		2		2		2
	老年看護学演習Ⅱ	1通		2	2			2		2		2		2
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前		2		2	2		2		2		2	
	周産期看護論	1前		2		2	2			2		2		2
	母性看護学特論	1前		2		2	2			2		2		2
	ウィメンズヘルス看護論	1前		2		2	2			2		2		2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2	2			2		2		2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2	2			2		2		2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2		2		2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2		2
	小児看護学特論	1前		2		2		2	2			2		2
	小児と病気	1後		2		2		2		2		2		2
	発達障害看護論	前(隔･偶数年度)		2		2		2		2		2		2
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2	2			2		2
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2	2			2		2
	地域看護学特論	1前		2		2		2		2	2			2
	地域ケアシステム特論	1後		2		2		2		2	2			2
	地域母子保健論	前(隔･奇数年度)		2		2		2		2		2		2
	地域看護学演習	1後～2前		2		2		2		2	2			2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2	2	
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2	2	
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2	2	
特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8		8		8	
合計数			20	124	18	126	26	118	22	122	22	122	22	122

〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目から3科目6単位以上（必修科目を含む）を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論Ⅰ」を受講することを推奨する。

（2）高度実践コース

2022 年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域												地域家族支援看護学領域								
			がん看護学			慢性看護学			精神看護学			老年看護学			母性看護学			小児看護学			プライマリケア看護学		
			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2			2			2			2			2			2			2		
	看護学研究方法論	1前	2			2			2			2			2			2			2		
	看護現任教育論	1後		2			2			2			2			2			2			2	
	看護理論	1前	2			2			2			2			2			2			2		
	看護教育学特論Ⅰ	1前			2			2			2			2			2			2			2
	看護教育学特論Ⅱ	1後			2			2			2			2			2			2			2
	看護管理学	1後		2			2			2			2			2			2			2	
	コンサルテーション論	1後			2			2			2			2			2			2		2	
	看護政策論	1前			1			1			1			1			1			1	1		
	フィジカルアセスメント論	1前	2			2			2			2			2			2			2		
	臨床薬理学	1後	2			2			2			2			2			2			2		
	病態生理学	1前	2			2			2			2			2			2			2		
	看護哲学	1後			2			2			2			2			2			2			2
	英語論文講読	1通			1			1			1			1			1			1			1
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	1前	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学特論Ⅱ	1後	2					2			2			2			2			2			2
	がん病態治療論	1後	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学援助論Ⅱ	1後	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学演習Ⅰ	1通	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前	2					2			2			2			2			2			2
	がん看護学実習Ⅰ	1後	2																				
	がん看護学実習Ⅱ	1後	2																				
	がん看護学実習Ⅲ	2前	3																				
	がん看護学実習Ⅳ	2前	3																				
	慢性看護学特論Ⅰ	1前			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護アセスメント論	1後			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前			2	2					2			2			2			2			2
	慢性看護学実習Ⅰ	1後				2																	
	慢性看護学実習Ⅱ	2通				4																	
	慢性看護学実習Ⅲ	2通				4																	
	精神看護学特論Ⅰ	1前			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学特論Ⅱ	1後			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学特論Ⅲ	1後			2			2			2			2			2			2			2
	精神看護アセスメント論	1前			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学援助論Ⅰ	1前			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学援助論Ⅱ	1後			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学演習Ⅰ	1後			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学演習Ⅱ	2前			2			2	2					2			2			2			2
	精神看護学実習Ⅰ	1後							2														
	精神看護学実習Ⅱ	2前							6														
	精神看護学実習Ⅲ	2通							2														
	老年看護学特論	1前			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護アセスメント論	1前			2			2			2	2					2			2			2
	老年期病態治療論	1前			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護援助論	1後			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護サポートシステム論	1後			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護学演習Ⅰ	1通			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護学演習Ⅱ	1通			2			2			2	2					2			2			2
	老年看護学実習Ⅰ	1後										4											
	老年看護学実習Ⅱ	2前										4											
	老年看護学実習Ⅲ	2前										2											

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域												地域家族支援看護学領域								
			がん看護学			慢性看護学			精神看護学			老年看護学			母性看護学			小児看護学			プライマリケア看護学		
			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数			単位数		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前			2			2			2			2	2			2					2
	周産期看護論	1前			2			2			2			2	2			2					2
	母性看護学特論	1前			2			2			2			2	2					2			2
	ウィメンズヘルス看護論	1前			2			2			2			2	2					2			2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前			2			2			2			2	2					2			2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後			2			2			2			2	2					2			2
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前			2			2			2			2	2					2			2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前			2			2			2			2	2					2			2
	周産期看護実習Ⅰ	1後													2								
	周産期看護実習Ⅱ	2前													4								
	周産期看護実習Ⅲ	2通													4								
	小児看護学特論	1前			2			2			2			2			2	2					2
	小児と病気	1前			2			2			2			2			2	2					2
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)			2			2			2			2			2	2					2
	小児看護アセスメント論	1後			2			2			2			2			2	2					2
	小児看護学演習	1後～2前			2			2			2			2			2	2					2
	小児看護学実習Ⅰ	1後～2前																2					
	小児看護学実習Ⅱ	1後～2前																6					
	小児看護学実習Ⅲ	2通																2					
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)			2			2			2			2			2	2					2
	ヘルスプロモーション論	1前			2			2			2			2			2			2	2		
	医療の質保証と安全管理	1通			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅰ	1前			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅱ	1前			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅲ	1後			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅳ(小児)	1通			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅴ(成人)	1前			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅵ(老年)	1後			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学特論Ⅶ(メンタルヘルス)	1通			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学演習Ⅰ	1前			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学演習Ⅱ	1後			2			2			2			2			2			2	2		
	プライマリケア看護学実習Ⅰ	1後																			2		
	プライマリケア看護学実習Ⅱ	1後																			2		
	プライマリケア看護学実習Ⅲ	2前																			4		
	プライマリケア看護学実習Ⅳ	2前																			2		
特別研究	課題研究	1後～2後	4			4			4			4			4			4			4		
合計			40	4	104	40	4	104	40	4	104	40	4	104	42	4	102	42	4	102	49	6	93

■がん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学専攻
〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（42単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。
専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

■プライマリケア看護学専攻
〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（50単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。
専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	コース 専門分野	学位論文タイトル
五十川　響	教育研究 看護教育学	看護系大学教員の教員特性と臨地教授活動の質の実態 －成人看護学領域の教員に焦点をあてて－
山本　里香	教育研究 がん看護学	専門的緩和ケアに携わる看護師による終末期がん患者のスピリチュアルペインに対する看護実践
篠原　佐和	高度実践 慢性看護学	塩分・水分の管理を必要とする外来通院中の高齢心不全患者を支える高齢家族の関わり
関川　加奈子	高度実践 老年看護学	軽度から中等度アルツハイマー型認知症高齢者の自己決定に関する思い
澤本　さおり	高度実践 小児看護学	関節型若年性特発性関節炎の学童に在宅注射を行う親が導入初期に抱える困難と対処
中島　真希	高度実践 小児看護学	乳児期に気管切開術を受け思春期を迎えた子どもが通常学級で経験する困難とその対処
元谷　かおり	教育研究 在宅看護学	近畿圏内における精神科訪問看護師の倫理的行動の実態と組織文化との関連
守屋　有紀子	高度実践 プライマリケア看護学	筋萎縮性側索硬化症療養者を在宅介護する高齢配偶者が老いとともに体験する困難と対処

（学位記番号順）

(2)　博士後期課程

① 授業科目一覧

博士後期課程 カリキュラム表

区分		授業科目	配当年次	実践支援看護学領域 単位数			療養生活支援看護学領域 単位数			地域家族支援看護学領域 単位数		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
基盤科目		看護科学研究論	1前	2			2			2		
		看護学研究法応用論（保健統計）	1後		1			1			1	
		看護学研究法応用論（実験法）	1後		1			1			1	
		看護学教育開発論	1前		2			2			2	
		英語論文演習	1前		1			1			1	
		異文化看護論	前（隔・偶数年度）		1			1			1	
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論	1後	2					2			2
		実践支援看護学演習	2通	1					1			1
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	1後			2	2					2
		療養生活支援看護学演習	2通			1	1					1
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	1後			2			2	2		
		地域家族支援看護学演習	2通			1			1	1		
特別研究		特別研究	1～3通	8			8			8		
合計				13	6	6	13	6	6	13	6	6

〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位（14単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目1単位以上を履修する。

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	領域	学位論文タイトル
天野　功士	療養生活支援看護学	前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状に対する自己管理尺度の開発
井関　千裕	療養生活支援看護学	転移性乳がんと診断された成人女性の心理的適応を促進する看護介入プログラムの開発
寺尾　奈歩子	療養生活支援看護学	がん化学療法を受ける 2 型糖尿病患者の血糖と副作用の自己管理促進プログラムの開発
梶川　拓馬	療養生活支援看護学	患者の語りから得られた統合失調症患者が地域で生活を続けるために抗精神病薬を服薬する在り方に関する研究

Ⅳ.　研究活動

1. 研究実績

1） 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2022 年度　看護学部の競争的研究資金等の採択状況

研究活動			新規採択件数	継続件数	合計金額（円）
科学研究費助成事業	基盤研究（B）	代表	0	2	5,700,000
		分担	2	1	250,000
	基盤研究（C）	代表	3	12	10,120,000
		分担	5	10	1,220,000
	挑戦的研究（萌芽・開拓）	代表	0	0	0
		分担	0	1	300,000
	若手研究（B）・若手研究	代表	0	2	800,000
	研究活動スタート支援	代表	3	0	3,300,000
厚生労働科学研究費補助金		代表	0	0	0
		分担	0	0	0
省庁・独立行政法人等の競争的資金（科研費を除く）		代表	0	0	0
		分担	0	0	0
財団等による研究助成			2	0	699,000
企業等による共同研究，研究助成			0	0	0
総　合　計					22,389,000

2022 年度科学研究費助成事業交付一覧

（研究代表者）　※2022 年度交付決定額

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額（円）
基盤研究（B）	鈴木　久美	青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	2,800,000
基盤研究（B）	飛田　伊都子	IoT 機器を活用した在宅腎臓リハビリテーションの遠隔支援システムの構築	2,900,000
基盤研究（C）	真継　和子	死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	600,000
基盤研究（C）	池西　悦子	看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	700,000
基盤研究（C）	川北　敬美	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	700,000
基盤研究（C）	竹村　淳子	学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	800,000
基盤研究（C）	草野　恵美子	地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	500,000

基盤研究（C）	久保田　正和	認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	300,000
基盤研究（C）	安田　稔人	スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	700,000
基盤研究（C）	杣木　佐知子	新任看護師の臨床看護経験値（強み）を視覚化した人材育成ツールの開発	1,400,000
基盤研究（C）	佐々木　綾子	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web.夫立ち合い分娩の開発	400,000
基盤研究（C）	鈴木　美佐	食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築	120,000
基盤研究（C）	二宮　早苗	横断・縦断調査による成人女性の下部尿路症状（LUTS）の実態とリスク因子の解明	1,800,000
基盤研究（C）	倉橋　理香	幼児期の子どもが緊急入院した際の家族を支援するためのアセスメントツールの開発	600,000
基盤研究（C）	土肥　美子	看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力形成・向上支援プログラムの開発	400,000
基盤研究（C）	瓜崎　貴雄	救急医療に携わる看護師向けの自殺未遂患者に対する看護教育プログラムの開発と評価	300,000
基盤研究（C）	山埜　ふみ恵	退職移行期高齢男性の能力を地域に活かす地域職域・連携役割移行支援プログラムの開発	800,000
若手研究	近澤　幸	乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	300,000
若手研究	樋上　容子	認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	500,000
研究活動スタート支援	笹野　奈菜	非医療系学生向けプレコンセプションケアに基づく避妊の動画視聴型性教育アプリ開発	1,100,000
研究活動スタート支援	間中　麻衣子	妊婦のメンタルヘルス向上を目指したオンラインアプリケーションの開発	1,100,000
研究活動スタート支援	堀池　諒	地理情報システム（GIS）と 3D 都市モデルを用いた COVID-19 流行リスクマップの開発	1,100,000

（研究分担者）

研究種目	氏　　名	研　究　課　題　名	交付額（円）
基盤研究（B）	土肥　美子	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	100,000
基盤研究（B）	佐野　かおり	患者中心のケアと共有意思決定を具現化する患者教育プログラムの開発と効果検証	50,000
基盤研究（B）	樋上　容子	軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用したハイブリッド型看護外来の構築	100,000
基盤研究（C）	竹村　淳子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	30,000
基盤研究（C）	鈴木　美佐	PCP プログラム開発：子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム	30,000
基盤研究（C）	草野　恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	50,000
基盤研究（C）	竹　明美	高齢患者の術後せん妄予防・緩和のためのハンドマッサージ法による全人的アプローチ	100,000
基盤研究（C）	鈴木　久美	通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの有効性の検証	300,000
基盤研究（C）	竹村　淳子	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	100,000
基盤研究（C）	竹村　淳子	成人期以降の在宅重症心身障がい者を介護する家族の望む看取りを促す看護実践プロセス	30,000
基盤研究（C）	二宮　早苗	画像工学技術を用いて骨盤内を可視化した骨盤底筋訓練用動画の開発と効果検証	30,000
基盤研究（C）	鈴木　久美	治療を受ける若年成人がん患者の心理的適応を促進する看護ケアプログラムの開発	50,000
基盤研究（C）	林　優子	重症救急患者の家族成員におけるレジリエンスを支える看護援助モデルの作成	50,000
基盤研究（C）	久保田　正和	女性の生涯発達に関連した脳機能基盤の解明	50,000
基盤研究（C）	竹村　淳子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	100,000
基盤研究（C）	真継　和子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	100,000
基盤研究（C）	鈴木　美佐	妊娠期からの円滑な家事・育児シェアサポートプログラム開発	150,000

基盤研究（C）	草野　恵美子	乳幼児をもつがんサバイバーである母親のコミュニティ・エンパワメントモデルの開発	50,000
挑戦的研究（開拓）	鈴木　久美	がん薬物療法を受ける患者の包括的がん悪液質アセスメントツールの開発と実装	300,000

2022 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	交付額（円）
該当なし			

2022 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	交付額（円）
日本医療研究開発機構研究費（分担）	樋上　容子	PLR と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究デザインのフローの可視化	3,000,000

2022 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額（円）
2022 年度　若手研究者研究助成	笹野　奈菜	非医療系学生に向けたプレコンセプションケアに基づく避妊の性教育デジタルコンテンツの開発	499,000
2023 年度日本禁煙学会調査研究事業助成	堀池　諒	屋外開放型喫煙所の周囲における受動喫煙曝露人数の定量化～Wi-Fi パケットセンサーと GIS を用いて～	200,000

2022 年度企業等による共同研究費，受託研究費一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費　（円）
該当なし			

2)　各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

池西悦子	田村由美・池西悦子：看護のためのリフレクションワークブック，47-61，看護の科学新社，東京.
小林道太郎	小林道太郎（2022）．コラム 2 「終末期医療・ケア」関連図書案内，加藤泰史・後藤玲子編，尊厳と生存，284-303，法政大学出版局，東京.
佐々木綾子	永真由美，常盤洋子，井村真澄，佐々木綾子（11 人中 4 番目）（2022）．助産師基礎教育新テキスト 第 6 巻，第 5 章親子の絆とアタッチメントの形成，江藤宏美（編），100-120，日本看護協会出版会，東京. 定方美恵子，関島香代子，井村真澄，佐々木綾子（15 人中 6 番目）（2023）．ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術，荒木奈緒他（編），2 章 1～4，6～11，　13～17 節，メディカ出版，大阪. 村上明美，斎藤いずみ，葉久真理，佐々木綾子他（17 人中 9 番目）（2022），母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護　（新体系看護学全書—母性看護学 1），渡邊浩子他（編），第 2 編女性看護学　第 1 章女性看護学とは，メヂカルフレンド社，東京.
鈴木久美	鈴木久美（2023）．第Ⅰ章 慢性期看護とは，鈴木久美，籏持知恵子，佐藤直美（編），看護学テキスト NiCE　成人看護学 慢性期看護 改訂第 4 版，1-47，南江堂，東京. 鈴木久美（2023）．第Ⅱ章 慢性疾患を有する人とその家族の理解，鈴木久美，籏持知恵子，佐藤直美（編），看護学テキスト NiCE　成人看護学 慢性期看護 改訂第 4 版，56-63，64-66，68-70，南江堂，東京. 鈴木久美（2022）．第Ⅲ章慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本，鈴木久美，籏持知恵子，佐藤直美（編），看護学テキスト NiCE　成人看護学 慢性期看護 改訂第 4 版，88-89，92-95，102-110，南江堂，東京.
竹村淳子	泊祐子，大西文子，竹村淳子（6 人中 3 番目）（2022）．小児看護学実習指導ガイドライン　考える学生を育てるコツ，泊祐子編集，第 4 部 2 学習課題状況ごとの指導事例 83-86，91-95，第 5 部教育評価 128-133，文芸社.
飛田伊都子	飛田伊都子（2022）．運動・フレイル：フレイル予防は移植後の腎機能に影響を及ぼすか，CKD 委員会腎移植ケアガイドワーキンググループ編集，一般社団法人日本腎不全看護学会監修，腎移植ケアガイド，pp.82-87，医学書院，東京.
大橋尚弘	大橋尚弘（分担執筆）．運動指導は移植後糖尿病（PTDM）予防に効果的か，腎移植ケアガイド，88-91，医学書院，東京.
鈴木美佐	伊織光恵，池田友美，亀田直子，鈴木美佐（14 人中 6 番目）（2023）．小児看護に特有な技術 日常生活援助に必要なケア技術 食事，守口絵里，茎津智子編，NURSING TEXTBOOK SERIES 小児看護学 II 子どもへのケア技術と看護過程，pp1－10，医歯薬出版社，東京.

鈴木美佐	伊織光恵，池田友美，亀田直子，鈴木美佐（14 人中 7 番目）（2023）．小児看護における看護過程と代表的な事例　代表的な疾患の事例展開　事例 8　消化器感染症のためはじめて入院となった 10 カ月の子ども，守口絵里，茎津智子編，NURSING TEXTBOOK SERIES 小児看護学 II 子どもへのケア技術と看護過程，pp157 - 163，医歯薬出版社，東京．
二宮早苗	齋藤いずみ，長谷川ともみ，三隅順子，二宮早苗（16 人中 16 番目）（2022）．NiCE 母性看護学 I　概論・ライフサイクル　改訂第 3 版，第Ⅷ章女性のライフサイクルと健康支援，Ⅷ-5-C 老年期の女性の健康問題，3 骨盤臓器脱・排尿障害（下部尿路症状）271-274,，南江堂，東京．
佐野かおり	山本恵子，原三紀子，高村祐子，佐野かおり（22 人中 8 番目））（2023）．障害を持つ人の心理的問題，療養生活を支える家族への援助，原三紀子，系統看護学講座-別巻リハビリテーション看護第 7 版，91-99，医学書院，東京
竹　明美	竹明美（2022）．2 章 5 節　産婦のニーズへのケア，12 節　分娩直後の母体の観察，4 章 1 節 3 項　臍帯血液ガス分析，ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術，荒木奈緒他（編），77-82，103-105，177-179，メディカ出版，大阪．
近澤　幸	定方美恵子，関島香代子，井村真澄，近澤幸（15 人中 9 番目）（2022）．2 章 17 節帝王切開時のケア，荒木奈緒他編，ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術，119-125，メディカ出版，大阪． 池西静江，田中公章，佐々木綾子，近澤幸（34 人中 7 番目）（2022）．母性看護学 5 問，メディカコンクール委員会編，2024 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト，メディカ出版，大阪． 池西静江，大上真吾，田中公章，近澤幸（53 人中 8 番目）（2022）．母性看護学 5 問，メディカコンクール委員会編，メディカコンクール　第 112 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカ出版，大阪． 池西静江，西上あゆみ，田中公章，近澤幸（51 人中 7 番目）（2022）．母性看護学 6 問，メディカコンクール委員会編，メディカコンクール　第 112 回看護師国家試験対策テスト第 2 回，メディカ出版，大阪．
倉橋理香	泊祐子，大西文子，竹村淳子，倉橋理香（6 人中 6 番目）（2023）．小児看護学実習指導ガイドライン考える学生を育てるコツ，泊祐子，小児看護教育方略研究会，文芸社，東京
間中麻衣子	間中麻衣子（分担執筆）（2022）．症状・観察項目・看護ケアを見わたす病気の見取図，感染症（麻疹，風疹，ノロウイルス感染症，インフルエンザ）女性生殖器・乳腺（月経困難症，子宮内膜症，子宮筋腫，子宮頸がん，子宮体がん，卵巣腫瘍），256-263，266-279．株式会社照林社，東京

研究活動/【論文】

赤澤千春	生田宴里，赤澤千春（2023）．救急看護師の惨事ストレスに関する文献検討，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，第 13 巻，34-41. Higo, M., Akazawa, C.（2022）. The Emotional Expression Response of a Patient Based on their Facial Expression, Health, 14（11）, 1-18. Sato, T., Tanaka, S., Akazawa, C., et al. （2022）. Provider-Documented Dyspnea in Intensive Care Unit After Lung Transplantation, Transplantation Proceedings, 54（8）, 2337-2343. 角山香織，駒澤伸泰，佐々木綾子，赤澤千春（6 人中 4 番目）（2022）．大学間の物理的課題を乗り越える多職種連携教育の授業方法の評価，大阪医科薬科大学薬学部雑誌，1，109-118.
荒木孝治	Kajikawa, T., Araki, T.（2022）. A qualitative study on what it means for patients with schizophrenia living in the community to remain on medication, Health, 15（1）　（in press）
池西悦子	津田泰宏，瀧井道明，土井智生，池西悦子（7 人中 6 番目）（2023）．OSCE 形式を利用したフィジカルイクザミネーション実技試験の実践報告，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，90-95.
草野恵美子	山埜ふみ恵，草野恵美子，上野昌江（2022）．住民主体の介護予防活動のリーダーが捉える参加者同士のソーシャルサポート授受を促すきっかけと工夫，日本地域看護学会誌，25（3），37-45. 岸恵美子，岩本里織，吾郷美奈恵，草野恵美子（9 人中 5 番目）（2022）．日本公衆衛生看護学会認定専門家認証制度始まる　あなたも公衆衛生看護の認定専門家になろう！日本公衆衛生看護学会認定専門家認証制度委員会，保健師ジャーナル，78（6），498-501.
小林道太郎	小林道太郎，坂井志織（2022）．長期にわたって強迫性障害をもつ人の「自分」と病気の捉え方：一インタビューからの現象学的質的研究，医学哲学 医学倫理，39，54-64. 小林道太郎（2022）．看護における個別的配慮をめぐるジレンマ，社会保障研究，7（2），136-147. 三ツ田枝利香，真継和子，小林道太郎（2022）．独居末期がん高齢者の「最期まで自分らしい」療養生活支援において中堅訪問看護師が行きづまりを感じた事例の検討，ヒューマンケア研究学会誌，13（1），21-27. 長谷川幹子，小林道太郎（2022）．ナースコールが頻回な ALS 患者に関わる看護師の経験：解釈学的現象学的記述，日本看護科学学会誌，42，614-622.
佐々木綾子	佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，他（2023）．日本の新型コロナウイルス感染症流行下における分娩への影響に関する文献研究，大阪医科薬科大学研究雑誌，13，65-77. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，他（2023）．新型コロナウイルス感染症流行下

佐々木綾子	における保護者や保育者のマスク着用による乳幼児への影響と対応に関する文献研究，大阪医科薬科大学研究雑誌，13，53-64. Chikazawa, S., Sasaki, A.（2023）. Examination of the appropriateness of teaching materials for preventing dangers during ablution and bathing of infants by mothers and family members, Health, 186-214. Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., Sasaki, A.（4 人中 4 番目）（2023）. Review of the Depression Rate among Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic , Health, 15（1）, 33-47. Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., Sasaki, A.（4 人中 4 番目）（2023）: Review of Factors Associated with Depression among Pregnant Women During the COVID-19 Pandemic, Health, 15（2）, 161-176. 笹野奈菜，佐々木綾子（2023）．非医療系大学生の避妊行動・意識・知識および避妊教育ニーズの実態に関する調査研究，日本ウーマンズヘルス学会誌，21（2），11-20. 波崎由美子，佐々木綾子（2022）．若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践，態度と課題，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），74-84. 佐々木綾子，竹明美，近澤幸，他（2022）．音声入力による分娩経過記録システムの開発と評価に関する予備的研究, 大阪医科薬科大学医学会雑誌, 81（1・2 合冊），97-104. 近澤幸，竹明美，佐々木綾子，他（2022）．本学の母性看護学実習とクリニカル・クラークシップ（産婦人科学）における多職種連携教育の現状と課題，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），105-114. 渡邊友美子，佐々木綾子（2022）．親からの乳児期における児童虐待に対する一次予防の支援介入に関する文献検討，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（3）135-144. 東尾公子，佐々木綾子（2022）．父親のメンタルヘルス維持をめざし看護者が出産前後教育において活用する父親役割を促すための教育支援ガイド作成と適切性検証，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（3），135-145.
鈴木久美	Iseki, C., Suzuki, K.（2023）. Quality of Life and Related Factors in Patients with Metastatic Breast Cancer Undergoing Cancer pharmacotherapy: Systematic Review and Meta-analysis, Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University.（in press） Suzuki, K., Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., et al.（2022）. Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their

鈴木久美	Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, 12（1）, 9-33. Amano, K., Suzuki, K.（2022）. Self-management of lower urinary tract symptoms in post-prostatectomy cancer patients: Content analysis, British Association of Urological Nurses, 16, 234-244. 鈴木久美，南口陽子，泊祐子，他（2023）．Family-based approach を用いたがんおよび生活習慣病の予防教育の内容と成果：文献レビュー，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，3-14. 飯田真実子，鈴木久美（2023）．婦人科がん患者の治療による性・生殖機能障害に関わる困難と対処：文献レビュー，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，25-33. 山本桂子，鈴木久美（2023）．血液がんと診断され化学療法を受けている患者の病気の認識と体験した困難：文献レビュー．大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，116-125. 津田泰宏，瀧井道明，土井智生，鈴木久美（7 人中 7 番目）（2023）．OSCE 形式を利用したフィジカルイグザミネーション実技試験の実践報告，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，90-95. 山中政子，鈴木久美，山本桂子，他（2022）．通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの臨床的有用性の評価，日本看護科学学会誌，42，150-159. 山中政子，鈴木久美（2022）．がん疼痛のある外来看護に対するオピオイド鎮痛薬の服薬指導および看護ケアの実態調査—がん診療連携拠点病院と一般病院の比較—，日本看護研究学会誌，45（2），339-348.
竹村淳子	山崎歩，金山俊介，竹村淳子，他（2023）．看護学臨地実習におけるペア受け持ち実習の効果と課題に関する文献研究，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，105-115. 玉川あゆみ，竹村淳子（2023）．自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，78-89.
津田泰宏	津田泰宏，瀧井道明，土井智生，他（2023）．OSCE 形式を利用したフィジカルイグザミネーション実技試験の実践報告，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，90-95. 鈴木久美，南口陽子，泊祐子，津田泰宏（10 人中 8 番目）（2023）．Family-based approach を用いたがんおよび生活習慣病の予防教育の内容と成果：文献レビュー，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，3-14. Sato, T., Tanaka, S., Akazawa, C., Tsuda, Y.（10 人中 4 番目）（2022）. Provider-Documented Dyspnea in Intensive Care Unit After Lung Transplantation, Transplant Proc. 54, 2337-2343.

津田泰宏	杉島涼香，大濱日出子，西川浩樹，津田泰宏（13 人中 12 番目）（2022）．肝細胞癌との鑑別診断に苦慮した肝内脾症の一例，肝臓，63，456-462. 大濱日出子，西川浩樹，後昴佑，津田泰宏（13 人中 12 番目）（2022）．臨床上肝原発と考えられた germinal center B-cell-like type のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の一例，肝臓，63，381-387.
飛田伊都子	Sugama, J., Ishibasi, M., Ota, E., Tobita, I. （32 人中 23 人目）（2022）. Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. Japan Journal of Nursing Science, 19（4）：e12496. 飛田伊都子（2022）．慢性腎臓病（CKD）患者の well-being 実現に向けて．看護師の立場から：ケアのエビデンスを探る，日本腎臓リハビリテーション学会誌，1（2），216-228. 忽那俊樹，小坂志保，渡部祥輝，飛田伊都子（10 人中 9 人目）（2022）．腎臓リハビリテーションの実践に必須な知識・技能のミニマムスタンダード：修正 Delphi 法による合意形成，日本腎臓リハビリテーション学会誌，2（1），118-138. 須釜淳子，石橋みゆき，大田えりか，飛田伊都子（32 人中 23 人目）（2022）．摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン，日本看護科学会誌，42，790-810.
真継和子	三原綾，真継和子（2022）．人生の終焉を生きる場の選択におけるがん高齢患者と家族の合意に向けた看護実践の構造，ヒューマンケア研究学会会誌，13（1），9-20. 三ツ田枝利里，真継和子，小林道太郎（2022）．独居末期がん高齢者の「最期まで自分らしい」療養生活支援において中堅看護師が行きづまりを感じた事例の検討，ヒューマンケア研究学会会誌，13（1），21-28.
安田稔人	Nakamura, G., Yasuda, T., Shima, H., et al. （2023）. Morphology of the asymptomatic Achilles tendon: Measurement of tendon length and shape using magnetic resonance imaging, and investigation of related factors. J Orthp. Sci. 28（1）:204-211. Togei, K., Shima, H., Tsujinaka S., Yasuda, T.（6 人中 5 番目）（2022）. Joint preserving procedures for painful plantar callosities in patients with flexible cavovarus foot. Foot Ankle Surg. 28（7）：1094-1099.
瓜﨑貴雄	Urizaki, T.（2022）. Factors influencing emergency department nurses' attitudes toward patients who attempted suicide: A mixed methods study, Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services, 61（5）, 25-33.
カルデナス暁東	カルデナス暁東，森脇真一（2022）．メイクセラピー実施前後における患者の精神状態の変化からみた「メイクセラピー看護外来」のアピアランスケアの効果，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（3），25－40.

川北敬美	Kawakita, T., Hosoda, Y.（2023）. Assessing the Content Validity of the Work-Family Enrichment Scale for Parent Nurses, The Japanese Association of Medical and Nursing Education, 31（3）, 48-56. 川北敬美，細田泰子（2022）．子育て期にある女性看護師におけるワーク・ファミリー・エンリッチメントの資源の検討，日本看護科学会誌，42，196-203. 二宮早苗，川北敬美，土肥美子，他（2022）．同時双方向型オンライン授業による採血の基礎看護技術演習の試みと今後の課題，日本シミュレーション医療教育学会雑誌，10，64-69.
鈴木美佐	流郷千幸，平田美紀，鈴木美佐，他（2022）．幼児のプレパレーションに対する医療者の認識，聖泉看護学研究，11，pp43 - 52.
土肥美子	土肥美子，細田泰子，長野弥生，他（2023）．教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，15 -24. 土肥美子，細田泰子（2023）．看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力の関連要因，日本医学看護学教育学会，31（4），39-48. 土肥美子（2022）．看護系大学に所属する若手教員の能力開発，看護教育，63（5），618 - 621. 細田泰子，勝山愛，金山悠，土肥美子（7 名中 7 番目）（2023）．教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性 - 想定用具の信頼性・妥当性の検討 - ，日本医学看護学教育学会，31（3），21-30. 二宮早苗，川北敬美，土肥美子，他（2022）．同時双方向型オンライン授業による採血の基礎看護技術演習の試みと今後の課題，日本シミュレーション医療教育学会誌，10，64-69.
二宮早苗	二宮早苗，川北敬美，土肥美子，他（2022）．同時双方向型オンライン授業による採血の基礎看護技術演習の試みと今後の課題，日本シミュレーション医療教育学会誌，10 巻，64-69.
樋上容子	樋上容子，竹屋泰，竹村幸宏，他（2022）．在宅療養する高齢認知症患者の睡眠障害の実態と介護者による障害への気づきに関する要因．日本老年医学会雑誌，59（2）：200-208 Fukuda, C., Higami, Y., Shigenobu, K., et al.（2022）. Using a Non-Wearable Actigraphy in Nursing Care for Dementia with Lewy Bodies. American Journal of Alzheimers Disease & Other Dementias 37（15333175221082747）
竹　明美	佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，竹明美（5 人中 5 番目）（2023）．日本の新型コロナウイルス感染症流行下における分娩への影響に関する文献研究,大阪医科薬科大学研究雑誌，13，65-77. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，竹明美（5 人中 5 番目）（2023）．新型コロナウイルス感染症流行下における保護者や保育者のマスク着用による乳幼児への影響と対応に関する文献研究,大阪医科薬科大学研究雑誌,13,53-64.

竹　明美	佐々木綾子，竹明美，近澤幸，他（2022）．音声入力による分娩経過記録システムの開発と評価に関する予備的研究，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），97-104. 近澤幸，竹明美，佐々木綾子，他（2022）．本学の母性看護学実習とクリニカル・クラークシップ（産婦人科学）における多職種連携教育の現状と課題，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），105-114.
近澤　幸	Chikazawa, S., Sasaki, A. （2023）. Examination of the appropriateness of teaching materials for preventing dangers during ablution and bathing of infants by mothers and family members, Health, 15（2）, 186-214. Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., et al. （2023）. Review of Factors Associated with Depression among Pregnant Women During the COVID-19 Pandemic, Health, 15（2）, 161-176. Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., et al. （2023）. Review of the Depression Rate among Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic, Health, 15（1）, 33-47. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜他（2023）．日本の新型コロナウイルス感染症流行下における分娩への影響に関する文献研究，大阪医科薬科大学研究雑誌，13，65-77. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，他（2023）．新型コロナウイルス感染症流行下における保護者や保育者のマスク着用による乳幼児への影響と対応に関する文献研究，大阪医科薬科大学研究雑誌，13，53-64. 近澤幸，竹明美，佐々木綾子，他（2022）．本学の母性看護学実習とクリニカル・クラークシップ（産婦人科学）における多職種連携教育の現状と課題，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），105-14. 佐々木綾子，竹明美，近澤幸，他（2022）．音声入力による分娩経過記録システムの開発と評価に関する予備的研究，大阪医科薬科大学医学会雑誌，81（1・2 合冊），97-104.
山埜ふみ恵	山埜ふみ恵，草野恵美子，上野昌江（2022）．住民主体の介護予防活動のリーダーが捉える参加者同士のソーシャルサポート授受を促すきっかけと工夫，日本地域看護学会誌，25（3），37-45.
赤崎芙美	二宮早苗，川北敬美，土肥美子，赤崎芙美　（5 人中 4 番目）（2022）．同時双方向型オンライン授業による採血の基礎看護技術演習の試みと今後の課題，日本シミュレーション医療教育学会誌，10，64-69.
勝山あづさ	土井智生，山本暁生，杣木佐知子，勝山あづさ（5 人中 4 番目）（2023）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ，大阪医科薬科大学研究雑誌，13，96-104.

倉橋理香	土井智生，山本暁生，杣木佐知子，倉橋理香（5 人中 5 番目）（2023）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，96-104. 山﨑歩，金山俊介，竹村淳子，倉橋理香（4 人中 4 番目）（2023）．看護学臨地実習におけるペア受け持ち実習の効果と課題に関する文献研究，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，105-115.
笹野奈菜	笹野奈菜，佐々木綾子（2022）．非医療系大学生の避妊行動・意識・知識および避妊教育ニーズの実態に関する調査研究．日本ウーマンズヘルス学会誌，（2）. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，他（2022）．新型コロナウイルス感染症流行下における分娩への影響に関する文献研究．大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，65-77. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜他（2022）．新型コロナウイルス感染症流行下における保護者や保育者のマスク着用による乳幼児への影響と対応に関する文献研究．大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，53-64. Maiko, M., Nana, S., Sachi, C., et al. （2023）. Review of Factors Associated with Depression among Pregnant Women During theCOVID-19 Pandemic, Health, 15（2）, 161-176. Maiko, M, Nana, S., Sachi, C., et al. （2023）. Review of the Depression Rate among Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic, Health, 15（1）, 33-47.
杣木佐知子	Somaki, S., Majima, Y., Masuda, S.（2022）Education Support System for Newcomer Nurses at Visiting Nursing Stations，Journal of Kagawa University International Office 14，218-219. Somaki, S., Majima, Y., Masuda, S.（2022）. Development of Human Resource Promotional Tool to Visualize Skills Acquired by Newcomer Nurses at Home-Visit Nursing Stations in Japan，IIAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research Vol.001，LIIR029，1-8. 土井智生，山本暁生，杣木佐知子（2022）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ，大阪医科薬科大学看護学研究雑誌 Vol13，96-104. Kakeda, T., Shimazoe, R., Somaki, S.（2023）. Transient Decrease in Quality of Sleep after Minimally Invasive Surgery: A Case Study. International Journal of Affective Engineering，22（1）, 17-23.
土井智生	土井智生，山本暁生，杣木佐知子，他（2023）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，96-104. Suzuki, K., Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., Doi T.（11 名中 9 番目）（2022）.

土井智生	Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, 12（1）, 9-33. 鈴木久美，南口陽子，泊祐子，土井智生（10 人中 10 番目）（2023）．Family-based approach を用いたがんおよび生活習慣病の予防教育の内容と成果：文献レビュー，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，3-14. 津田泰宏，瀧井道明，土井智生，他（2023）．OSCE 形式を利用したフィジカルイグザミネーション実技試験の実践報告，大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，90-95.
堀池　諒	Nakai, H., Itatani, T., Horiike, R.（2022）. Application Software That Can Prepare for Disasters Based on Patient-Participatory Evidence: K-DiPS: A Verification Report, Int. J. Environ. Res. Public Health, 19（15）, 9694. Nakai, H., Horiike, R., Itatani, T., et al.（2022）. Childcare Center Evacuation to Vertical Shelters in a Nankai Trough Tsunami: Models to Predict and Mitigate Risk, Challenges, 13（2）, 48
間中麻衣子	Manaka M., Sasano N., Chikazawa, S., et al.（2023）. Review of Factors Associated with Depression among Pregnant Women During the COVID-19 Pandemic, Health, 15(2）, 161-176. Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., et al.（2023）. Review of the Depression Rate among Pregnant Women during the COVID-19 Pandemic, Health, 15(1), 33-47. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，間中麻衣子(5 人中 4 番目)(2023)．新型コロナウイルス感染症流行下における保護者や保育者のマスク着用による乳幼児への影響と対応に関する文献研究．大阪医科薬科大学研究雑誌，13，53-64. 佐々木綾子，近澤幸，笹野奈菜，間中麻衣子(5 人中 4 番目)(2023)．日本の新型コロナウイルス感染症流行下における分娩への影響に関する文献研究．大阪医科薬科大学研究雑誌，13，65-64. 小林恭子，間中麻衣子，大石美香，他（2022）．新型コロナウイルス感染症専門病院で勤務する新人看護職員の体験と職務継続に至った要因．日本看護学会誌，17（1），5-10. 間中麻衣子，　赤塚七重，　宮脇圭子，他（2022）．新型コロナウイルス感染症流行下における妊婦のメンタルヘルスの実態調査と望まれる支援．日本周産期メンタルヘルス学会会誌，8（1），71-76. 間中麻衣子，川崎志帆，谷尾敬，他（2022）．COVID-19 陽性妊婦の不安および抑うつの実態．日本周産期メンタルヘルス学会会誌，8（1），63-69. 間中麻衣子，町浦美智子，本間裕子（2022）．産後うつ発症リスクのある妊婦に対する産後 1 ヵ月までのストレス・コーピングに着目した看護介入の効果．母性衛生，62（4），803-810.

研究活動/【学会発表】

赤澤千春	寺口佐與子，赤澤千春，塗隆志，他（2022）．婦人科悪性腫瘍術後患者の体組成変化とリンパ浮腫予防のセルフケア，第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会，（東京） 東真理，赤澤千春（2022）．用手微振動における筋硬度と皮膚血流量への影響：日本看護研究学会第 48 回学術集会，36，（松山・ハイブリッド） 西薗貞子，江川隆子，箕浦洋子，赤澤千春（4 人中 4 番目）（2022）．看護学実習で獲得する看護実践能力と教育設計の検討～実践前後の PROG の縦断的調査による獲得能力の分析から～，日本看護研究学会第 48 回学術集会，22，（松山・ハイブリッド） 井村弥生，赤澤千春（2022）．予約における看護師のリスクテイキング行動の自己評価質問紙の開発，第 42 回日本看護科学学会学術集会，211，（広島，ハイブリッド）
池西悦子	空間美智子，飛田伊都子，池西悦子，他（2022）．看護師のリフレクション学習における言語行動の分析：非言語コミュニケーションの機能分析の試み：日本行動分析学会第 40 回年次大会，（小倉・ハイブリッド） 飛田伊都子，池西悦子，空間美智子，他（2022）．看護リフレクション場面におけるファシリテーターと学習者の相互作用の行動分析：日本看護研究学会第 48 回学術集会，164，（松山）． Matsukami, M., Ikenishi, E., Doi, Y. （2022）. Association between individual and organizational attributes of assistant nurse managers and nurse managers' competencies ： The 6th Korea China Japan Nursing Conference, 65, （Seoul・hybrid）. 松上美由紀，池西悦子，土肥美子（2022）．組織特性および上司の支援が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響:日本看護管理学会第 26 回学術集会，343，（福岡） 松上美由紀，池西悦子，土肥美子（2022）．自己決定型学習準備性と経験学習が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響：日本看護研究学会第 48 回学術集会，171，（松山）．
草野恵美子	中山貴美子，鳩野洋子，合田加代子，草野恵美子（4 人中 4 番目）（2022）．乳幼児をもつがんサバイバーである母親のエンパワメント尺度原案の作成，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド） Fumie Yamano, Emiko Kusano, Masae Ueno （2023）. Social support given and received by participants in resident-led preventive care activities：26th East Asian Forum of Nursing Scholar, 396, （Tokyo・Hybrid）
久保田正和	臼井玲華，山田晃代，中田明子，久保田正和（15 人中 11 番目）（2022）．免疫チェックポイント阻害薬治療後発症した 1 型糖尿病高齢者の終末期への支援：第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会シンポジウム，29（神戸）

久保田正和	久保里香，樋上容子，久保田正和（2022）．認知症専門外来における早期診断された認知症患者に対する看護師の支援についての実態調査：第 33 回日本老年医学会近畿地方会（大阪）
小林道太郎	小林道太郎（2022）．質的研究はどのような意味で現象学的でありうるのか，日本現象学会第 44 回研究大会（シンポジウム「他者の経験を記述すること」提題者），（オンライン）
佐々木綾子	笹野奈菜，佐々木綾子（2022）．非医療系大学生の避妊実態に関する調査研究（第一報）避妊行動・意識の実態，第 24 回日本母性看護学会学術集会抄録集，（大阪・オンライン） 笹野奈菜，佐々木綾子（2022）．非医療系大学生の避妊実態に関する調査研究（第二報）避妊知識・性教育ニーズの実態，第 24 回日本母性看護学会学術集会抄録集，（大阪，オンライン） 近澤幸，佐々木綾子（2022）．1 歳 6 か月の児をもつ母親と家族が体験した乳児の入浴における危険の背景，第 24 回日本母性看護学会学術集会抄録集，（大阪・オンライン） Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., Sasaki, A.（5 人中 5 番目）（2023）. Review of depression and related factors among pregnant women during the COVID-19 pandemic, 26nd East Asian Forum of Nursing Scholars,（Tokyo/Hybrid）
鈴木久美	鈴木久美，南口陽子，山中政子，他（2022）．中学校・高等学校の教員のがんに対する意識およびがん教育への取り組み，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド） 南口陽子，鈴木久美，山中政子，他（2022）．日本の中学生と高校生におけるがんの意識とがん教育への認識，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド） 植村未奈子，鈴木久美（2023）．母親の乳がんを伝えた後の思春期の子どもの反応と患者の子どもへの関わり，第 37 回日本がん看護学会学術集会，112，（横浜・ハイブリッド） 土井智生，鈴木久美，南口陽子，他（2023）．中高生の子をもつ親のがんに対する認識およびがん検診受診行動と関連要因に関する研究，第 37 回日本がん看護学会学術集会，192，（横浜・ハイブリッド） 鈴木久美，南口陽子，泊祐子，他（2023）．Family-based approach を用いたがんおよび生活習慣病予防教育の内容と成果：文献レビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，193，（横浜・ハイブリッド） 鈴木久美，山中政子，南口陽子，他（2023）．中学校・高等学校の教員のがんに対する意識およびがん検診受診行動との関連要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，194，（横浜・ハイブリッド） 南口陽子，鈴木久美，山中政子，他（2023）．日本の中学生と高校生におけるが

鈴木久美	んに対する意識とその関連要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，195，（横浜・ハイブリッド） 山中政子，鈴木久美，南口陽子，他（2023）．中学校および高等学校の教員のがん教育への認識と影響要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，196，（横浜・ハイブリッド） 田村沙織，荒尾晴惠，山本瀬奈，鈴木久美（4 人中 4 番目）（2023）．成人がん患者のレジリエンスに関する国内文献のレビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，209，（横浜・ハイブリッド） 喜多下真理，鈴木久美（2023）．がん薬物療法を受けるがん患者の希望の関連因子：システマティックレビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，210，（横浜・ハイブリッド） 山本桂子，鈴木久美（2023）．血液がんと診断され化学療法を受けている患者の病気・治療の認知と困難：文献レビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，211，（横浜・ハイブリッド） 天野功士，鈴木久美（2023）．前立腺全摘除術後がん患者の下部尿路症状に対する自己管理の実態，第 37 回日本がん看護学会学術集会，261，（横浜・ハイブリッド） 飯田真実子，鈴木久美（2023）．治療を受けている婦人科がん患者のセクシュアリティに関する困難と対処：文献レビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，263，（横浜・ハイブリッド）
竹村淳子	州崎悦代，竹村淳子（2022）．児童心理治療施設に入所する被虐待経験のある中学生の身体症状の訴えに対する職員の認識，日本小児看護学会第 32 回学術集会，133.（福岡・ハイブリッド） 枝川千鶴子，竹村淳子，泊祐子（2022）．在宅移行初期の医療的ケア児の体調管理をする母親を支援するために訪問看護師が用いるアセスメントツールの使用可能性の検討，日本看護研究学会第 48 回学術集会，186.（松山・ハイブリッド） 泊祐子，竹村淳子，岡田摩理，他（2022）．医療的ケア児と家族を支える多職種チームのあり方と課題，日本看護研究学会第 48 回学術集会講演集，P81.（松山・ハイブリッド） 竹村淳子，真継和子，泊祐子，他（2022）．コロナ禍での家族支援をめぐって看護師が感じた課題，日本家族看護学会第 29 回学術集会.（福岡・ハイブリッド） 玉川あゆみ，竹村淳子（2022）．自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成，日本看護科学学会第 42 回学術集会講演集（広島・ハイブリッド） 古株ひろみ，泊祐子，竹村淳子，他（2022）．専門職による重症心身障害児の体調変化への気づきの視点，日本看護科学学会第 42 回学術集会講演集.（広島・ハイブリッド）

津田泰宏	土井智生，鈴木久美，南口陽子，津田泰宏（11 名中 5 番目）（2023）．中学生や高校生の子をもつ親のがんに対する認識およびがん検診受診行動と関連要因に関する研究，第 37 回がん看護学会学術集会，（横浜・ハイブリッド） 南口陽子，鈴木久美，山中政子，津田泰宏（11 名中 5 番目）（2023）：日本の中学生と高校生におけるがんに対する意識とその関連要因，第 37 回がん看護学会学術集会，（横浜・ハイブリッド） 山中政子，鈴木久美，南口陽子，津田泰宏（11 名中 6 番目）（2023）：中学校および高等学校の教員のがん教育への認識と影響要因の関連性，第 37 回がん看護学会学術集会，（横浜・ハイブリッド） 鈴木久美，山中政子，南口陽子，津田泰宏（11 名中 6 番目）（2023）：中学校・高等学校の教員のがんに対する意識およびがん検診受診行動との関連要因，第 37 回がん看護学会学術集会，（横浜・ハイブリッド）
飛田伊都子	中村祥子，飛田伊都子，住友順子，他（2022）．回復期リハビリテーション病院入院中の高次脳機能障害患者における内服自己服用行動の阻害要因の検討：第 7 回医療行動分析学研究会，（オンライン） 峯尾千恵，飛田伊都子，戸田満秋，他（2022）．病棟看護師における点滴投与時の患者誤認防止に関する研究　バーコード認証システム使用の遵守率向上に向けた介入の有効性検証：第 7 回医療行動分析学研究会，（オンライン） 空間美智子，飛田伊都子，池西悦子，他（2022）．看護師のリフレクション学習における言語行動の分析：非言語コミュニケーションの機能分析の試み：日本行動分析学会第 40 回年次大会，80，（小倉・ハイブリッド） 飛田伊都子，池西悦子，空間美智子，他（2022）．看護リフレクション場面におけるファシリテーターと学習者の相互作用の行動分析：日本看護研究学会第 48 回学術集会，164，（松山） Shibata, T., Tobita, I., Kano, T., et al. （2022）. Factors associated with incident levels of falls in patients with stroke in the field of convalescent rehabilitation: The International Forum on Quality and Safety in Healthcare, （Sydney・Hybrid） 中村かおる，飛田伊都子，大石雅子，他（2022）．回復期リハビリテーション病棟入院中の患者の視点で測る「医療の質」の調査研究：第 17 回医療の質・安全学会学術集会，（神戸）
真継和子	東みゆき，真継和子（2022）．在宅療養高齢者の家族介護者による不適切な介護を察知した訪問看護師の視点，第 27 回日本在宅ケア学会学術集会，（東京・ハイブリッド） 三原綾，真継和子（2022）．人生の終焉を生きる場の選択におけるがん終末期高齢患者と家族の合意に向けた看護実践，日本看護研究学会第 48 回学術集会，（松山・ハイブリッド） 竹村淳子，真継和子，泊祐子，他（2022）．コロナ禍での家族支援をめぐって看護師が感じた課題，日本家族看護学会第 29 回学術集会，（福岡・ハイブリッド）

安田稔人	Toshito Yasuda（2022）. Surgical Treatment for Chronic Achilles Tendon Rupture. The 7th Triennial International Federation of Foot & Ankle Societies （IFFAS） Scientific Meeting. （Santiago, Chile, ハイブリッド） Toshito Yasuda（2022）. Clinical outcomes of conventional non-surgical treatment for acute rupture of the Achilles tendon: Is early functional rehabilitation necessary? The 66th Annual Congress of the Korean Orthopaedic Association. （Seoul, South Korea, ハイブリッド） 安田稔人（2022）．アキレス腱付着部症，足底腱膜炎の保存治療と限界．第 95 回日本整形外科学会学術総会（神戸市，ハイブリッド）
瓜﨑貴雄	瓜﨑貴雄（2022）．自殺未遂患者の看護についての教育プログラムに関する文献検討，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド）
カルデナス暁東	カルデナス暁東（2022）．SLE 成人期女性患者のベネフィット・ファインディングの獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築：第 42 回日本看護科学学会学術集会，131，（広島・ハイブリッド）
川北敬美	Kawakita, T., Hosoda, Y.（2023）. Effects of Work-Family Enrichment on Intentions to Leave Work among Female Nurses Raising Preschool Children, EAFONS 2023, （Tokyo）
鈴木美佐	平田美紀，流郷千幸，村井博子，鈴木美佐（4 人中 4 番目）（2022）．PMEC スタッフ研修会受講者のプレパレーションに関する意識と行動の変化，第 42 回日本看護科学学会学術集会，171，（広島・ハイブリッド） 竹村淳子，真継和子，泊祐子，鈴木美佐（11 人中 9 番目）（2022）．コロナ禍での家族支援をめぐって看護師が感じた課題，日本家族看護学会第 29 回学術集会．（福岡・ハイブリッド）
寺口佐與子	寺口佐與子，赤澤千春，塗隆志，田中智人（2022）．婦人科悪性腫瘍術後患者のリンパ浮腫予防のセルフケア：第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会，（東京）
土肥美子	Kitajima Y , Doi Y.（7 名中 4 番目）(2023). Factors associated with improving the workplace competence of educational instructors who support nursing learners, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars （Tokyo, Web.） 土肥美子，細田泰子（2022）．看護系大学に所属する若手教員の看護大学教員能力における学習ニーズの傾向， 第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島 Web.） 細田泰子，勝山愛，根岸まゆみ，土肥美子（7 名中 4 番目）（2022）．看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討，第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島，Web.） 金山悠，細田泰子，勝山愛，土肥美子（7 名中 7 番目）（2022）．看護学生にお

土肥美子	ける臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み, 第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島，Web.） Matsukami, M., Ikenishi, E., Doi, Y. （2022）. Relationships between individual/organizational attributes of assistant nurse managers and nurse manager competencies，The 6th Korea China Japan Nursing Conference（Web.） 松上美由紀，池西悦子，土肥美子（2022）．組織特性および上司の支援が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響， 第 26 回日本看護管理学会学術集会（福岡） 勝山愛，細田泰子，根岸まゆみ，土肥美子（7 名中 6 番目）（2022）．教育指導者における経験学習の関連要因と背景的特徴の検討，日本看護学教育学会第 32 回学術集会（Web.） 片山由加里，細田泰子，勝山愛，土肥美子（7 名中 4 番目）（2022）．教育指導者の新人看護師と看護学生への 学習支援に関連する背景的特徴，日本看護学教育学会第 32 回学術集会（Web.） Doi, Y., Hosoda, Y. （2022）. Educational support that contributes to building and enhancing the junior faculty members' competency, The 33rd International Nursing Research Congress （Edinburgh, Scotland; Web.） Hosoda, Y., Negishi, M., Akasaki, F., Doi, Y.（8 名中 6 番目）（2022）. Assessing the reliability of the Japanese version of the Lasater Clinical Judgment Rubric, The 33rd International Nursing Research Congress （Edinburgh, Scotland; Web.） Kitajima, Y., Negishi, M., Katayama, Y., Doi, Y.（8 名中 6 番目）（2022）. A qualitative analysis of the Lasater Clinical Judgment Rubric: Japanese version by nursing students, The 33rd International Nursing Research Congress （Edinburgh, Scotland; Web.）
二宮早苗	Ninomiya, S., Okayama, H., Naito, K. （2023）. An assessor-blinded randomized control trial of effects for posturing of hip external rotation and posterior pelvic tilt versus conventional pelvic floor muscle training in women with symptoms of stress urinary incontinence, 17th World Congress on Human Reproduction, （Venezia）
樋上容子	久保里香，樋上容子，久保田正和（2022）．認知症専門外来における早期診断された認知症患者に対する看護師の支援についての実態調査. 第 33 回日本老年医学会近畿地方会（大阪）
佐野かおり	佐野かおり，上杉裕子（2022）．股関節鏡視下手術を受ける患者の術前から術後 3 ヶ月の疼痛－JHEQ 疼痛評価の変化－. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 （広島・ハイブリッド）

佐野かおり	内海桃絵，上杉裕子，竹下悠子，佐野かおり（9 人中 6 番目）（2022）．研究力を上げる，実践力を磨く，抄読会のあり方を考える．第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島・ハイブリッド）
竹　明美	Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., Take, A., et al.（4 人中 4 番目）（2023）. Review of depression and related factors among pregnant women during the COVID-19 pandemic, 26nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo（WEB.） 竹明美，原明子，佐藤都也子，他（2022）．ライフサイクルと活動の場でつなぐタッチケア３－ウイズ COVID-19　変わったこと，変えてはいけないこと－，交流集会，広島. 佐藤都也子，権藤恭之，竹明美，他（2022）．中高年者の「せん妄・術後せん妄」の認知度と「術後せん妄」発症予測時の態度，日本老年医学会雑誌，59，127，大阪. 佐藤都也子，権藤恭之，石川久美子，竹明美（6 人中 4 番目）（2022）．中高年者の「術後せん妄」発症予測時の態度と主観的健康統制感の関連，老年社会科学，44（2），p193.　（2022.06）
近澤　幸	Manaka, M., Sasano, N., Chikazawa, S., et al.（2023）. Review of depression and related factors among pregnant women during the COVID-19 pandemic, 26nd East Asian Forum of Nursing Scholars,（Tokyo・WEB.） 近澤幸，佐々木綾子（2022）．1 歳 6 か月の児をもつ母親と家族が体験した乳児の入浴における危険の背景，第 24 回日本母性看護学会学術集会，62，（大阪・オンライン）
山埜ふみ恵	Yamano, F., Kusano, E., Ueno, M.（2023）　Social support given and received by participants in resident-led preventive care activities: 26th East Asian Forum of Nursing Scholar, 396,　（Tokyo, Web.）
赤崎芙美	Akasaki, F., Hosoda, Y.（2022）. Assessing the content validity of a self-assessment scale on knowledge brokering for nurses, The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference（オンライン） Akasaki, F., Hosoda, Y.（2022）. Face and content validity of a self-assessment scale on knowledge brokering for Nurses, The 33rd International Nursing Research Congress（オンライン） Hosoda, Y., Negishi, M., Akasaki, F.,（2022）. Assessing the reliability of the Japanese version of the Lasater Clinical Judgment Rubric, The 33rd International Nursing Research Congress（オンライン） Kitajima, Y., Negishi, M., Katayama, Y., Akasaki, F.（8 人中 5 番目）（2022）The 33rd International Nursing Research Congress　（オンライン）
勝山あづさ	Katsuyama, A.（2022）. Literature Review on Eye Tracking Studies Focusing on Nurses, The 7th International Nursing Research Conference of World

勝山あづさ	Academy of Nursing Science, （Taipei・Hybrid） 勝山あづさ，石井豊恵（2022）．連携研究・産学連携工程に関連する課題調査，第 21 回日本生活支援工学会大会（北海道・オンライン） 土井智生，山本暁生，杣木佐知子，勝山あづさ（5 人中 4 番目）（2022）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い，第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島・ハイブリッド）
倉橋理香	竹村淳子，真継和子，泊祐子，倉橋理香（11 人中 10 番目）（2022）．コロナ禍での家族支援をめぐって看護師が感じた課題，日本家族看護学会第 29 回学術集会，交流集会 10（福岡） 土井智生，山本暁生，杣木佐知子，倉橋理香（5 人中 5 番目）（2022）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ，第 42 回日本看護科学学会学術集会，WEB.発表（広島）
笹野奈菜	笹野奈菜，佐々木綾子（2022）：非医療系大学生の避妊実態に関する調査研究（第一報）避妊行動・意識の実態，第 24 回日本母性看護学会学術集会抄録集，（高槻・オンライン） 笹野奈菜，佐々木綾子（2022）：非医療系大学生の避妊実態に関する調査研究（第二報）避妊知識・性教育ニーズの実態，第 24 回日本母性看護学会学術集会抄録集，（高槻・オンライン） Maiko M. Nana, S., Sachi, C., et al. （2023）. Review of depression and related factors among pregnant women during the COVID-19 pandemic, 26nd East Asian Forum of Nursing Scholars, （Tokyo・WEB.）
柴田佳純	柴田佳純，大村優華，山本優子，他（2022）．膠原病患者に対する外来での看護実践に関する国内文献検討：日本看護科学学会　第 42 回学術集会，（広島・ハイブリッド）
杣木佐知子	Somaki, S., Majima, Y., Masuda, S. (2022) . Development of Human Resource Promotional Tool to Visualize Skills Acquired by Newcomer Nurses at Home-Visit Nursing Stations in Japan，IIAI AAI 2022（金沢・ハイブリッド） 真嶋由貴惠，中村裕美子，杣木佐知子（2022）．DX の時代に，新・看護実習サポートシステム CanGo5.0 の果たす役割，日本看護研究学会第 48 回学術集会（愛媛・ハイブリッド） 真嶋由貴惠，中村裕美子，桝田聖子，杣木佐知子（4 人中 4 番目）（2022）．Society5.0 時代の看護技術教育システムについて考える，第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島・ハイブリッド） 土井智生，山本暁生，杣木佐知子（2022）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い，第 42 回日本看護科学学会学術集会（広島・ハイブリッド）

土井智生	土井智生，山本暁生，杣木佐知子，他（2022）．カメラ機能の有無によるオンライングループワークへの看護学生の取り組み方の違い：パイロットスタディ：日本看護科学学会第 42 回学術集会，（広島・ハイブリッド） 土井智生，鈴木久美，南口陽子，他（2023）．中高生の子をもつ親のがんに対する認識およびがん検診受診行動と関連要因に関する研究，第 37 回日本がん看護学会学術集会，192，（横浜・ハイブリッド） 鈴木久美，南口陽子，山中政子，土井智生（8 人中 7 番目）（2022）．中学校・高等学校の教員のがんに対する意識およびがん教育への取り組み，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド） 南口陽子，鈴木久美，山中政子，土井智生（8 人中 4 番目）（2022）．日本の中学生と高校生におけるがんの意識とがん教育への認識，第 42 回日本看護科学学会学術集会，（広島・ハイブリッド） 鈴木久美，南口陽子，泊祐子，土井智生（11 人中 9 番目）（2023）．Family based approach を用いたがんおよび生活習慣病予防教育の内容と成果：文献レビュー，第 37 回日本がん看護学会学術集会，193，（横浜・ハイブリッド） 鈴木久美，山中政子，南口陽子，土井智生（11 人中 5 番目）（2023）．中学校・高等学校の教員のがんに対する意識およびがん検診受診行動との関連要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，194，（横浜・ハイブリッド） 南口陽子，鈴木久美，山中政子，土井智生（11 人中 4 番目）（2023）．日本の中学生と高校生におけるがんに対する意識とその関連要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，195，（横浜・ハイブリッド） 山中政子，鈴木久美，南口陽子，土井智生（11 人中 5 番目）（2023）．中学校および高等学校の教員のがん教育への認識と影響要因，第 37 回日本がん看護学会学術集会，196，（横浜・ハイブリッド）
堀池　諒	堀池諒，板谷智也，中井寿雄（2022）．GIS と人流データおよび PLATEU による 滞在人口の経年比較，第 81 回日本公衆衛生学会総会（山梨・ハイブリッド） 堀池諒（2022）．保健師活動における EBPM（Evidence Based Policy Making）推進のための実践研究，第 81 回日本公衆衛生学会総会（山梨・ハイブリッド） 中井寿雄，下野明日香，松本祐佳里，堀池諒，板谷智也（2022）．南海トラフ地震により津波が想定される地域における津波避難タワーの避難環境と地理的分布，第 4 回日本在宅医療連合学会大会（神戸・ハイブリッド） 板谷智也，中井寿雄，堀池諒（2022）．COVID-19 流行による外出頻度や活動の変化に関する実態調査，第 81 回日本公衆衛生学会総会（山梨・ハイブリッド）
間中麻衣子	Manaka, M., Sasano, N,, Chikazawa, S., et al. （2023）. Review of depression and related factors among pregnant women during the COVID-19

間中麻衣子	pandemic：26nd East Asian Forum of Nursing Scholars（東京・ハイブリッド） Manaka, M., Akatsuka, N., Miyawaki, K., Mita, I. （2023）. Mental health and desired support among pregnant women during the COVID-19 pandemic in Japan. : 26nd East Asian Forum of Nursing Scholars（東京・ハイブリッド） 阪本敦子，福井威夫，間中麻衣子（2022）．COVID-19 患者が高流量鼻カニュラ治療から離脱する目安．第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，207，（幕張・ハイブリッド） 藤谷萌，石井志摩，河野加代子，間中麻衣子（5 人中 4 番目）（2022）．新型コロナウイルス感染症専門病棟における終末期患者のリモート面会に対する看護師の考えと今後の課題：第 53 回日本看護学会学術集会，176，（幕張・ハイブリッド） 澤田愛， 川崎志帆， 間中麻衣子， 松上令子， 平林円（2022）．産後 2 週間健診および 1 ヶ月健診での EPDS の実態　BFH 認定病院でのメンタルヘルスケアの課題．第 18 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集，57，（新潟・ハイブリッド） 津田真弥子，山田惠美子，井上靖子，間中麻衣子（6 人中 5 番目）（2022）．新型コロナウイルス感染症患者入院区域で防護服の違いで感じる看護師の負担比較：第 53 回日本看護学会学術集会，133，（札幌・ハイブリッド） 安永えりか，間中麻衣子（2022）．減災カレンダーHDMG を用いた災害対策教育の効果．第 27 回日本災害医学会総会・学術集会，381，（広島・ハイブリッド）

研究活動/【その他】

草野恵美子	岸恵美子，吾郷美奈恵，井倉一政，草野恵美子（9 人中 5 番目）（2022）．ワークショップ「日本公衆衛生看護学会認定専門家認証制度が始まりました！～申請に向けた疑問を解決！日頃の活動成果を可視化しましょう～【JAPHN 専門家認証制度委員会】」，第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会，（仙台・ハイブリッド）
久保田正和	久保田正和（2022）．心理・行動，看護学から見た人間理解：第 17 回関西大学・大阪医科薬科大学医工薬連環科学教育研究機構シンポジウム（大阪）
小林道太郎	小林道太郎（2022）．書評「マイケル・スロート著 早川正祐・松田一郎訳 ケアの倫理と共感 勁草書房」，図書新聞，3537，5.
佐々木綾子	佐々木綾子，近澤幸，竹明美（2022）．4 か月児を育てる母親・父親のコロナ禍における妊娠・出産体験が育児に及ぼす影響の実際，大阪医科薬科大学コロナ特設ページ（HP）
鈴木久美	鈴木久美，南口陽子（2023）．がん患者と QOL　QOL，がん看護，28（3），221-224. 鈴木久美（2022）．Part 2 各科目についての考察 ⑥成人看護学～改定委員の立場から～，看護展望，47（9），59-62.
安田稔人	安田稔人（2022）．アキレス腱断裂治療の最近のトピックス，整形外科，73 巻，5 号，463-467. 安田稔人（2022）．腱・靭帯損傷に対するリハビリテーション治療，臨床スポーツ医学，39 巻，5 号，546-547.
瓜﨑貴雄	瓜﨑貴雄（2022）．救急患者・家族の心のアセスメントに役立つ理論と技法，Emer Log，35（6），752-759，メディカ出版.
カルデナス暁東	カルデナス暁東（2022）．教育講演　「わたしらしく生きるためのメイクセラピー」,第 40 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会，200，（東京都・虎ノ門ヒルズフォーラム）
大橋尚弘	大橋尚弘（0000）多職種連携～より良いチーム医療を目指して～，ナーシング・スキルライト 動画講義シリーズ，エルゼビア・ジャパン.
鈴木美佐	池西静江，大江真吾，田中公章，鈴木美佐（55 人中 7 番目）（2022）．小児看護学領域，メディカコンクール　第 112 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカ出版，大阪. 池西静江，田中公章，佐々木綾子，鈴木美佐（34 人中 6 番目）（2023）．小児看護学領域，メディカコンクール 2024 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト，メディカ出版，大阪.
寺口佐與子	寺口佐與子（2023）．がん患者のむくみ・リンパ浮腫．アセスメントのポイントとセルフチェック指導のコツ，がんナーシング，13（2），14-19，メディカ.
樋上容子	樋上容子（2022）．ベッド上の体動は疼痛のサイン（特集イノベーション研究を始めよう-テクノロジーが拓く看護ケアの可能性）．看護研究．55（4），376-383.

樋上容子	樋上容子，山内彩香，Kristen Abbott-Anderson，他（2022）．新型コロナウイルス流行下での施設入所する認知症患者の家族介護者の介護に関する経験ーグラウンデットセオリーアプローチを用いた国際共同研究．大和証券ヘルス財団研究業績集，45.
竹　明美	佐々木綾子，近澤幸，竹明美（2022）．4 か月児を育てる母親・父親のコロナ禍における妊娠・出産体験が育児に及ぼす影響の実際，大阪医科薬科大学コロナ特設ページ（HP）
近澤　幸	佐々木綾子，近澤幸，竹明美（2022）．4 か月児を育てる母親・父親のコロナ禍における妊娠・出産体験が育児に及ぼす影響の実際，大阪医科薬科大学コロナ特設ページ（HP）
勝山あづさ	勝山あづさ（2022）．ICU 早期リハビリテーション実施に向けた教育プログラムの開発，日本私立学校振興・共済事業団 第 4 回若手・女性研究者奨励金研究レポート，197 - 199.
山内彩香	樋上容子，山内彩香，Anderson, K., et al.（2022）．新型コロナウイルス流行下での施設入所する認知症患者の家族介護者の介護に関する経験ーグラウンデットセオリーアプローチを用いた国際共同研究．大和証券ヘルス財団研究業績集，45.

Ⅴ．　社会活動

社会活動

赤澤千春	日本看護科学学会　評議員　査読委員 日本看護研究学会　評議員　査読委員 日本看護学教育学会　査読委員 日本移植・再生医療看護学会　理事長
荒木孝治	大阪精神医療センター　治験審査委員会　外部委員 大阪精神医療センター　臨床研究倫理審査委員会　外部委員 日本看護研究学会　評議員 PAS セルフケアセラピィ看護学会　理事 PAS セルフケアセラピィ看護学会　学会誌編集・研究促進委員会　委員長 PAS セルフケアセラピィ看護学会　第 5 回大会　大会長 日本看護科学学会和文誌　専任査読委員 日本看護研究学会誌　専任査読委員 日本精神保健看護学会誌　専任査読委員
池西悦子	日本看護研究学会　評議員 日本看護教育学会　評議員 日本看護管理学会　評議員 日本看護科学学会　代議員 日本看護研究学会誌　専任査読委員 日本看護教育学会誌　専任査読委員 医療の質・安全学会誌　査読委員 日本看護研究学会　第 48 回学術集会査読委員 医療の質・安全学会　第 17 回学術集会査読委員 第 48 回日本看護研究学会学術集会，口演座長（2022 年 8 月）（松山） 岐阜県立看護大学大学院　非常勤講師 愛知県臨地実習指導者講習会　講師 大阪府看護協会　新人看護職員教育担当者研修　講師 京都私立病院協会　中間管理職研修　講師
草野恵美子	日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」査読委員 日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員 日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員 日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員 日本小児保健協会若手による小児保健検討委員会委員 日本地域看護学会教育委員会委員 全国保健師教育機関協議会教育課程委員 日本公衆衛生看護学会専門家認証制度委員会委員 大阪府看護協会保健師職能委員会委員 公益社団法人日本小児保健協会　第 7 回多職種のための乳幼児健診講習会，講師，

草野恵美子	「発達の遅れの指摘からのフォローアップ～基本的な考え方と事例紹介～」，オンライン（2022 年 9 月 11 日） 藍野大学「地域ケアシステム」「地域ケアの質の管理」「地域包括ケアシステム」，特別講師（2022 年 6 月 9 日） 大阪市鶴見区保健福祉センター　研究指導協力 大阪市中央区保健福祉センター　研究指導協力 大阪市阿倍野区保健福祉センター　研究指導協力
久保田正和	高槻市介護認定審査会委員 糖尿病スキルアップセミナー世話人 京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師 はくほう会医療専門学校非常勤講師 認知症専門職人材育成プロジェクト委員会 高槻市地域包括ケア推進会議委員 日本老年看護学会雑誌査読委員 日本老年看護学会第 28 回学術集会査読委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌査読委員
小林道太郎	滋賀県立大学人間看護学部公開講座「看護にいかす現象学」講師（2022 年 9 月 20 日）（ハイブリッド） 臨床実践の現象学会　事務局・編集委員長 中部哲学会　常任委員・編集委員 日本看護倫理学会　査読委員
佐々木綾子	**【査読】** 大阪医科薬科大学看護研究雑誌 日本母性看護学会誌 大阪医科薬科大学医学会誌 **【セミナー担当】** 福井愛育病院看護研究発表会講評（2022 年 12 月 20 日）（オンデマンド） 大阪府看護協会「後輩育成のための役割と知識　成人学習プロセスの実際」（2022 年 7 月 6 日） **【その他】** 日本母性看護学会　会計理事 日本母性看護学会査読委員 一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業選考委員会 JST創発的研究支援事業書類選考委嘱 第24回日本母性看護学会学術集会長 第 36 回日本母性衛生学会学術集会　座長
鈴木久美	日本がん看護学会代議員・理事 日本がん看護学会将来構想推進委員会委員

鈴木久美	日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会評議員 日本がん看護学会誌専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員 日本慢性看護学会誌専任査読委員 日本看護学会学術集会抄録選考委員 BMC Psychiatry peer reviewer Supportive care in cancer peer reviewer 第 37 回日本がん看護学会学術集会，会長講演座長（2023 年 2 月）（横浜） 第 37 回日本がん看護学会学術集会，教育セミナー座（2023 年 2 月）（横浜） 第 37 回日本がん看護学会学術集会企画委員会委員 第 38 回日本がん看護学会学術集会企画委員会委員長 愛知県立大学大学院非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師 がん薬物療法看護認定看護師教育課程非常勤講師 公益社団法人日本看護協会 神戸研修センター認定看護師教育課程教員会委員 一般社団法人日本看護系大学協議会データベース委員会委員 一般社団法人日本看護学教育評価機構評価委員会委員 公益財団法人大阪対がん協会 2022 年度がん研究助成奨励金選考委員会委員
竹村淳子	日本看護協会通常総会参加（大阪府代表）（2022 年 6 月 8,9 日）（千葉）. 日本家族看護学会誌　専任査読者 大阪医科大学看護研究雑誌査読者 日本小児看護学会誌査読者 日本小児看護学会第 34 回学術集会企画委員 家族看護研究会の主催　定期開催運営（5 月 30 日，7 月 28 日，10 月 27 日，12 月 23 日，2 月 6 日） 家族看護研究セミナー開催（本学・ハイブリッド）　2 月 23 日 学士課程教育に関する研究会　定例会開催（4 月 17 日，9 月 18 日，10 月 13 日，10 月 23 日，12 月 27 日，1 月 4 日） 看保連ワーキング（障がい児プロジェクト）研究会　定例会開催 小児看護研究会（大学院生合同ゼミ）（6 月 4 日，8 月 7 日，10 月 16 日，12 月 17 日） CNS 勉強会（11 月 18 日）
津田泰宏	日本内科学会認定内科医　総合内科専門医　指導医 日本消化器病学会専門医　近畿支部評議員　指導医 日本肝臓学会認定専門医　西部会評議委員　指導医 米国免疫学会会員 米国肝臓学会会員

津田泰宏	京都橘大学　健康科学部「臨床病態学」　非常勤講師 大阪保健医療大学　「内科学」「臨床検査医学」　非常勤講師 関西福祉科学大学　「病理学」非常勤講師 大阪信愛学院大学　「疾病治療論Ⅰ」非常勤講師 看護学系漢方教育研究会　世話人
土手友太郎	高槻市役所産業医 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員 高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員 高槻市ホテル等建築審議会委員 高槻市都市開発審議会委員厚生労働省医員（大阪検疫所） 日本職業災害医学会評議員 日本衛生学会評議員
飛田伊都子	医療安全心理・行動学会　理事・代議員 日本腎臓リハビリテーション学会　幹事 医療行動分析学研究会　幹事 医療の質・安全学会　代議員 日本行動分析学会　代議員 医療安全実践教育研究会　世話人 医療の質・安全学会誌　編集委員会委員 日本腎臓リハビリテーション学会　編集・ガイドライン委員会委員 日本腎臓リハビリテーション学会　指導士認定制度委員会担当幹事 日本腎不全看護学会誌　査読委員 第 17 回医療の質・安全学会学術集会 査読委員 第 17 回医療の質・安全学会学術集会 ベストプラクティス賞 審査員 令和 4 年度 京都府看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 講師 看護サービスの質管理（2022 年 6 月 6 日） 第 1 回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会兼腎臓リハビリテーション指導士試験受験講習会 講師 サステナブルな運動介入のための工夫（2022 年 7 月 31 日）（オンライン） 第 2 回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会 講師 サステナブルな運動介入のための工夫（2022 年 10 月 30 日）（オンライン） 第 30 回日本慢性期医療学会 座長 シンポジウムテーマ：ヒトはなぜ互いに会話するのか 行動分析学からみたコミュニケーション(2022 年 11 月 18 日)（京都） 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会 シンポジスト　ジョイントシンポジウム 4：腎臓リハビリテーションのエビデンス（2023 年 3 月 18 日）（埼玉） 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会　教育講演 座長：腎臓リハビリテーションと多職種連携（2023 年 3 月 19 日）（埼玉）

飛田伊都子	令和 4 年度新入職者導入教育プログラム 講師 リスクマネジメントの基礎　大阪医療福祉専門学校視能訓練士学科（2023 年 2 月 24 日） 令和 4 年度新入職者導入教育プログラム 講師 リスクマネジメントの基礎　大阪ハイテクノロジー専門学校 鍼灸スポーツ学科（2023 年 2 月 27 日） 滋慶医療科学大学大学院　特任教授・非常勤講師 京都大学大学院　非常勤講師 奈良県立医科大学　非常勤講師 日本大学大学院　非常勤講師
真継和子	日本看護研究学会近畿・北陸地方会　世話人 日本看護研究学会近畿・北陸地方会　幹事 日本家族看護学会　専任査読委員 日本看護学教育学会　専任査読委員 ヒューマンケア研究学会誌　専任査読委員 第 24 回日本母性看護学会学術集会企画委員会委員 第 38 回日本がん看護学会学術集会企画委員会委員 日本看護系大学協議会 JUNP ナースプラクティショナー資格認定委員会 委員 四條畷学園大学看護学部「家族看護学」非常勤講師 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科「家族看護学」非常勤講師 大阪府看護協会教員養成講習会「看護論」講師 大阪府看護協会教員養成講習会「看護論演習」講師 京都私立病院協会 看護中間管理者研修 I （主任コース）「看護倫理」講師 社会医療法人愛仁会高槻病院看護部「看護研究」研究指導 三島ブロック訪問看護ステーション事例発表会　講師
安田稔人	日本整形外科学会専門医資格委員会委員長 日本足の外科学会理事（認定医委員会担当理事） 日本整形外科スポーツ医学会代議員 日本靴医学会評議員 中部日本整形外科災害外科学会評議員 関西臨床スポーツ医・科学研究会幹事 関西関節鏡・膝研究会幹事 近畿足の外科症例検討会世話人 American Academy of Orthopaedic Surgeons （AAOS） international member, American Orthopaedic Foot and Ankle Society （AOFAS） international member, Editorial Board Member of Journal of Orthopaedic Science. 日本整形外科学会整形外科専門医 スポーツ医 リウマチ医

安田稔人	運動器リハビリテーション医 日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター 【講演】 安田稔人（2022）．これからのアキレス腱断裂診療－成績向上のために必要なこと－．第 30 回北海道下肢と足部疾患研究会（札幌市，ハイブリッド） 安田稔人（2023）．アキレス腱付着部症ならびにアキレス腱実質部障害—保存療法を中心に－，第 3 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（奈良市，ハイブリッド） 安田稔人（2023）．これからのアキレス腱断裂の診療—腱延長を最小限に留めるために－，第 12 回広島足の外科研究会（広島市，ハイブリッド） 【座長】 第 47 回日本足の外科学会学術集会（松山市），シンポジウム 4（足の運動療法の新展開） 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会（宮崎市），一般演題（バイオメカニクス）
瓜﨑貴雄	日本自殺予防学会機関誌「自殺予防と危機介入」　査読 PAS セルフケアセラピィ看護学会　第 5 回大会　大会事務局 日本精神科看護協会大阪府支部　看護研究発表会　評価（査読）委員 大阪府看護協会　クリティカルケア認定看護師教育課程「患者および家族の心理・社会的アセスメント」　非常勤講師 2022 年度大阪医科薬科大学リカレント教育プログラム卒業生のホームカミングデー　「職場におけるストレスマネジメント」　講師
大橋尚弘	日本腎不全看護学会　専任査読委員 日本腎不全看護学会　CKD 委員会委員 日本腎不全看護学会　研究委員会委員 日本移植・再生医療看護学会　専任査読委員 日本移植・再生医療看護学会　選挙管理委員 日本移植・再生医療看護学会　第 18 回日本移植・再生医療看護学会学術集会実行委員長 大阪医科薬科大学看護研究雑誌（査読）
カルデナス暁東	日本慢性看護学会専任査読委員 市立柏原病院看護研究講師 留日中国人生命科学協会理事 シンメディカル糖尿病セミナー世話人 雑誌『医学と生物学　(Medicine and Biology)』査読
川北敬美	日本看護科学学会和文誌　専任査読委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌　査読者 甲南女子大学看護リハビリテーション学部「看護管理学」非常勤講師

鈴木美佐	聖泉看護学研究　査読委員 関西福祉大学　「小児看護学援助法」非常勤講師 聖泉大学看護学部　「家族論」非常勤講師 大阪医科薬科大学　家族看護研究会　研究会 運営（5 月，7 月，10 月，12 月，2 月開催） 家族看護学セミナー　運営（本学・ハイブリッド）（2023 年 2 月開催） 大阪医科薬科大学 小児看護研究会（大学院生合同ゼミ）（6 月，8 月，10 月，12 月開催） CNS 勉強会（11 月開催）（本学） PMEC プロジェクト（子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和）　PMEC 研修会企画・運営（11 月，2023 年 1 月）
寺口佐與子	一般社団法人 日本看護系大学協議会会員校 関西・近畿ブロック災害連携教員 日本移植・再生医療看護学会　会計理事　評議員　事務局 同　査読委員 日本リンパ浮腫治療学会　評議員 第 17 回日本移植・再生医療看護学会学術集会　座長・査読委員 第 18 回日本移植・再生医療看護学会　学術集会　大会長（2023 年開催予定） リンパ浮腫 Net　副代表
土肥美子	日本看護科学学会和文誌専任査読委員
二宮早苗	看護理工学会：評議員，広報委員（ニュースレター第 9 号・10 号発行），看護理工 学会誌査読委員，第 11 回看護理工学会学術集会運営委員 日本看護研究学会第 36 回近畿・北陸地方会学術集会：「論文を読もう　ジャーナルクラブ④」講師 日本シミュレーション医療教育学会誌：査読者
樋上容子	大阪大学大学院医学系研究科　招聘准教授 放送大学　非常勤講師 日本老年看護学会　日本老年看護学雑誌　査読委員 日本老年看護学会第 28 回学術集会　査読委員 日本老年医学会　日本老年医学会雑誌　査読者 The Japan Centre for Evidence Based Practice 委員
佐野かおり	日本看護研究学会近畿・北陸地方会　世話人 日本運動器看護学会研究プロジェクト委員
竹 明美	第24回日本母性看護学会学術集会　事務局（事務局長，座長） 大阪医科薬科大学看護研究雑誌（査読）
近澤 幸	第 24 回日本母性看護学会学術集会（副事務局長） 第 24 回日本母性看護学会学術集会（座長） 大阪医科薬科大学看護研究雑誌（査読） Health（review）

倉橋理香	家族看護研究会の主催　定期開催運営（2 か月に 1 回）
笹野奈菜	第 24 回日本母性看護学会学術集会（司会）
杣木佐知子	教育システム情報学会（JSiSE）査読者 医療系 e-ラーニング全国交流会（JMeL）世話人 第 17 回医療系 e-ラーニング全国交流会（JMeL）事務局 ななーるディベロップメントセンター　研究員
土井智生	日本糖尿病教育・看護学会　第 27 回学術集会，協力委員（2022 年 9 月） 日本がん看護学会　第 37 回学術集会，運営ボランティア（2023 年 2 月）
堀池　諒	講演，GIS を用いた研究の紹介と現場での活用の可能性，令和 4 年度第 3 回東北大学大学院医学系研究科公衆衛生看護学分野研究会（オンライン） 健康危機管理対策委員会委員，全国保健師教育機関協議会 選挙管理委員会，日本公衆衛生看護学会 査読：Scientific Reports, International Journal of Environmental Research and Public Health
間中麻衣子	第 24 回日本母性看護学会実行委員
山内彩香	日本精神保健看護学会　権利擁護プロジェクトメンバー

VI.　地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	大阪医科薬科大学病院形成外科外来でリンパ浮腫看護外来 看護キャリアサポートセンター　委員 「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」研修　運営委員　講師 111
池西悦子	大阪医療看護専門学校教育課程編成委員会　委員
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会協力会員 医工薬連環科学プロジェクト委員会委員
佐々木綾子	高槻地区周産期地域連携の会での活動
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人 ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティング 2022，口演座長（2022 年 7 月 24 日） 2022 年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会，講師「乳がん啓発教育に活用できる行動変容を促す理論」（2022 年 9 月 10 日） 2022 年度ピンクリボンアドバイザー上級認定研修会，講師「乳がん患者のサポートのあり方について」（2022 年 9 月 11 日） 南江堂月刊誌「がん看護」アドバイザー
竹村淳子	滋賀県立守山中学校・高等学校「総合的な探求の時間」取材受入（7 月 15 日） 新型コロナワクチン接種　ボランティア（8 月）
津田泰宏	大阪府医師会　令和 4 年度　第 3 回学術講演会　ウイルス肝炎診療の現況と今後　講師
飛田伊都子	安全行動やルールの順守率を高める望ましい行動を導く行動分析学を用いたアプローチ．オンライン講習．日創研出版
真継和子	在宅看護研究会 代表 看取りを考える研究会　代表 看取りを考えるワークショップ開催 家族看護研究会 共催（小児看護学分野主催） 倫理事例検討会（看護学研究科修了生主催）アドバイザー
安田稔人	安田稔人（2023）．アキレス腱断裂の治療～陳旧例，再断裂例を含めて～，整形外科セミナー～骨粗鬆症と足の外科～．（WEB.開催）
大橋尚弘	在宅看護研究会 メンバー 大阪医科薬科大学看護学部看護学実践研究センターカムカムサロン（企画・運営・参加）（10/26，3/8） 第 18 回たかつき NPO 協働フェスタ　大阪医科薬科大学看護学部ブース（企画・運営・参加）（9/11） 第 9 回大阪医科薬科大学 市民看護講座「“自分らしいいのちの終わりかた”を

大橋尚弘	いつ，どうやって選択するか」（企画・運営・司会） 第 6 回大阪医科薬科大学看護研究会「ビッグデータを活用した産学連携研究のすすめ方」（座長）
カルデナス暁東	高槻市健康福祉部　認知症予防講座　「カラーセラピーで認知症予防」（2022.09.26）（2022.11.24）（2023.1.6）
川北敬美	2022 年度大阪医科薬科大学看護学実践研究センター人材育成教育セミナー講師 大阪医科薬科大学ナース復職支援プログラムキャリアコーディネーター
寺口佐與子	第 21 回　リンパ浮腫 Net 定例会　世話役　（2022.5.14　ハイブリッド開催） 第 21 回　リンパ浮腫 Net 定例会　座長　（2022.5.14　ハイブリッド開催） 第 6 回　日本リンパ浮腫治療学会総会　座長　（2022.9.3　ハイブリッド開催） 第 17 回日本移植・再生医療看護学会学術集会　座長（2022.10.29　Zoom 開催） 2022 年度リカレント教育　講師　リンパ浮腫とケア 大阪医科薬科大学病院　64 病棟ミニカンファレンス講師　（2022.12.27） 大阪医科薬科大学病院　看護研究トピックス研修　講師　（2023.2.16・2023.2.28　ハイブリッド開催）
樋上容子	認知症を理解し地域で支える会　実行委員会
近澤　幸	高槻地区周産期地域連携の会（事務局） 高槻フェスタ 第 9 回大阪医科薬科大学市民看護講座
勝山あづさ	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種業務
倉橋理香	竹村淳子，真継和子，鈴木美佐，倉橋理香，泊祐子：家族看護セミナー「コロナ禍だから見直そう！！患者と家族が生で面会する意味」開催
笹野奈菜	高槻フェスタボランティア
土井智生	新型コロナウイルスワクチン接種業務（2022 年 5 月，9 月） 第 18 回たかつき NPO 協働フェスタ（2022 年 9 月） カムカムサロン運営（2022 年 10 月，2023 年 3 月）
間中麻衣子	地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立十三市民病院 研究倫理審査委員 地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立十三市民病院 研究相談委員

Ⅶ.　その他

その他

草野恵美子	公衆衛生看護技術開発研究会　世話人 日本公衆衛生看護学会認定専門家 認定（2023 年 3 月 22 日）
佐々木綾子	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」運営 大阪医科大学大学院看護学研究科　母性看護学領域修了生の会「サクラの会」運営
飛田伊都子	医療の質･安全学会 第 8 回上原鳴夫記念研究奨励賞受賞 TeamSTEPPS®の「チェックバック」 遵守率向上を目指した介入の効果 : 看護師間における行動分析学的教育プログラムの有効性の検証.
安田稔人	整形外科（足の外科）専門外来（大阪医科薬科大学病院） 名医のいる病院整形外科編 2023（医療新聞社）足疾患の名医紹介
カルデナス暁東	大阪医科薬科大学病院　「メイクセラピー看護外来」担当
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院　リンパ浮腫看護外来従事
佐野かおり	第 42 回日本看護科学学会若手優秀演題口頭発表賞
竹　明美	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」運営 大阪医科大学大学院看護学研究科　母性看護学領域修了生の会「サクラの会」運営
近澤　幸	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」 大阪医科大学大学院看護学研究科　母性看護学領域修了生の会「サクラの会」
山埜ふみ恵	日本公衆衛生看護学会認定専門家 認定（2023 年 3 月 22 日）
赤崎芙美	大阪府立大学 看護学系同窓会（白鳥会）会計
勝山あづさ	37th FunSim - J Online 2022 Fundamental Simulation Instructional Methods Course 修了
倉橋理香	「つながろう難病キャンプ in 関西」WEB.イベント
堀池　諒	奨励賞受賞，保健師活動における EBPM（Evidence Based Policy Making）推進のための実践研究，日本公衆衛生学会 ノミネート賞受賞，デジタルツインを活用した災害避難ゲーム，内閣官房主催「イチ Biz アワード」

編集後記

新型コロナウイルス感染症は 8 回のピークを経て，ワクチン接種による集団免疫の状況等から，新感染症の感染症法上の位置づけが 2023 年 5 月 8 日から 2 類から 5 類に移行し，対応への区切りをつける時期となりました．2022 年度においては以前の第 5 波まで比し，かなり多数の感染者が生じる状況となった第 6 波から第 8 波を経験しました．しかしながら，本学部においては教育研究活動および地域や社会貢献などの様々な内容について懸命に尽力して参りました．本報告書が，今後の活動や自己点検等に役立てていただければ幸いに存じます．最後に，年報作成にご協力いただいた教職員，関係者各位に深くお礼申し上げます．

大阪医科薬科大学看護学部　年報編集委員会

大阪医科薬科大学看護学部　大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
2022 年度年報

発行日　令和 5 年 7 月 31 日

発　行　大阪医科薬科大学看護学部　大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
〒569-0095　大阪府高槻市八丁西町 7-6

編　集　看護学部　年報編集委員会
土手友太郎　新田和子　土井智生　日髙朋美

制　作　知人社

OMPU